

岡山大学文明動態学研究所
文化遺産マネジメント部門

紀要 2022



2024年2月

岡山大学文明動態学研究所
文化遺産マネジメント部門



(表紙) 石匙
：津島岡大遺跡第41次調査

(裏表紙) 耳環
：津島岡大遺跡第37次調査

岡山大学文明動態学研究所
文化遺産マネジメント部門紀要

2022

2024年2月

岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門

序

岡山大学では、各キャンパスにある遺跡の調査・研究・公開と保護のため、埋蔵文化財調査研究センターを設置し、その業務にあたってきました。2022年4月に、同センターは文明動態学研究所と発展的に統合し、同研究所文化遺産マネジメント部門がセンターの担ってきた業務を行うことになりました。本紀要は埋蔵文化財調査研究センター紀要に代わるものとして、装いも新たに創刊されました。文化遺産マネジメント部門は、引き続き遺跡の調査にあたりとともに調査記録・出土資料を適切に保管し、積極的にその研究と公開に努めて参ります。

2022年度は、工学部総合研究棟新営にともなう試掘確認調査のほか、立会調査が30件実施されました。また、過去の調査報告書発行が課題であり続けていますが、津島岡大遺跡第39次調査にかかる発掘調査報告書が刊行され、その責を果たしております。さらに毎年開催してきたキャンパス発掘成果展に加え、岡山大学文明動態学研究所第1回特別展「津島から世界へ、世界から津島へ」を開催しました。津島キャンパスとその周辺の出土資料にとどまらず、メソアメリカの展示を行うなど学際的・国際的な展示を実現し、新たな組織の可能性を示すことができました。今後も調査成果ならびに研究成果の公開に勤しんでいきたいと思っております。

発掘調査を始めとする業務を遂行することができたのは、関係諸機関・学内外の多くの人から協力をいただいた結果であると認識しております。ここに感謝申し上げ、引き続きご協力を賜りますようお願いするものです。

2024年2月

岡山大学文明動態学研究所

所長 松 本 直 子

文化遺産マネジメント部門 部門長 清 家 章

岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門紀要2022

目 次

第1章 構内遺跡の調査研究

第1節 試掘・確認調査の概要

1. 総合実験研究棟（工学系）新営に伴う試掘・確認調査……………（山口雄治） 1

第2節 立会調査の概要

1. 実施状況……………（野崎貴博） 5
2. 津島地区
 - a. 総合実験研究棟（工学系）新営に伴う機械設備工事……………（野崎） 5
 - b. 複合施設（津島北）整備工事……………（野崎） 5

第3節 構内遺跡に関する研究

1. 鹿田遺跡第12次調査出土井戸枿材と規格材の復原……………（野崎） 11
2. 鹿田遺跡第12次調査出土の井戸枿類の樹種……………（能城修一） 21
3. 鹿田遺跡第20次調査出土の木製品類の樹種……………（能城） 23

第2章 調査資料の整理および公開・活用

第1節 調査資料の整理・保存処理

1. 調査資料の整理……………（木村理） 27
2. 調査資料の保存処理……………（木村） 27

第2節 調査成果の公開・活用

1. 公開・展示
 - a. 第21回岡山大学キャンパス発掘成果展「藤原摂関家殿下渡領 鹿田庄」……………（野崎） 27
 - b. 岡山大学文明動態学研究所第1回特別展「津島から世界へ、世界から津島へ」……………（野崎） 29
 - c. 岡山大学文明動態学研究所第1回特別展公開講座……………（木村） 34
2. 資料・施設等の利活用
 - a. 調査・研究への支援……………（木村） 34
 - b. 教育支援……………（木村） 35
 - c. 社会貢献……………（木村） 35

第3章 2022年度における調査・研究のまとめ……………（木村） 36

資 料

1. 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門規程・組織等…………… 37
2. 2021年度以前の調査・研究一覧…………… 40

挿 図 目 次

図1	調査地点の位置	1	図10	鹿田遺跡第12次調査井戸5 出土井戸枿材(2)	14
図2	調査区北壁断面柱状図	2	図11	複数の板材にまたがる加工痕	18
図3	本調査地点周辺の断面柱状図	3	図12	板材の幅と接合関係	18
図4	土層柱状図	5	図13	樽と土居の規格と採材方法	19
図5	調査地点詳細図	5	図14	鹿田遺跡第12次調査出土井戸枿等の 顕微鏡写真	22
図6	土層柱状図	6	図15	鹿田遺跡第20次調査出土木製品類の 顕微鏡写真	25
図7	2022年度の調査地点 -津島地区-	9~10	図16	展示見学風景	28
図8	鹿田遺跡第12次調査井戸5と 出土井戸枿材	12	図17	展示会場見取図	28
図9	鹿田遺跡第12次調査井戸5 出土井戸枿材(1)	13	図18	展示会場見取図	30
			図19	展示風景	31

表 目 次

表1	2022年度調査一覧(津島地区)	7	表6	鹿田遺跡第20次調査で出土した 木製品の樹種(1)	24
表2	鹿田遺跡第12次調査井戸4 出土木製品	15	表7	鹿田遺跡第20次調査で出土した 木製品の樹種(2)	24
表3	鹿田遺跡第12次調査井戸5 出土木製品(1)	15	表8	鹿田遺跡第20次調査出土木製品類の 樹種一覧	26
表4	鹿田遺跡第12次調査井戸5 出土木製品(2)	16	表9	2022年度分析一覧	27
表5	鹿田遺跡第12次調査で出土した中世前半 (12世紀)の井戸材の樹種	22	表10	報道機関による情報発信	32
			表11	アンケート結果(1)	32
			表12	アンケート結果(2)	33

付 図 ・ 付 表

付図1	岡山大学の位置と周辺の遺跡分布	54	付図5	2021年度以前の調査地点【3】 -三朝地区-	58
付図2	津島地区全体図	54	付図6	2021年度以前の調査地点【4】 -東山地区-	58
付図3	2021年度以前の調査地点【1】 -津島地区-	55~56	付図7	2021年度以前の調査地点【5】 -倉敷地区-	58
付図4	2021年度以前の調査地点【2】 -鹿田地区-	57			

付表1	1982年度以前の構内主要調査……………	40	付表4	埋蔵文化財調査研究センター刊行物……	51
付表2	2021年度以前の構内主要調査……………	40	付表5	文化遺産マネジメント部門刊行物…………	53
付表3	埋蔵文化財調査室刊行物……………	51			

例 言

1. 本紀要は、岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門が、岡山大学構内において2022年4月1日から2023年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果および本部門の活動についてまとめたものである。
2. 本紀要において報告している津島岡大遺跡は岡山市北区津島中一丁目～三丁目1番1号、鹿田遺跡は岡山市北区鹿田町二丁目5番1号に所在する。
3. 執筆者は、氏名を目次に記載すると共に、原則として、本部門所属教員の場合は文末に、第1章第3節については文頭に記した。
4. 編集は清家章部門長・岩崎志保チームリーダーの指導のもと、木村理が担当した。

凡 例

1. 岡山大学構内の埋蔵文化財の調査にあたっては、2002（平成14）年4月1日から施行された「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」に基づき、世界測地系を採用したが、それ以前の日本測地系による構内座標の相対的な位置関係を保持したまま座標値のみ世界測地系に変換している。各区画の座標原点と区割りは次のように定めている。
 - 1) 津島地区では、国土座標第Ⅴ座標系（日本測地系）の座標北を基軸とし、 $(X, Y) = (-144,156.4617\text{m}, -37,246.7496\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺50mの方格で分割した区画を用いている。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第Ⅴ座標系（日本測地系）の座標北より東に15°振り出した座標軸を基軸とし、 $(X, Y) = (-149,456.3718\text{m}, -37,646.7700\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺5mの方格による地区割りをを用いている。
 - 3) 挿図中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標（日本測地系）の座標北を、その他は磁北を用いている。
2. 岡山大学敷地内で調査地点を示す場合、周知の遺跡にあたる場合はその遺跡名を、それ以外の場合は、地区名を付して示す。
3. 調査名称は、「発掘調査」に分類したものは、遺跡ごとに調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」、「立会調査」に分類したものは、原則、原因となった工事名を使用している。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは、「試掘・確認調査」に分類する。
4. 付表に記載した既往の調査一覧は、掘削深度が中世層以下に達するかあるいは遺構などが確認された調査のみを掲載している。未掲載分も含め、すべてのデータは、本部門において保管している。
5. 本文などで使用している調査番号のうち、2022年度のもは表1および2021年度以前のもは付表1・2と一致する。
6. 本紀要に掲載の地形図（付図1）は、岡山市域図を複写したものである。
7. 土層注記において、特徴的な包含物・事項については括弧内に記載した。

第1章 構内遺跡の調査研究

第1節 試掘・確認調査の概要

1. 総合実験研究棟（工学系）新営に伴う試掘・確認調査（調査番号1、AU04区）

a. 調査の経緯

岡山大学津島キャンパス北東部の駐車場において、総合実験研究棟（工学系）の新営が計画された（図1）。建設予定建物の工事内容は、基礎部を溝状に深さ約1.4mまで掘削するものであった。本地点の周辺では、南にある第6・7・9・22次調査においては東西方向の溝が¹⁾、さらにその南側にある第31次調査においてはこれに接続すると考えられる南北方向の溝が条里の区割りに対応する溝として注目されてきた²⁾。特に第31次調査の成果は重要であり、ここでは第6・7・9・22次調査における東西溝の南北で地割りの状況が異なる可能性が指摘されている。これまでの調査では津島キャンパス北辺の条里に関する情報は少なく、この東西溝の北側の状況が明らかになっていなかった。

本地点に、第31次調査地点からのびる南北方向の条里に対応する溝の想定ラインが通ることは確実であり、また本地点内で行われた1990年度の立会調査（図1-13地点）において古代の溝と考えられる堆積層も確認されていた³⁾。本地点における掘削深度は中世後半～近世以降の土層である。上述した周辺の調査成果も含め、本地点は中世では後背湿地、近世以降は耕作地として利用され遺構・遺物出土密度が極めて低いことが想定されていたこともあり⁴⁾、破壊を受ける部分は小規模と判断した。以上を勘案し、発掘調査ではなく、条里に対応する溝の想定ラインに直交するような東西方向に長い調査区を設定する試掘・確認調査として行うこととなった。

調査は2022年5月18日に行い、調査員1名が担当した。

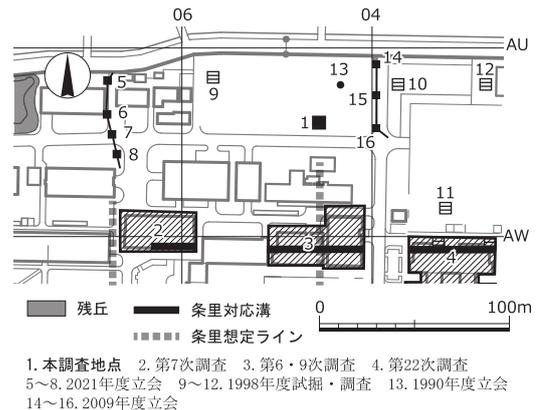


図1 調査地点の位置（縮尺1/4,000）

b. 調査の成果

(1) 調査地点の位置と経過

調査地点は、津島キャンパス北東部に位置する駐車場の南部である。試掘坑は南北1.5m×東西3mで設定した。現地表面から深さ約4.2mまでの土層堆積状況を確認し、各土層の分析サンプルを採取した。なお、遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 層序

土層は19層に分けた（図2）。出土遺物がなかったため、土層の時期は周辺の調査成果に基づき推定した。

- 1層 近現代の造成土である。上面の標高は4.76mであり、厚さ1.12mを測る。
- 2層 灰色砂質土である。上面の標高は3.65mであり、厚さ0.03mを測る。近代の耕作土である。
- 3層 褐灰色砂質土である。鉄分の沈着が多い。上面の標高は3.62mであり、厚さ0.07mを測る。近代の耕作土である。
- 4層 淡灰褐色砂質土である。上面の標高は3.55mであり、厚さ0.1mを測る。近世の耕作土である。
- 5層 灰褐色砂質土である。上面の標高は3.45mであり、厚さ0.1mを測る。近世の耕作土である。

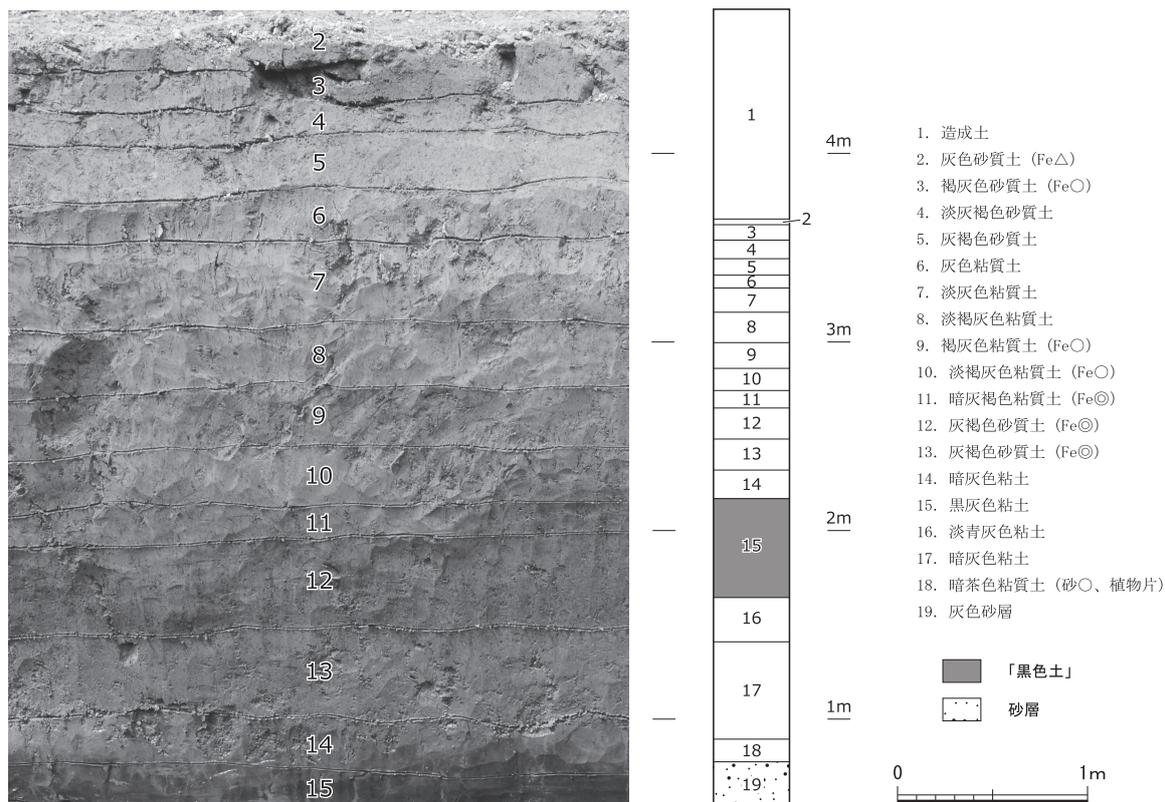


図2 調査区北壁断面柱状図 (縮尺1/40)

- 6層 灰色粘質土である。上面の標高は3.35mであり、厚さ0.05mを測る。中世後半～近世の耕作土である。下層の7・8層と色調、土質が似る。
- 7層 淡灰色粘質土である。上面の標高は3.3mであり、厚さ0.14mを測る。中世後半の耕作土である。
- 8層 淡褐灰色粘質土である。6・7層に比べ鉄分の沈着が多い。上面の標高は3.16mであり、厚さ0.16mを測る。中世前半の耕作土である。
- 9層 褐灰色粘質土である。上面の標高は3.0mであり、厚さ0.14mを測る。時期は古代と考えられる。下層の10層と色調、土質が似る。
- 10層 淡褐灰色粘質土である。9層よりも鉄分の沈着がやや多い。上面の標高は2.86mであり、厚さ0.11mを測る。時期は古代と考えられる。
- 11層 暗灰褐色粘質土である。鉄分の沈着が多い。上面の標高は2.75mであり、厚さ0.1mを測る。時期は古墳時代と考えられる。
- 12層 灰褐色砂質土である。鉄分の沈着が多い。上面の標高は2.65mであり、厚さ0.15mを測る。時期は古墳時代と考えられる。11層と色調や鉄分の沈着具合が似るが、本層はより砂が多い。
- 13層 灰褐色砂質土である。鉄分の沈着が多い。上面の標高は2.5mであり、厚さ0.19mを測る。時期は弥生時代後期と考えられる。
- 14層 暗灰色粘土である。しまりが強い。下層である15層への漸移層と考えられる。上面の標高は2.31mであり、厚さ0.13mを測る。時期は弥生時代前期～後期と考えられる。
- 15層 黒灰色粘土である。しまりが強い。津島一帯で「黒色土」と呼称している弥生時代早～前期の鍵層と考

えられる。上面の標高は2.18mであり、厚さ0.53mを測る。

16層 淡青灰色粘土である。しまりが強い。上面の標高は1.65mであり、厚さ0.25mを測る。時期は縄文時代以前と考えられる。

17層 暗灰色粘土である。しまりが強い。上面の標高は1.4mであり、厚さ0.5mを測る。時期は縄文時代以前と考えられる。

18層 暗茶色粘質土である。砂、植物片を含む。上面の標高は0.9mであり、厚さ0.12mを測る。時期は縄文時代以前と考えられる。

19層 灰色砂層である。上面の標高は0.78mであり、厚さ0.28m以上を測る。時期は縄文時代以前と考えられる。

c. まとめ

本調査の成果として、2点が挙げられる。第一に、当初予想していた条里区画に対応する南北方向の溝が確認できなかった点である。これにより、第6・7・9・22次調査における東西溝の北側において、第31次調査で確認された条里区画に対応する南北溝は、少なくとも同一ライン上には続かない可能性が高くなった。これと同様に、一町西の南北ライン上においても2021年度立会調査が行われているが、溝は確認されなかった。したがって、今回の調査成果は第6・7・9・22次調査における東西溝の南北において地割りの状況が異なるという見解

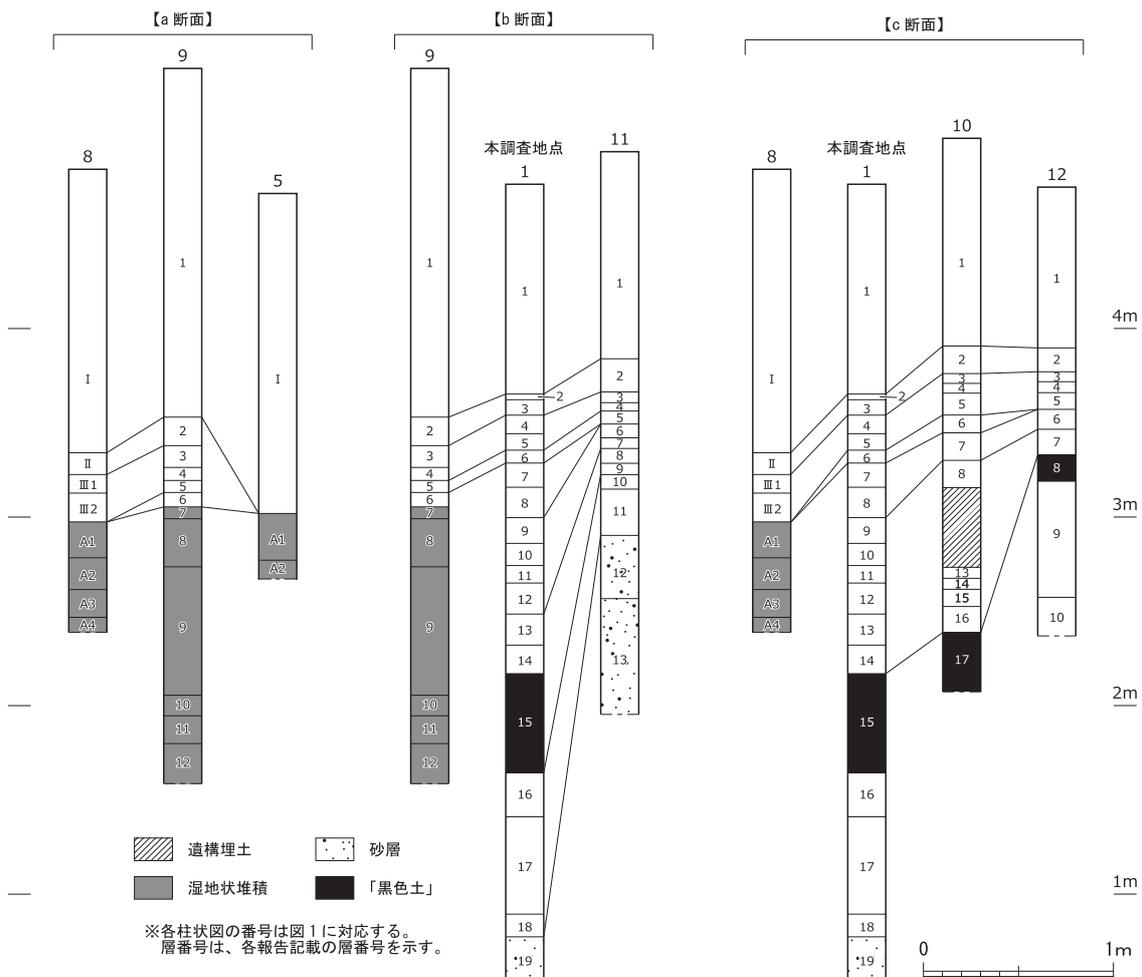


図3 本調査地点周辺の断面柱状図 (縮尺1/40)

を補強するものとなったといえよう。一方で1990年度に確認された、古代と考えられる溝の堆積層については、今回新たな情報を得ることはかなわず、引き続き今後の課題となった。

第二の成果として、土層の堆積状況が確認でき、津島キャンパス北東部の地形に関する情報を得ることができた点である。ここでは、周辺の調査成果と合わせて本地点の地形について述べてみたい(図3)。

本地点西部の立会および試掘・確認調査からは、中世における湿地状堆積が確認されている(図1-5~9地点、図3-a断面)。一方で、本地点ではそのような堆積は確認できなかった。したがって、この湿地状堆積は残丘の東から06ラインの東20m程度までは広がっている可能性が考えられよう。また、中世層の標高は、2021年度立会調査地点(図1-8地点)では約2.98m、1998年度調査試掘・確認調査地点(図1-9地点)では約3.14m、本調査地点では3.3m、1998年度試掘・確認調査地点(図1-10・11地点)では約3.45m、3.6mとなっており、北および西へ行くほど地形が下がることがわかる(図3-b・c断面)。全体として北西方向に下がる地形の中で、西側には湿地が広がっていた地形が復元される。

このような地形は、縄文時代以前の地形を基本的には踏襲していると考えられる。縄文時代以前の地層である本調査地点の16~19層は、1998年度試掘・確認調査地点(図1-11・12地点)の10~13および9・10層との対比が可能であり、その比高は東西で1.55m、南北で1.85mにおよぶ(図3-b・c断面)。その後堆積した弥生時代前期の「黒色土」についても、確認されている地点は本調査地点と1998年度試掘・確認調査地点(図1-10・12地点)のみの確認ではあるものの、東から西へ約3.3m(図1-12地点)、2.4m(図1-10地点)、2.18m(本調査地点)と下がっていることが確認できる(図3-c断面)⁵⁾。また、2009年度立会調査地点(図1-14~16地点)では、地表面下約2.26mにおいて「黒色土」が確認されており、それが北へ向かって下がっていったことが報告されている⁶⁾。この時期においても北西方向に下がる地形が復元されよう。

以上のように、本調査地点の成果は、津島キャンパス北東部における条里区画に対応する溝の有無、土層の堆積状況と地形復元に新たなデータを提供するものとなった。中世の湿地状堆積の範囲や、より詳細な地形復元に向けて、引き続きデータの取得と検討を重ねていくことが今後の課題となろう。(山口雄治)

註

- 1) 岩崎志保編2005『津島岡大遺跡16-第17・22次調査-』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
小林青樹・野崎貴博1998『津島岡大遺跡10-第9次調査-』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
土井基司・山本悦世1995『津島岡大遺跡6-第6・7次調査-』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 2) 岩崎志保2010「津島岡大遺跡第31次調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2008』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 3) 富樫孝志1991「立会調査」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』8 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 4) 池田晋2011「環境理工学部公共下水道接続工事」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2009』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岩崎志保2000「津島キャンパス北東隅地域の試掘調査」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』16 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
野崎貴博2022「ライフライン再生に伴う榭・配管工事」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2021』岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門
- 5) 1998年度試掘・確認調査地点の報告では、図1-10地点の「黒色土」は13層と報告されている(岩崎2000)。しかしながら、そのすぐ西隣の2009年度立会調査地点(図1-14~16地点)で確認されている「黒色土」とは大きく標高が異なることがわかった。2009年度立会調査地点では、「黒色土」の上層に2層の土壌化層が存在しており、その内の下層の土壌化層(13層:弥生時代中期~後期)の標高が1998年度試掘・確認調査地点(図1-10地点)の13層とほぼ同レベルに当たることがわかった。このことから本報告では、1998年度試掘・確認調査地点(図1-10地点)の「黒色土」は、黒灰色粘質土として報告されている17層であると解釈し、本報告において修正のうえ記述した。
- 6) 前掲註4池田文献

第2節 立会調査の概要

1. 実施状況

津島地区で6事業30件の立会調査を行った。鹿田地区での実施は無かった。本節では、中世層以下の包含層を確認した調査番号2・6について報告する。

2. 津島地区

a. 総合実験研究棟（工学系）新営に伴う機械設備工事（津島地区：調査番号2、AU04～05区）

津島北地区北東の駐車場に新たに建設された総合実験研究棟の機械設備工事に伴う立会調査である。このうち、生活排水樹の設置に伴う掘削の際、掘り方底面で中世層と考えられる包含層を確認した（調査番号2-8）。掘削規模は上面で1.6×1.4m、深さ1.75mである。

既往の調査成果から、1層は陸軍駐屯地造営時の造成土、2層は明灰色弱粘質土で近代の耕作土と比定する。3層は明橙灰色砂質土、4層は灰色砂質土で、いずれも鉄分の沈着が著しく、マンガンの凝集が顕著に認められる。5層は灰褐色砂質土で、マンガンの凝集が著しい。3～5層はいずれも砂質が強く、近世の耕作土と考えられる。6層は灰色粘質土で、マンガンの凝集が著しい。中世層と考えられる（図4）。

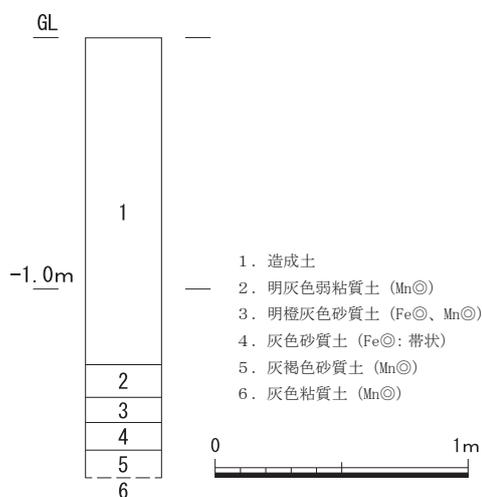


図4 土層柱状図（縮尺1/30）

b. 複合施設（津島北）整備工事

（津島地区：調査番号6、AX05区）

津島北地区東半中央に建設された複合施設（共有共創 commons）の整備工事に伴う立会調査である。このうち、建物南西から西側にかけて鍵状に設定された排水経路では、樹・管路ともに中世層以下の包含層が確認された。ここでは西辺（調査番号6-3）、南西角（同6-5）の樹で観察された土層を報告する。なお、土層の時期は隣接する第18・40次調査の成果から推定した。西辺樹（図6左）掘削の深さが1.9mの設計であったため、造成土の厚さ約1mまでは掘り方を2.4×2.2mとし、2層以下の包含層部分では掘り方を1.6×1.5mとした。

1層は陸軍駐屯地造営時の造成土である。東西方向にのびる陸軍建物の基礎が確認された。2層は青灰色粘質土で近代の耕作土である。3層は明灰褐色砂質土で、上面に鉄分が著しく沈着する。4層は明灰黄色砂質土で上

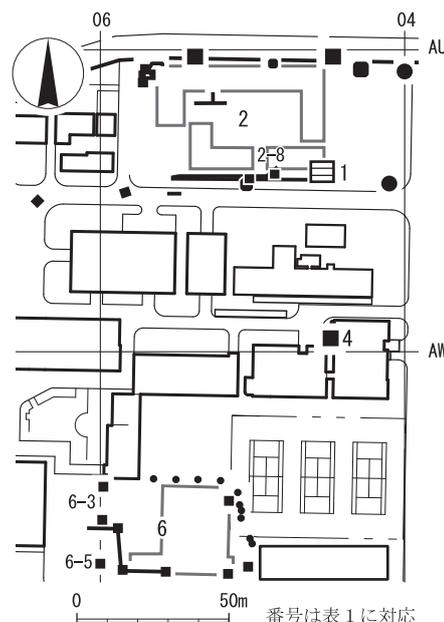


図5 調査地点詳細図（縮尺1/250）

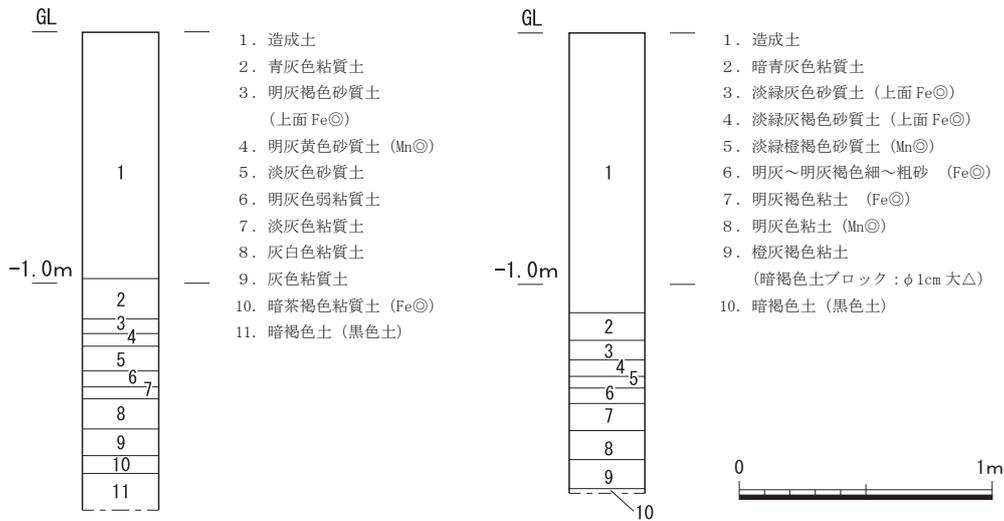


図6 土層柱状図 (縮尺1/30)

面に鉄分が沈着し、マンガンの凝集が著しい。5層は淡灰色砂質土で、鉄分の沈着やマンガンの凝集が認められる。3～5層は近世の耕作土である。6層は明灰色弱粘質土である。7層に近似するが、粘性が弱く、中世～近世の耕作土と考えられる。7層は淡灰色粘質土、8層は灰白色粘質土で、いずれも中世層である。9層は8層よりも粘性の強い灰色粘質土で古代層と考えられる。10層は暗茶褐色粘質土で、鉄分の沈着が著しい。弥生～古墳時代の土層と考えられる。11層は暗褐色土で、津島地区では「黒色土」と称している、上面が弥生時代前期に比定される鍵層である。

南西角枿 (図6右) 掘削規模は上端で2.15×1.9m、下端で1.9×1.5m、深さ1.83mである。

1層は造成土、2層は暗青灰色粘質土で、近代の耕作土である。3層は淡緑灰色砂質土で、上面に著しく鉄分が沈着する。4層は淡緑灰褐色砂質土で、上面に鉄分の沈着が著しい。5層は淡緑橙褐色砂質土で、マンガンの凝集が著しい。3～5層は近世の耕作土である。6層は明灰～明灰褐色の細～粗砂層で、鉄分の沈着が著しい。枿の南半に向かって厚みを増し、南壁での層厚は最大0.23mをはかる。中世段階のたわみに堆積した砂だまりと考えられる。7層は明灰褐色粘土で、鉄分の沈着が著しい。中世層である。8層は明灰色粘土で、マンガンの凝集が顕著である。古代層と考えられる。9層は橙灰褐色粘土で、「黒色土」を起源とする径1cm大のブロックをわずかに含んでいる。弥生～古墳時代の土層である。10層は暗褐色土 (「黒色土」) で、上面が弥生時代前期の土層である。

(野崎貴博)

表1 2022年度調査一覧（津島地区）

種別	調査番号	工事名称	調査期間	構内座標	調査深度 (GL-m)	掘削規模 (m)	造成土厚 (m)	内 容		
試掘	1	総合実験研究棟（工学系）新営	5/18	AU04	4.20	1.5×3.0	1.1	近代～縄文時代以前の土層を確認 標高2.18mで「黒色土」確認		
立会	2-1	総合実験研究棟（工学系）新営機械設備工事	U字側溝	9/16	AU04～05	0.5	幅0.6	-	造成土内	
			雨水桝	9/16		0.65	0.52×0.52	-	造成土内	
			Pサイン撤去	9/16		0.8	0.5×0.5	-	造成土内	
			樹木抜根	9/16・22		0.45-0.8	1.2×1.2～2×2	-	造成土内	
	鋼管ポール		10/13	1		φ0.2	0.8	近代・近世層 ※排土および隣接の2009年度立会より判断		
	2-3		電気設備工事	ハンドホール管路	10/31～	AU05	0.75～1.23	幅0.4～1.64	-	-
				ハンドホール	11/2・8・9					
	2-4		既設外灯基礎撤去	10/31		0.7～0.9	0.5×0.6	-	2か所、造成土内	
	2-5		電気設備工事	キュービクル・配管	12/21	AU05	0.7～0.8	管路：幅0.8～1.2、 キュービクル：1.6×2	-	造成土内
	2-6・7		生活排水	管路	12/27・1/10	AU05	1.1～1.2	0.8～0.9	-	造成土内
	2-8			桝	1/12	AU05	1.75	1.6×1.4	1.3	底面で中世層上面を確認
	2-9		生活・実験排水	管路	1/17	AU05	0.5	0.70	-	造成土内
	2-10・12		生活排水	管路	1/19・2/7	AU05	0.65～0.7	0.5～0.65	-	造成土内
	2-11		実験系排水	桝	1/24	AU05	1.4	1.8×1.8	0.9	近世層を確認
	2-13		実験系排水	管路	3/16	AU05	1.1	1.00	1.1	近代層上面まで
3	ゲノムプロオーム空調改修工事：支柱設置		10/3	BB15	1	φ0.15	-	造成土内		
4	工学部6号館東トイレ他改修電気設備工事		11/7	AV04	0.9	φ0.2	-	既設内		
5	農場ビニルハウス新設	基礎	11/21	BE23	0.35	0.9×0.9	-	耕作土（表土）内		
		支柱／アンカー	1/6		1.25/0.62	φ0.3/0.6×0.6	-	支柱：近代層確認／アンカー：造成土内		
		給水管	1/24		0.6	3×0.3	-	造成土内		
6-1	共同溝接続	11/21	AX05	1.4	1.55×1.2	-	既設内			
6-2	電気設備	ハンドホール		11/25	1.1	1.0×2.0	-	既設内		
6-3	排水	汚水桝③		11/29・30	1.9	上2.2～2.4 下1.5×1.6	0.98	近代～弥生前期「黒色土」を確認		
6-4・6-7		汚水管路		11/30・12/1・5・7	1.33～1.47	上1.0、下0.6	0.97～1.01	近代～中世層を確認		
6-5		汚水桝②		12/1	1.73	上2.1×1.9 下1.9×1.5	1.11	近代～弥生・古墳層（サブトレで「黒色土」を確認		
		汚水桝①		12/7	1.35	上1.7×1.85	0.9	近代～中世層（南壁のみ残存）を確認		
6-8	外灯	12/15・20		1.15～1.5	上1.1×0.9	0.85	4か所掘削、3か所で近世層を確認			
6-9	樹木	伐根（4か所）		12/20	0.5～0.7	0.9～1.8×1.3	-	造成土内		
6-10	植栽			12/26	0.7	φ0.9	-	造成土内		
7-1	文法経倉庫（旧ボイラー室）改修機械設備工事	給水メーター撤去		3/2	AX16	0.65	1×1	-	造成土内	
7-2		管路	3/2	0.4		0.45	-	造成土内		
7-3		トラップ桝	3/2	0.65		1×1	-	造成土内		
7-4		耐震補強	3/14	0.7		幅1.1	-	既設内		

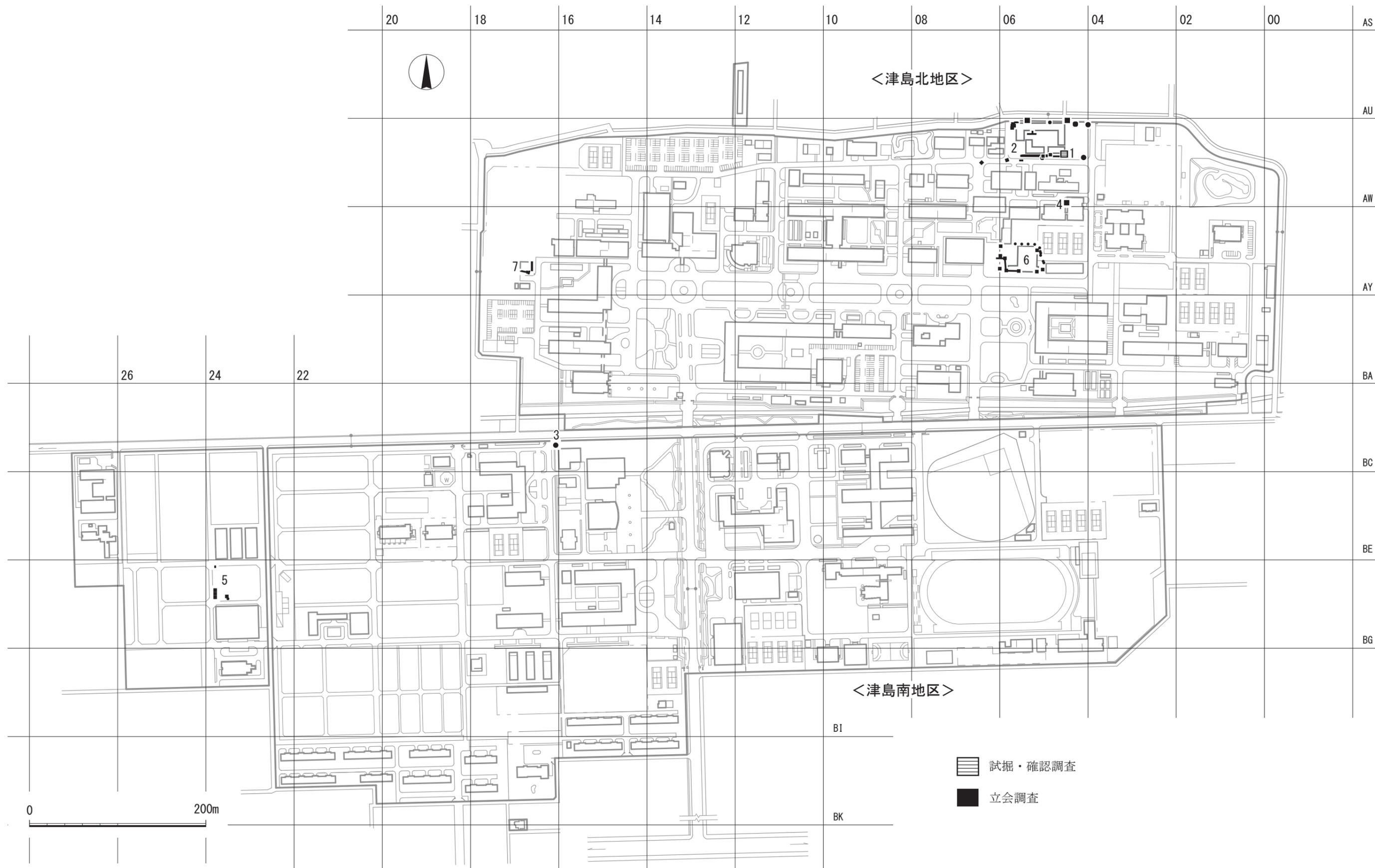


図7 2022年度の調査地点—津島地区— (縮尺1/4,000)

※番号は表1の調査番号に対応する。

第3節 構内遺跡に関する研究

1. 鹿田遺跡第12次調査出土井戸枿材と規格材の復原

野崎 貴博

a. はじめに

鹿田遺跡第12次調査は2000・2001年度に発掘調査を実施し、中世前半の方形縦板組横棧留め井戸枿を内包する井戸2基を検出した。これらの井戸の井戸枿材は取り上げ後、記録、保存処理を行い、2021年3月に報告書（野崎編2021、以下『報告第37冊』とする）を刊行した。

しかし、本報告書の整理期間から刊行時にかけては新型コロナウイルス感染症の世界的な流行期にあたり、その感染拡大を防ぐための行動制限が全国的になされた。そのため、これまで外部の研究者に依頼して実施してきた樹種同定を実施することができなかった。その後、行動制限が緩和された2022年5月に樹種同定を実施することができたため、その結果をここで報告する¹⁾。

ところで、こうした縦板組井戸枿に用いられる板材は、形状が単純であったり、加工が少なかつたりするなど、分析属性に乏しい遺物とみなされがちであったと思われる。鹿田遺跡の資料でも、残存状態が良いとみられる資料を代表して示すなど、簡単な報告にとどまっていた。一方で、京都府長岡京跡出土の井戸枿材を対象とし、これらの板材の接合関係を手がかりにして、古代以降にみられる規格流通材である「樽」を復原する先駆的な研究が岡田文雄によって行われている（岡田2003・2005）。鹿田遺跡出土資料でも同様の手法で原材となる樽の存在が指摘されてきた（光本2006）。これらは板材資料群の総体を観察、分析することが、古代・中世の木材流通の一端を解明することにつながることを示した先例である。

小文では、まず2021年刊行の報告書に掲載できなかった資料を報告する。1基の井戸に用いられた板材の全体を共有することを目的に、実測図を提示することとした²⁾。さらに板材にのこされた工具痕を観察し、板材の製材前の姿を復原するとともに、井戸枿板材幅の分布傾向と接合関係から樽そのものの断面形状を推定する。

b. 鹿田遺跡第12次調査検出井戸4・5の概要と井戸枿材の樹種

鹿田遺跡第12次調査では、井戸枿を有する井戸が2基検出された。これについては既に『報告第37冊』で報告しており、ここでは概要を示す。

井戸4（表2） 平面形は円形を呈し、規模は上面で2.34×1.98m以上、検出面からの深さ2.31mをはかる。中央部に方形縦板組横棧留めの井戸枿を設置する。出土遺物から中世前半（12世紀中頃）と位置づけられる。

方形縦板組横棧留め井戸枿は、四隅の柱を有しない。横棧は2段確認され、上下の横棧の間は縦位の支保材を四方にはめ込む構造となっている。板材は縦位に立てて用いられる。幅広の板材を各辺に数枚ずつ用い、隣り合う板材の木端を重ねて立て並べ、細い板材は外側からの隙間をふさぐように用いられる。

取り上げた板材は33枚で、『報告第37冊』では4枚を図化し、報告した。基本的には割り裂きによる製材で、厚手のものでは手斧等の工具によるはつり痕が周縁部に確認されるもの、部分的に施されるものがある。木口・木端は平滑に仕上げられ、手斧等の工具によるはつり痕が認められる。

樹種はスギ、モミ属の2種で、ほとんどの板材の木取りは板目である。

井戸5（図8～10、表3・4） 平面形は円形を呈するとみられる。規模は上面で2.06×1.82m以上、検出面からの深さ2.27mをはかる。中央部に方形縦板組横棧留めの井戸枿を設置する。出土遺物から中世前半（12世紀）に位置づけられる。

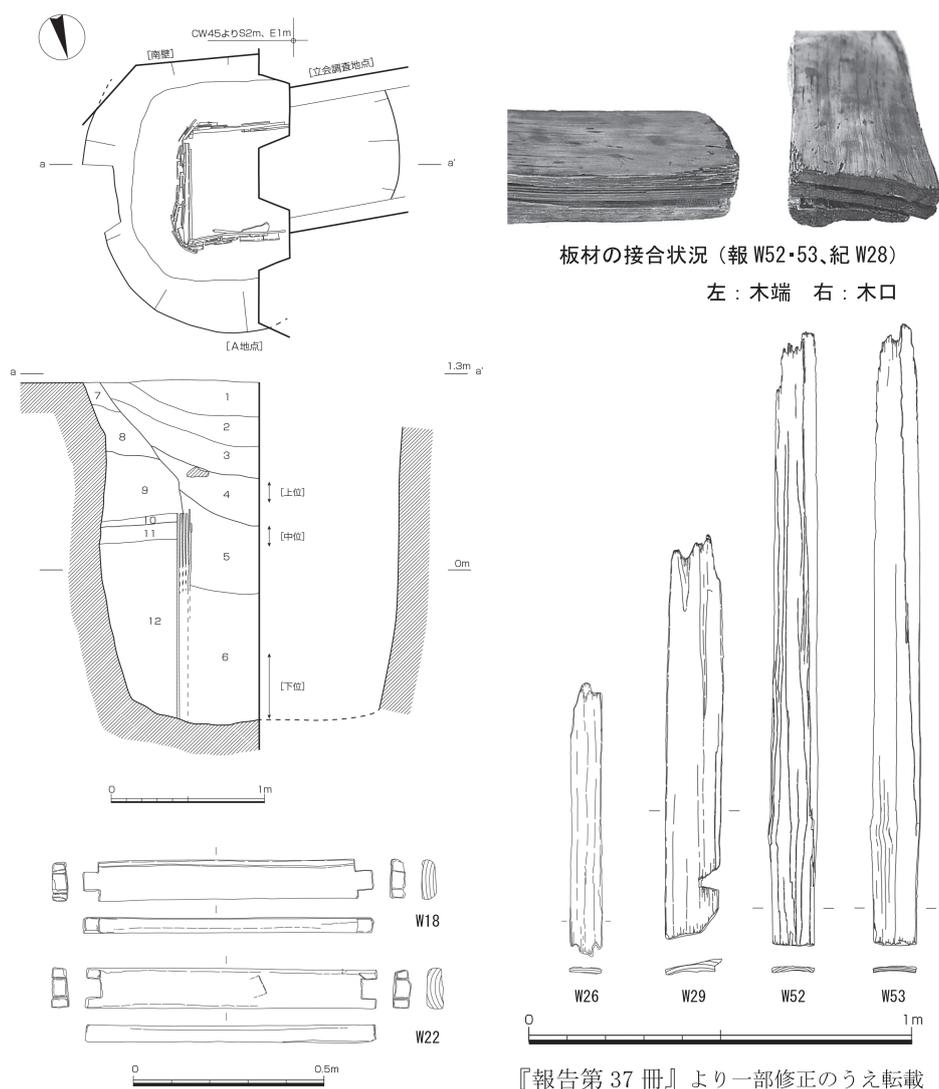


図8 鹿田遺跡第12次調査井戸5と出土井戸枠材 (S=1/20・1/50)

方形縦板組横棧留め井戸枠は、隅柱を有しない。横棧は1段分のみが確認された。しかし、井戸枠の天端では、縦板材の並びの内側に、えぐりのある板材（図8、W26）が横位に差し渡されている状況が確認されており、横棧の代替支保材として用いられたものと考えられる。横棧や横位の板材で構成される枠の外側には縦位に立てた板材が使用される。板材は二重、三重に立てられており、乱雑な配列状況を示す。

板材は取りあげ可能だった82枚を取りあげ、『報告第37冊』では28枚を図化し、報告した³⁾。いずれも木表、木裏に割り裂き痕が認められ、原材を打ち割って製材したことがうかがわれる。このうち、8組17枚で接合関係を有することが判明した⁴⁾。また、木口付近の切り欠きの形状から、建築材等を転用し、割り裂いて井戸枠材にしたものが少なくとも10枚は認められている。

樹種はスギ、モミ属の2種で、板材の木取りは板目である。

c. 井戸5の板材

井戸5の井戸枠として用いられた板材について、その資料化と観察・分析を進め、成果を蓄積・共有すること

を目的として、図化可能なものについてはすべて図化していたが、『報告第37冊』では紙幅の都合上、支保材や切り欠きを有する板材、接合関係の確認された板材を優先して報告することとしたため、すべてを掲載するには至らなかった。そこで図化していた残りの板材等の実測図をここで報告する。小文で実測図を報告する資料は、板材51点、角材1点である。なお、『報告第37冊』で報告した板材の番号は「報W●」、小文で報告するものは「紀W●」と表記を区別して説明する。

資料の概略と特徴 板材の残存長については、大まかに約1.2m超の長いもの、約0.4~0.8mのもの、約0.3m以下の短いものに分けられる。

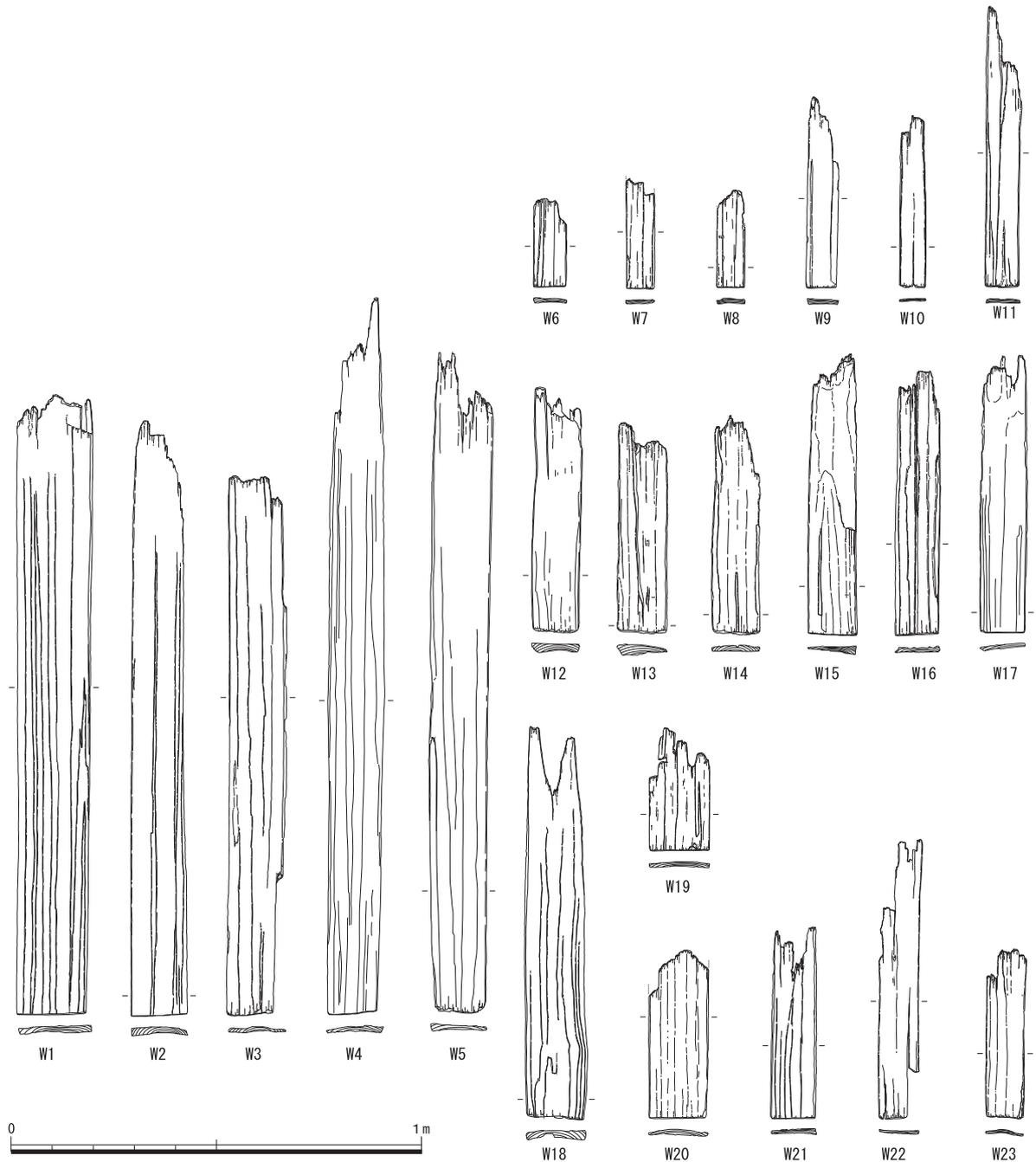


図9 鹿田遺跡第12次調査井戸5出土井戸枠材(1) (S=1/16)

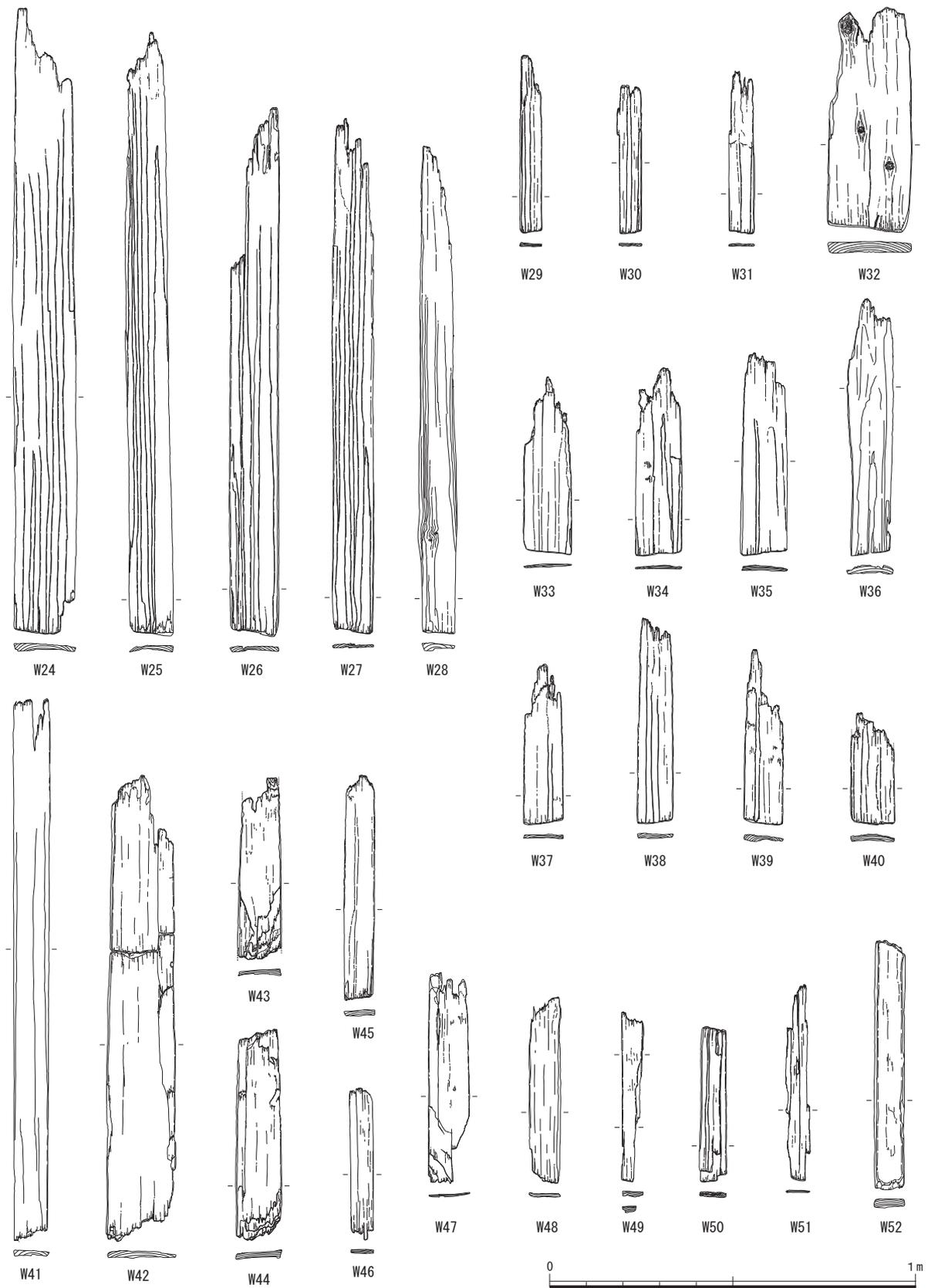


図10 鹿田遺跡第12次調査井戸5出土井戸枠材(2) (S=1/16)

表2 鹿田遺跡第12次調査井戸4出土木製品

番号	器種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	特徴	木取り	OKUF	樹種	SR
報-W2	井戸枠・横木 (平ほぞ凹形)	83.0	9.2	3.1	両木口に平ほぞ切り出し、木端に研り痕	板目	2156	スギ	S
報-W3	井戸枠・横木 (平ほぞ凹形)	83.0	8.9	3.3	両木口に平ほぞ切り出し、一部のこぎり痕、木端に研り痕	板目	2157	スギ	S
報-W4	井戸枠・横木 (平ほぞ凹形)	82.5	9.4	2.6	両木口に平ほぞ切り出し、木端に研り痕	板目	2158	スギ	S
報-W5	井戸枠・横木 (平ほぞ凹形)	82.2	8.9	2.4	両木口に平ほぞ切り出し、一部のこぎり痕、木端に研り痕	板目	2159	スギ	S
報-W6	井戸枠・横木 (平ほぞ凸形)	82.3	9.2	2.7	中間部で折れる、両木口に平ほぞ造り出し、一部のこぎり痕、木端に研り痕	板目	2160	スギ	S
報-W7	井戸枠・横木 (平ほぞ凸形)	82.3	9.3	2.5	両木口に平ほぞ造り出し、一部のこぎり痕、木端に研り痕	板目	2161	スギ	S
報-W8	井戸枠・横木 (平ほぞ凸形)	82.5	9.4	2.2	両木口に平ほぞ造り出し、一部のこぎり痕、木端に研り痕	板目	2162	スギ	S
報-W9	井戸枠・横木 (平ほぞ凸形)	82.3	9.0	2.5	両木口に平ほぞ造り出し、木端に研り痕	板目	2163	スギ	S
報-W10	井戸枠・支保材 (縦位)	76.3	4.2	1.9	割り裂き製材、両木口にのこぎり痕	板目	2164	スギ	S
報-W11	井戸枠・支保材 (縦位)	76.5	4.2	2.6	割り裂き製材、両木口にのこぎり痕	板目	2165	スギ	S
報-W12	井戸枠・支保材 (縦位)	76.2	4.6	2.8	割り裂き製材、両木口にのこぎり痕	板目	2166	スギ	S
報-W13	井戸枠・支保材 (縦位)	76.1	4.5	2.8	割り裂き製材、両木口にのこぎり痕	板目	2167	スギ	S
報-W14	井戸枠・板	130.4	30.6	5.1	打ち割り後、木表縁辺部、木端、木口は手斧で研り	板目	2330	モミ属	S
報-W15	井戸枠・板	137.5	23.1	3.4	打ち割り後、木表、木端は手斧で研り	板目	2345	モミ属	S
報-W16	井戸枠・板	143.5	35.5	5.5	打ち割り後、木表、木端、木口は手斧で研り	板目	2343	モミ属	S
報-W17	井戸枠・板	78.2	9.8	0.7	割り裂き製材	板目	2354	スギ	S
	井戸枠・板	54.5	10.5	0.4	割り裂き製材	板目	2326	スギ	S
	井戸枠・板	39.0	4.5	0.7	割り裂き製材	板目	2327	スギ	S
	井戸枠・角材?	29.0	3.0	2.5		割材	2328	スギ	S
	井戸枠・板	124.8	12.8	1.7	割り裂き製材	板目	2329	モミ属	S
	井戸枠・板	80.0	8.3	0.8	割り裂き製材	板目	2331	スギ	S
	井戸枠・角材?	22.0	4.0	3.0		割材	2332	スギ	S
	井戸枠・板	121.0	38.0	3.0	割り裂き製材	板目	2333	モミ属	S
	井戸枠・板	115.0	7.5	0.7	割り裂き製材	板目	2334	スギ	S
	井戸枠・板	68.5	9.5	0.8	割り裂き製材	板目	2335	スギ	S
	井戸枠・板	88.0	9.7	0.8	割り裂き製材	板目	2336	スギ	S
	井戸枠・板	110.0	22.7	2.2	割り裂き製材	板目	2337	モミ属	S
	井戸枠・板	124.9	10.3	3.0	割り裂き製材	板目	2338	モミ属	S
	井戸枠・板	28.0	4.0	2.5	割り裂き製材	板目	2339	スギ	S
	井戸枠・板	140.6	35.0	2.2	割り裂き製材	板目	2340	モミ属	S
	井戸枠・板	84.8	9.7	1.2	割り裂き製材	板目	2341	スギ	S
	井戸枠・板	148.0	41.2	3.6	割り裂き製材	板目	2342	モミ属	S
	井戸枠・板	104.0	8.5	1.0	割り裂き製材	板目	2344	スギ	S
	井戸枠・板	50.7	8.5	0.8	割り裂き製材	板目	2346	スギ	S
	井戸枠・板	134.7	21.2	3.8	割り裂き製材	板目	2347	モミ属	S
	井戸枠・板	75.5	9.3	0.7	割り裂き製材	板目	2348	モミ属	S
	井戸枠・板	144.0	31.8	3.5	割り裂き製材	板目	2349	モミ属	S
	井戸枠・板	135.4	25.3	4.5	割り裂き製材	板目	2350	モミ属	S
	井戸枠・板	136.0	26.5	2.4	割り裂き製材	板目	2351	モミ属	S
	井戸枠・板	97.0	7.5	1.4	割り裂き製材	板目	2352	スギ	S
	井戸枠・板	53.3	8.0	0.4	割り裂き製材	板目	2353	モミ属	S
	井戸枠・板	52.6	10.5	0.9	割り裂き製材	板目	2355	スギ	S
	井戸枠・板	46.4	5.0	0.4	割り裂き製材	板目	2356	モミ属	S

※斜体は残存値

表3 鹿田遺跡第12次調査井戸5出土木製品 (1)

番号	器種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	特徴	木取り	OKUF	樹種	SR
報-W18	井戸枠・横木 (平ほぞ凸形)	76.3	10.2	3.8	両木口に平ほぞ造り出し、一部のこぎり痕	板目	2168	スギ	S
報-W19	井戸枠・横木 (平ほぞ凸形)	73.9	10.4	3.4	両木口に平ほぞ造り出し、一部のこぎり痕	板目	2169	スギ	S
報-W20	井戸枠・横木 (平ほぞ凹形)	76.4	11.3	4.3	両木口に平ほぞ切り出し、一部のこぎり痕	板目	2423	スギ	S
報-W21	井戸枠・横木 (平ほぞ凹形)	74.5	11.4	3.0	両木口に平ほぞ切り出し、一部のこぎり痕	板目	2170	スギ	S
報-W22	井戸枠・横木 (平ほぞ凹形)	76.4	10.6	4.3	両木口に平ほぞ切り出し、一部のこぎり痕	板目	2171	スギ	S
報-W23	井戸枠・支保材 (縦位)	46.5	4.9	4.0	割り裂き製材、両木口にのこぎり痕	割材	2172	スギ	S
報-W24	井戸枠・棒状加工材	52.4	3.9	2.9	表裏・木端の4面は面取り、片側木口欠損	割材	2424	スギ	S
報-W25	井戸枠・棒状加工材	51.5	2.3	1.8	表裏・木端の4面は面取り、両木口欠損	板目	2426	スギ	S
報-W26	井戸枠・板	72.4	8.2	1.4	割り裂き製材、木口に2ヶ所の抉り	板目	-	-	-
報-W27	井戸枠・板	65.7	8.8	2.0	割り裂き製材、木口は斜め方向に切断、工具痕あり	板目	2385	スギ	S
報-W28	井戸枠・板	56.7	9.9	1.6	割り裂き製材、木裏に溝状のこぎり痕	板目	2448	スギ	S
報-W29	井戸枠・板	107.4	14.3	3.2	割り裂き製材、台形の切り欠き	板目	2397	スギ	S
報-W30	井戸枠・板	125.0	11.7	1.6	割り裂き製材、台形の切り欠き	板目	2403	スギ	S
報-W31	井戸枠・板	128.2	11.6	1.5	割り裂き製材、台形の切り欠き	板目	2358	スギ	S
報-W32	井戸枠・板	68.2	12.6	3.3	割り裂き製材、台形の切り欠き	板目	2378	スギ	S
報-W33	井戸枠・板	66.1	13.6	2.0	割り裂き製材、台形の切り欠き	板目	2390	スギ	S
報-W34	井戸枠・板	38.9	13.0	1.1	割り裂き製材、台形の切り欠き	板目	2388	スギ	S
報-W35	井戸枠・板	30.1	12.5	2.1	割り裂き製材、台形?の切り欠き	板目	2382	スギ	S
報-W36	井戸枠・板	40.0	6.9	1.5	割り裂き製材	板目	2375	スギ	S
報-W37	井戸枠・板	59.2	13.8	1.0	割り裂き製材、斜め方向に切り出し、工具痕あり、報W38と接合	板目	-	-	-
報-W38	井戸枠・板	64.9	13.9	1.3	割り裂き製材、斜め方向に切り出し、工具痕あり、報W37と接合	板目	2425	スギ	S
報-W39	井戸枠・板	124.4	14.5	0.7	割り裂き製材、木口に工具による切断痕、報W40と接合	板目	2404	スギ	S
報-W40	井戸枠・板	121.7	14.0	0.7	割り裂き製材、木口に工具による切断痕、報W39と接合	板目	2433	スギ	S
報-W41	井戸枠・板	159.4	17.0	1.9	割り裂き製材、木口に工具による切断痕、報W42と接合	板目	2436	スギ	S
報-W42	井戸枠・板	146.8	18.5	1.8	割り裂き製材、木口に工具による切断痕、報W41と接合	板目	2437	スギ	S
報-W43	井戸枠・板	140.3	17.5	0.8	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕、報W44と接合	板目	2417	スギ	S
報-W44	井戸枠・板	136.6	17.9	1.6	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕、報W43と接合	板目	2446	スギ	S
報-W45	井戸枠・板	187.0	12.8	2.2	割り裂き製材、報W46と接合	板目	2407	スギ	S
報-W46	井戸枠・板	162.8	12.6	2.4	割り裂き製材、報W45と接合	板目	2434	スギ	S
報-W47	井戸枠・板	174.2	13.7	1.4	割り裂き製材、報W48と接合	板目	2409	スギ	S
報-W48	井戸枠・板	154.2	17.2	2.0	割り裂き製材、報W47と接合	板目	2438	スギ	S
報-W49	井戸枠・板	149.2	13.8	0.9	割り裂き製材、報W51と接合	板目	2420	スギ	S

第1章 構内遺跡の調査研究

表4 鹿田遺跡第12次調査井戸5出土木製品(2)

番号	器種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	特徴	木取り	OKUF	樹種	SR
報-W50	井戸枠・板	120.6	14.2	1.0	割り裂き製材	板目	2357	スギ	S
報-W51	井戸枠・板	122.6	12.5	1.0	割り裂き製材、報W49と接合	板目	2421	スギ	S
報-W52	井戸枠・板	162.8	12.7	1.5	割り裂き製材、報W53・紀W28と接合	板目	2429	スギ	S
報-W53	井戸枠・板	165.2	13.1	1.6	割り裂き製材、報W52・紀W28と接合	板目	2408	スギ	S
紀-W1	井戸枠・板	151.7	18.3	1.6	割り裂き製材、木口は平滑な仕上げ	板目	2418	スギ	S
紀-W2	井戸枠・板	145.5	13.8	1.8	割り裂き製材、木口は平滑な仕上げ	板目	2416	スギ	S
紀-W3	井戸枠・板	132.3	14.0	1.1	割り裂き製材	板目	2450	スギ	S
紀-W4	井戸枠・板	175.7	13.7	1.3	割り裂き製材、木口に工具痕	板目	2435	スギ	S
紀-W5	井戸枠・板	162.2	14.6	1.8	割り裂き製材、木口に工具痕	板目	2406	スギ	S
紀-W6	井戸枠・板	21.6	8.0	1.2	割り裂き製材	板目	2383	スギ	S
紀-W7	井戸枠・板	27.1	7.0	0.9	割り裂き製材、木口に工具痕	板目	2415	スギ	S
紀-W8	井戸枠・板	24.0	6.9	1.1	割り裂き製材、木口に工具痕	板目	2380	スギ	S
紀-W9	井戸枠・板	47.0	7.5	1.4	割り裂き製材	板目	2413	スギ	S
紀-W10	井戸枠・板	42.3	6.4	0.6	割り裂き製材、木口に工具痕	板目	2373	スギ	S
紀-W11	井戸枠・板	69.0	8.4	1.0	割り裂き製材、木口に工具痕	板目	2359	スギ	S
紀-W12	井戸枠・板	60.2	11.6	2.1	割り裂き製材	板目	2367	スギ	S
紀-W13	井戸枠・板	51.7	12.2	2.6	割り裂き製材、木表は炭化、木口には工具による切断痕	板目	2370	スギ	S
紀-W14	井戸枠・板	53.8	11.6	1.5	割り裂き製材	板目	2419	スギ	S
紀-W15	井戸枠・板	63.9	11.9	2.0	割り裂き製材	板目	2391	スギ	S
紀-W16	井戸枠・板	64.9	10.9	1.1	割り裂き製材、木口は平滑な仕上げ	板目	2427	スギ	S
紀-W17	井戸枠・板	68.2	11.4	1.0	割り裂き製材	板目	2449	スギ	S
紀-W18	井戸枠・板	96.3	10.1	2.3	割り裂き製材、節による歪み、木口に工具痕	板目	2447	スギ	S
紀-W19	井戸枠・板	30.2	14.8	1.2	割り裂き製材	板目	2384	スギ	S
紀-W20	井戸枠・板	41.4	14.5	1.4	割り裂き製材	板目	2377	スギ	S
紀-W21	井戸枠・板	47.1	10.0	1.5	割り裂き製材、木口に工具痕	板目	2412	スギ	S
紀-W22	井戸枠・板	68.7	9.7	0.8	割り裂き製材、反り	板目	2398	モミ属	S
紀-W23	井戸枠・板	41.7	9.5	0.8	加工痕不明瞭、反り	板目	2400	モミ属	S
紀-W24	井戸枠・板	171.7	17.1	2.0	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2405	スギ	S
紀-W25	井戸枠・板	166.1	12.1	1.7	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行	板目	2451	スギ	S
紀-W26	井戸枠・板	145.5	13.6	1.6	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2430	スギ	S
紀-W27	井戸枠・板	141.6	11.3	1.3	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2431	スギ	S
紀-W28	井戸枠・板	138.5	11.0	2.2	割り裂き製材、節による歪み、報W52・W53と接合	板目	2422	スギ	S
紀-W29	井戸枠・板	48.9	6.0	1.2	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2372	スギ	S
紀-W30	井戸枠・板	40.8	6.8	0.8	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2364	スギ	S
紀-W31	井戸枠・板	44.8	7.0	0.6	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2365	スギ	S
紀-W32	井戸枠・板	61.8	22.8	3.0	木表・木裏は工具痕不明瞭、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2381	モミ属	S
紀-W33	井戸枠・板	48.9	13.3	0.9	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2361	スギ	S
紀-W34	井戸枠・板	51.8	12.7	1.0	割り裂き製材、木口は段状に切断	板目	2371	スギ	S
紀-W35	井戸枠・板	55.9	12.8	1.4	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2402	スギ	S
紀-W36	井戸枠・板	70.8	12.6	2.2	割り裂き製材、木表は加工痕不明瞭、木口は木目に対して斜行	板目	2410	スギ	S
紀-W37	井戸枠・板	44.2	10.9	0.9	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2387	スギ	S
紀-W38	井戸枠・板	56.7	9.8	1.2	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2366	スギ	S
紀-W39	井戸枠・板	48.4	10.8	1.8	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2374	スギ	S
紀-W40	井戸枠・板	30.8	12.2	1.7	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行、工具による切断痕	板目	2379	スギ	S
紀-W41	井戸枠・板	148.9	10.1	1.6	割り裂き製材、両木口欠損	板目	2432	スギ	S
紀-W42	井戸枠・板	128.1	16.9	1.8	割り裂き製材、木表は加工痕不明瞭、両木口欠損	板目	2439	スギ	S
紀-W43	井戸枠・板	50.1	12.0	1.8	割り裂き製材、木表は加工痕不明瞭、両木口欠損	板目	2386	スギ	S
紀-W44	井戸枠・板	58.2	12.7	2.1	割り裂き製材、両木口欠損	板目	2411	スギ	S
紀-W45	井戸枠・板	62.0	8.4	1.5	割り裂き製材、両木口欠損	板目	2394	スギ	S
紀-W46	井戸枠・板	41.8	5.1	1.1	割り裂き製材?、木表炭化、木裏は加工痕不明瞭、両木口欠損	板目	2368	スギ	S
紀-W47	井戸枠・板	58.1	11.2	0.7	割り裂き製材、両木口欠損	板目	2362	スギ	S
紀-W48	井戸枠・板	51.3	8.6	1.0	割り裂き製材、両木口欠損	板目	2395	スギ	S
紀-W49	井戸枠・板	46.8	6.1	1.8	割り裂き製材、木表は平滑に加工、木口は木目に対して斜行	板目	2414	スギ	S
紀-W50	井戸枠・板	42.9	7.5	1.4	割り裂き製材、木口は鍵状に切断	板目	2360	モミ属	S
紀-W51	井戸枠・板	54.1	6.3	0.7	割り裂き製材、木口は木目に対して斜行	板目	2399	モミ属	S
紀-W52	井戸枠・角材	68.5	8.3	2.4	両木口に2か所の抉り	板目	2396	スギ	S
	井戸枠・板	31.4	3.5	1.0	割り裂き製材	板目	-	-	-
	井戸枠・板	21.5	6.5	1.0		-	2363	スギ	S
	井戸枠・板	37.0	5.0	1.0	割り裂き製材	板目	2369	スギ	S
	井戸枠・板	22.0	4.3	0.7	割り裂き製材	板目	2376	スギ	S
	井戸枠・板	22.5	8.4	1.0		-	2389	スギ	S
	板? (サンプルのみ)	51.5	4.4	0.9		-	2392	スギ	S
	板? (サンプルのみ)	23.0	4.5	0.5		-	2393	スギ	S
	井戸枠・板	49.3	7.4	0.6		-	2401	モミ属	S
	井戸枠・板	68.1	5.7	1.6	割り裂き製材	板目	2428	スギ	S
	井戸枠・板	28.7	5.0	1.8		-	2440	スギ	S
	井戸枠・板	28.5	4.5	1.8		-	2441	スギ	S
	井戸枠・板	17.0	5.0	1.8		-	2442	スギ	S
	井戸枠・板	18.0	3.0	0.9		-	2443	スギ	S
	井戸枠・板	14.0	2.2	1.2		-	2444	スギ	S
	井戸枠・板	21.7	3.0	1.2		-	2445	スギ	S
	板? (サンプルのみ)	-	-	-		板目	2452	スギ	S

※斜体は残存値

木口の遺存状態について、設置時に上方側であったとみられる木口はいずれも破損し、ささくれている。一方、設置時に下方側であったとみられる木口は原状をとどめるものがほとんどである。下方側の木口の形状については、転用前の原材の形状をのこしていると考えられる。こうした木口の切り出し形状に基づき、木目に対して木口を直交して切り出すもの（紀W1～23）、木目に対して木口を斜行して切り出すもの（紀W24～40、51）、木口を段状に加工するもの（紀W50）、木口が残存していないもの（紀W41～49）に大別した。

板材の製材・加工については、すべて割り裂きによって製材されている。ほとんどの板材は割り裂き時の荒々しい木目をのこしているが、少数ながらも表面が炭化した板材（紀W13・46）が認められる。表面を焦がしたものと推測される。

樹種と板材の関係について、残存長1.2m以上の割り裂き製材の縦板材はすべてがスギである。一方、モミ属に同定されたものは残存長の短い板材で、数は少ない。厚さにばらつきがあり、加工の不明瞭なものも認められる。

角材（紀W52）について、残存状態は不良なものの、両木口に2か所の抉りが認められる。同様の抉りをもつものとして報W26がある。この板材は井戸枠の天端で縦板材の内側に横板として差し渡されている状況で出土しており、ほぞを作り出した横棧に代わり、縦板の支保材として用いられたものと考えている。紀W52の出土状況は明らかではないが、加工の形状や抉り間の長さがいずれも約68cmで、支保材のほぞ間の長さとも近似することから、同様の用途が想定される。

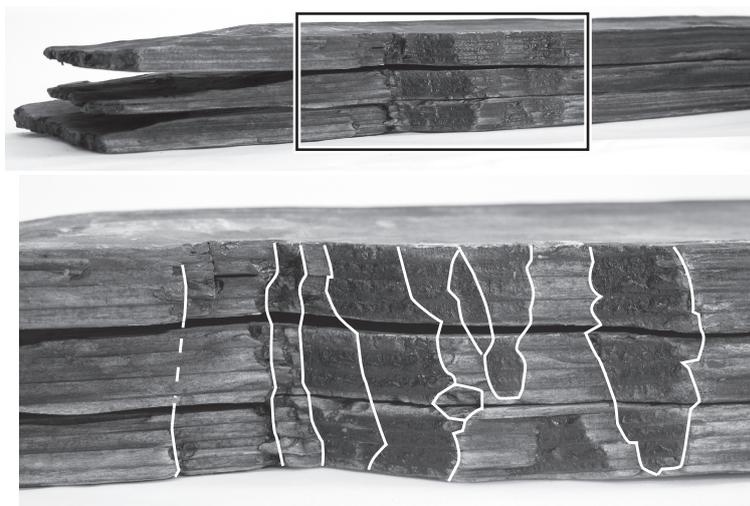
板材の残存長について この井戸枠を構成する板材の全体を概観すると、長い板材と同等の幅を有するが、残存長0.8m以下の短い板材が多数存在することが判明する。このような残存長の短い板材については、「腐朽等により残存状態の良くないもの」との先入観で評価し、『報告第37冊』では報告から除外した。しかし、今回改めて井戸5の板材を検討すると、長短の板材のいずれも木口の残存状態（上方は破損してささくれ、下方は原材の形状を遺存）に差がないこと、こうした破損が生じていたのは板材の残存が確認された標高0.3～0.4mの範囲で、板材が二重、三重に配列された位置にあたることを認識するに至った。

板材の残存長に長短が生じた原因を考察するうえで参考となるのは、鹿田遺跡第20次調査B地点井戸7（12世紀前半）の検出状況である。この井戸に内包された方形縦板組横棧留め井戸枠では、縦板の検出標高はほぼ等しい。一方、縦板の下端の高さは不揃いで、最も深度の深い板材の木口の高さと比較すると、0.3～0.5m程度上方に木口が位置する板材が一定数確認されている（岩崎編2022）。井戸7の場合、板の残存長の長短は板材の検出高と板の打ち込み深さの関係で決定されているのである。

井戸5の場合、最長の板材の破損部分は断面図では5層の位置にあたる。この高さは検出された井戸掘り方の半分程度の深さにあたり、井戸使用時の井戸枠が調査時の遺構検出面よりも上位まで構築されていたとすれば、この位置は上半部に用いられた板材と下半部の板材の重なる位置にあたると思われる。また、5層は被熱礫を含む人頭大の礫や炭を包含し、祭祀行為などの人為の影響を強く推測させる土層である。本層の約0.1m上方から掘り方が椀状に開いていることもあわせみると、5層の形成段階で行われた何らかの行為により、板材の天端が壊されたことが考えられる。この場合、残存長の短い板材は井戸上半部に用いられたものと考えることが適切であろう。板材の残存長に長短が生じた原因については、先入観をもたず、資料の状態の観察と出土状況等の情報を総合して考察する必要がある。

d. 接合資料の分析

第12次調査井戸5で確認された板材は、すべて割り裂きによって採られている。すなわち、これらの板材は原材から剥がされた際の面をのこしたものである⁵⁾。したがって、剥離面の合致する接合材を見つけることにより、原材を復原することが可能な資料であるといえる。実際、板材端部の加工痕、木の生長痕（節）を手がか



(上) 三枚が接合した板材 (第5次調査 井戸6)
 (下) 切り欠き部分にのこる刃痕 (上の枠内を拡大)

図11 複数の板材にまたがる加工痕

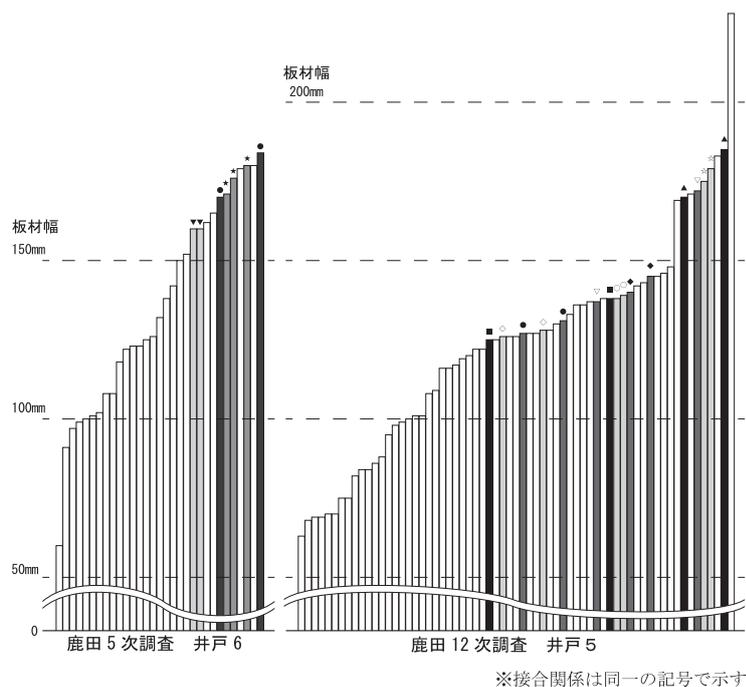


図12 板材の幅と接合関係

から広いものとなるよう、左から右へ、順に配置したものである。この図から次の3点を読み取ることができる。①数ミリメートルの差で幅を増すこと、②ミリメートル単位で同じ幅となるものは少数であること、③接合関係にあるものでも同じ幅のものは稀で、多くは幅が異なること。なお、図11で示した第5次調査井戸6の接合資料は図左のグラフの「★」印を打った3枚であり、これも幅に数ミリメートルずつの差が生じている⁶⁾。

ここで注目することは、接合資料のほとんどが同じ幅を有しないこと、すなわち、複数枚の板材が接合して重なっても、その断面形は正方形ないし長方形とはならず、台形となることである。角材は必ずしも直方体と

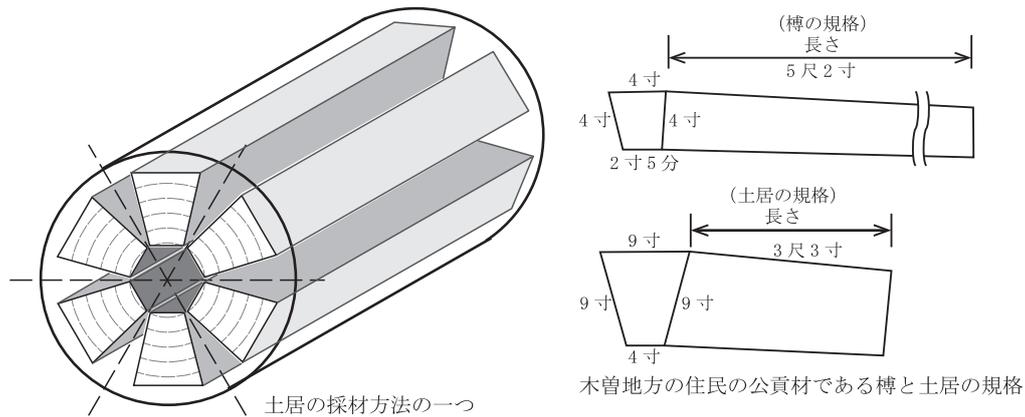
りに、剥離面の合致する接合資料を得ることができた。そこで、小文では鹿田遺跡の中世の井戸枡材で接合関係が判明している第5次調査井戸6例(松木編1993、光本2006)を含め、板材接合資料の観察と分析を行う。

複数の板材にまたがってみられる加工痕 図11は同じ形状の切り欠きをもつ3枚の板材が接合した鹿田遺跡第5次調査井戸6例である。接合した板材の切り欠き部を観察すると、一単位の加工痕が複数の板材にまたがっていることが観察される。このことから次の2点が明らかとなる。①本例の切り欠きは板材を割り裂く前の加工であること。②切り欠きの形状から、この板材の原材が建築材であったこと。

こうした建築材は枡を加工して使用されたものと考えられており(岡田2003・2005)、井戸枡材の原材に建築材を含むことが分かれば、井戸枡材からも枡を知ることが可能となる。

板材の幅と接合関係 枡については、古代の史料に法量の記事がある(岡田2003・2005)。そこで、鹿田遺跡の2例の井戸枡材の法量データのうち、もっとも安定した数値データを得られる板材の幅を分析対象とする。あわせて板材の接合関係を検討する。

図12は、鹿田遺跡第5次調査井戸6、第12次調査井戸5の板材について、板材の両木端がのこり、原材の幅を計測できる資料について、縦軸に板材幅をとり、横軸は板の幅が狭いもの



※左は（有岡 2011、p. 164）の図をもとに筆者作成、右は同図をトレース

図13 樽と土居の規格と採材方法

なっていないのである。

このことは何を意味するのであろうか。有岡利幸は、樽や土居の形状と木取りについて、江戸時代の木曾で役木（年貢木）として課された樽・土居の規格を示す（有岡2011）。それによると、樽は長さ5尺2寸、三方4寸、腹2寸5分、土居は長さ3尺3寸、三方9寸、腹4寸である。この寸法で採材すると断面台形の規格材となる。また、同図（有岡2011、p.164）には、「土居の採材方法の一つ」として玉切りされた原木から土居を採る木取りが示されている。こうした樽や土居の形状は、芯を除いた規格材を効率よく取得するためのものと考えられる（図13）。

断面台形に採材することについては、近世段階の木曾で断面台形の規格材が年貢木とされていたことが史料にのこっただけでなく、時代や地域は異なるものの、昭和の写真記録にも断面台形に採材される場面が認められている⁷⁾。また、長岡京跡や鹿田遺跡出土井戸枡材の計測によって得られる数値からは、断面台形の樽が復原される。古代、中世の遺跡から出土した板材の接合資料によって復原される樽の姿、文献や写真にのこる記録から、こうした採材の方法が古代以降、長く受け継がれていたことをうかがい知ることができる。

e. まとめ

コロナ禍により『報告第37冊』への掲載ができなかった鹿田遺跡第12次調査検出井戸4・5の樹種同定結果と井戸5の井戸枡材のうち未報告資料の実測図を掲載した。井戸5の板材については、資料の特徴を提示し、特に板材の残存長に長短が生じた原因について考察した。その結果、中世段階に行われた何らかの人為的な行為の影響を受けた可能性を指摘でき、「腐朽等による残存不良」といった、根拠の希薄な先入観で資料を評価することの危険性について自戒をこめて示した。

また、井戸枡板材の接合資料の観察と分析を行い、井戸枡板材の原材には樽を加工した建築材が含まれること、古代以降の規格材である樽の断面形に台形のものがあることを明らかにし、これが採材の際の木取りの方法によることを示した。今日、一般に流通している角材の断面形は、ほとんどが正方形や長方形を呈しており、そうした認識を過去の木材にも投影しがちである。板材の見方にも現代の認識のバイアスが潜んでいる。

小文は、特徴に乏しく、残存状態が不良にみえる板材であっても、その全体像を把握することの必要性和、視点や分析の手法次第でさまざまな情報を引き出せる可能性を有する資料であることを示した。こうした資料について、成果を蓄積し、広く共有することが、今後、過去の社会における木材利用の実態解明に必要となるものと考えられる。

註

- 1) 当該資料の樹種同定は能城修一氏に依頼し、その所見は本書第1章第3節2に掲載している。
- 2) 板材の資料化にあたり、実測は野崎、トレースは野崎、小野素子が行った。なお、『報告第37冊』で提示した実測図は、紙幅の都合もあり、ここでは再掲していない。
- 3) 本井戸枠の西辺は立会調査地点にあたる。工事範囲内で井戸掘り方、井戸枠構成材（横木・板材）を確認したが、幅約1mの範囲内では板材の抜き取りによる法面崩壊のおそれがあった。幸い、板材の検出高が工事の及ばない深度にあったことから、抜き取りを誘因とする事故発生等の危険を回避するため、本地点の井戸枠材は現地で埋め戻し、現状保存することとした（野崎2004）。
- 4) 『報告第37冊』では板材の取り違えおよび番号の振り間違えがあったため、ここで以下の通りに訂正する。
 - ・P.67の図79右上写真「板材の接合状況（W51～53）」のキャプションで示した板材は、正しくはW52・53と本報告の「紀W28」である。
 - ・P.68の図80下一覧表の特徴欄記載事項について、W49は「W51と接合」、W51は「W49と接合」に訂正し、W50は「W48・50と接合」を削除する。
 - ・巻末写真図版について、図版41「木製品（2）：井戸5」のうち、板材W51としたものは本報告の「紀W28」に訂正する。
- 5) 割り裂き後に手斧状の工具によるはつりを施す板材は、第12次調査井戸4でわずかに確認されている。
- 6) こうした傾向は、岡田が長岡京跡の井戸で示した接合板材の木表幅・木裏幅の数値でも認められる（岡田2003、p.417第1・2表）。
- 7) 昭和の製材所の写真記録にも、木挽きが玉切りの木材から台形に採材する場面がある（須藤2004、p.129）。

【参考文献】

- 有岡利幸2011『檜（ひのき）』ものと人間の文化史153 法政大学出版局
- 岩崎志保編2022『鹿田遺跡16』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第38冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 岡田文雄2003「長岡京跡の井戸の側板に用いられた古代の樽について」『田辺昭三先生古稀記念論文集』pp.411-422 田辺昭三先生古稀記念の会
- 岡田文雄2005「林業－樽の生産と流通」『列島の古代史 ひと・もの・こと 2 暮らしと生業』pp.303-320 岩波書店
- 須藤功2004『写真ものがたり 昭和のくらし2 山村』農山漁村文化協会
- 野崎貴博2004「エネルギーセンター棟周辺外構工事に伴う立会調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2002』pp.29-31 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 野崎貴博編2021『鹿田遺跡15』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第38冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 松木武彦編1993『鹿田遺跡3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 光本順2006「鹿田遺跡第5次調査出土の井戸枠材に関する再検討－焼印と木材の規格－」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2004』pp.25-36 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

2. 鹿田遺跡第12次調査出土の井戸枿類の樹種

能城 修一（明治大学黒耀石研究センター）

a. はじめに

鹿田遺跡第12次調査で出土した中世前半（12世紀）井戸枿類の樹種を報告する。これらの資料はすでに保存処理済みであり、処理前に樹種同定用に採取されていた小片から放射断面の切片のみを採取した。

b. 方法

樹種同定用のプレパラート標本は、放射断面の切片を片刃カミソリで切りとり、ガムクロラール（抱水クロラール50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50mlの混合物）で封入して作製した。プレパラートには、OKUF-2156～2172、2326～2452の番号を付して標本番号とした。プレパラート標本は明治大学黒耀石研究センターに保管されている。

c. 結果

資料144点には針葉樹2分類群が認められた（表5、図14）。以下には、木材組織学的な記載を行い、光学顕微鏡写真を提示して同定の根拠を記す。

(1) モミ属 枝・幹材 *Abies* 図14：1c（マツ科、OKUF-2356）

水平樹脂道を欠き、晩材の量がやや多い針葉樹材。放射組織は柔細胞のみからなり、細胞壁には単壁孔が著しい。分野壁孔はごく小型のスギ型で1分野に2～4個。

(2) スギ 枝・幹材 *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don 図14：2c（ヒノキ科、OKUF-2367）

水平樹脂道を欠き、晩材の量が多い針葉樹材。早材の終わりから晩材には樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はごく大型のスギ型で1分野に2個。

d. 考察

井戸枿の横木と支保材にはスギのみが使われており、それ以外の板材や横木、棒状製品にももっぱらスギが選択されていた（表5）。板材にはモミ属も使われていたが、板材全体の18%であった。全国的に井戸枿材にはスギがもっとも多用されるものの、宮城県下飯田遺跡や、兵庫県玉津田中遺跡・佃遺跡、岡山県百間川米田遺跡などで、中世の井戸材に使用されていた（伊東・山田2012）。岡山大学構内でも、スギは鹿田遺跡第1次調査で見いだされた弥生時代後期と平安時代末期の井戸や（能城1993）、鹿田遺跡第24次調査で見いだされた平安時代末～鎌倉時代前半の井戸のように多用されており（能城2018）、モミ属は鹿田遺跡第24次調査のほか、津島遺跡第10次調査で見いだされた古墳時代前期の井戸に使われており（能城2003）、井戸にはスギに次いでモミ属が選択されていたようである。

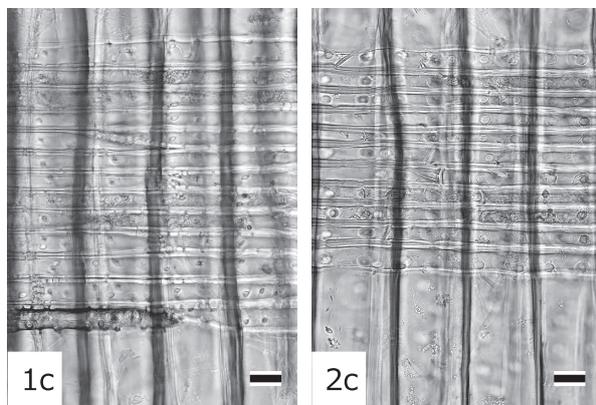
【引用文献】

- 伊東隆夫・山田昌久編2012『木の考古学：出土木製品用材データベース』海青社
 能城修一1993「岡山大学鹿田地区から出土した木製品の樹種」『鹿田遺跡3－第5次調査－』pp.119-146 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
 能城修一2003「津島岡大遺跡第10次調査および第12次調査より出土した木材の樹種」『津島岡大遺跡11－第10・12次調査－』pp.341-350 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

能城修—2018「鹿田遺跡第24次調査出土木製品類の樹種」『鹿田遺跡11－第24次調査－』pp.70-75 岡山大学埋蔵文化財査研究センター

表5 鹿田遺跡第12次調査で出土した中世前半（12世紀）の井戸材の樹種

樹種名	井戸枠			横木	板材	板材？	棒状
	横木 (平ほぞ凹形)	横木 (平ほぞ凸形)	支保材 (縦位)				
モミ属					22		
スギ	6	6	5	1	100	2	2



1c：モミ属（マツ科，OKUF-2356），2c：スギ（ヒノキ科，OKUF-2367）.
c：放射断面（スケール=25 μm）.

図14 鹿田遺跡第12次調査出土井戸枠等の顕微鏡写真

3. 鹿田遺跡第20次調査出土の木製品類の樹種

能城 修一（明治大学黒耀石研究センター）

a. はじめに

『鹿田遺跡16』で報告した217点に加えて、鹿田遺跡第20次調査で出土した中世前半から近世の木製品類56点の樹種を報告する¹⁾。

b. 方法

樹種同定用のプレパラート標本は、木製品類および自然木から横断面、接線断面、放射断面の切片を片刃カミソリで切りとり、ガムクロラル（抱水クロラル50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50mlの混合物）で封入して作製した。プレパラートには、OKUF-2173～2226の番号を付して標本番号とした。プレパラート標本は明治大学黒耀石研究センターに保管されている。

c. 結果

資料54点には針葉樹3分類群、広葉樹3分類群が認められた（表6、図15）。以下には、木材組織学的な記載を行い、光学顕微鏡写真を提示して同定の根拠を記す。

(1) スギ 枝・幹材 *Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don 図15：1a-1c（ヒノキ科、OKUF-2180）

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。晩材の量はやや多く、早材から晩材への移行は緩やか。早材の終わりから晩材には樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はごく大型のスギ型で1分野に2個。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl 図15：2a-2c（ヒノキ科、OKUF-2210）

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。晩材の量は少なく、早材から晩材への移行は緩やか。早材の終わりから晩材には樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は中型のトウヒ型で1分野に2個。

(3) コウヤマキ 枝・幹材 *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Siebold et Zucc

図15：3c（コウヤマキ科、OKUF-2218）

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。晩材の量はやや多く、早材から晩材への移行は緩やか。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は大型で孔口が斜め～水平に開く窓状で1分野に1～2個。

(4) ケヤキ 枝・幹材 *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino 図15：4a-4c（ニレ科、OKUF-2226）

中型で丸い道管がほぼ単独で年輪のはじめに1～2列配列し、晩材では徐々に小型化した道管が2～数個ずつかたまって斜めに連なる傾向をみせて散在する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は上下端の1列が直立する異性で8細胞幅位、ときに直立部に大型の菱形結晶をもつ。

(5) クリ 枝・幹材 *Castanea crenata* Siebold et Zucc 図15：5a-5c（ブナ科、OKUF-2182）

ごく大型で丸い孤立道管が年輪のはじめに3列ほど配列し、晩材では徐々に小型化した丸い孤立道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性。

(6) ツバキ属 枝・幹材 *Camellia* 図15：6a-6c（ツバキ科、OKUF-2175）

小型～ごく小型で丸い孤立道管が年輪内で徐々に小型化しながら散在する散孔材。道管の穿孔は10段ほどの階段状。木部柔組織は短接線状。放射組織は上下端の1～3列ほど直立する異性で2細胞幅、直立部にはときに大型の菱形結晶をもつ。

d. 考察

当遺跡では、中世前半の曲物や蓋にはヒノキが、井戸枠や板などにはスギが多用され、中世後半以降になると曲物にも板にもスギのみが使われていた（表6）。中世の井戸にはスギがもっとも多く使われており、ヒノキが多用される兵庫県や奈良県、香川県などを除いて、東北地方から九州北部まで各地で選択されていた（伊東・山田2012）。岡山大学構内でも同様であり、鹿田遺跡第5次調査（能城1993）や、鹿田遺跡第12次調査（能城2023）、鹿田遺跡第24次調査（能城2018）で古代末期～中世前半の井戸でスギがもっとも多く使われていた。

註

- 1) 鹿田遺跡第20次調査B・D地点発掘調査の報告は2022年3月に『鹿田遺跡16』（岡山大学構内遺跡発掘調査報告第38冊）として刊行しており、出土木製品類217点の同定報告を行っている。諸事情により、刊行後に樹種同定を実施した木質資料56点についてここで報告し、表7では製品別に集計した252点について合計の集計表を掲載する。

【引用文献】

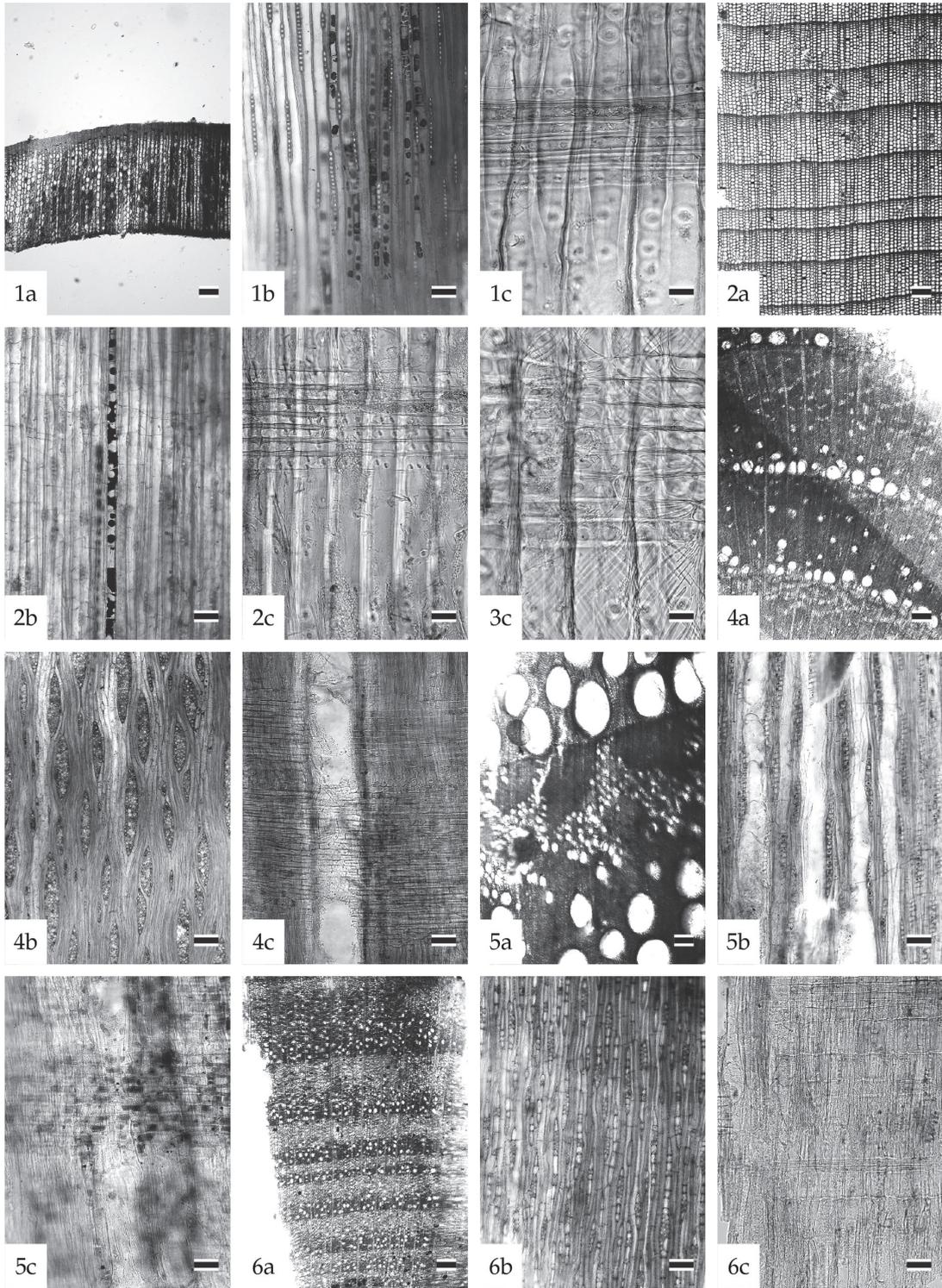
- 伊東隆夫・山田昌久編2012『木の考古学：出土木製品用材データベース』海青社
 能城修一1993「岡山大学鹿田地区から出土した木製品の樹種」『鹿田遺跡3－第5次調査－』pp.119-146 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
 能城修一2018「鹿田遺跡第24次調査出土木製品類の樹種」『鹿田遺跡11－第24次調査－』pp.70-75 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
 能城修一2022「鹿田遺跡第20次調査出土木製品累の樹種同定」『鹿田遺跡16』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
 能城修一2023「鹿田遺跡第12次調査出土の井戸枠等の樹種」『岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門紀要2022』pp.21-22 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門

表6 鹿田遺跡第20次調査で出土した木製品の樹種（1）

樹種名	中世前半 (11世紀末～12世紀)						中世前半 (13世紀末～14世紀初)			中世 後半	中世後半 (15～16世紀)			近世		総計	
	曲物	箸	柄	井戸枠	くさび	板	加工木	板	杭	加工木	椀	曲物	板	加工木	曲物		板
スギ	1			18	1	3		1		1		1	5	1	1	3	36
ヒノキ	6	2		5			1		1								15
コウヤマキ				1													1
ケヤキ									1	1							2
クリ											1						1
ツバキ属				1													1
総計	7	2	1	24	1	3	1	1	3	1	1	5	1	1	3		56

表7 鹿田遺跡第20次調査で出土した木製品の樹種（2）

樹種名	中世前半 (11世紀末～12世紀)							中世前半 (13世紀末～14世紀初)				中世 後半	中世後半 (15～16世紀)			中世後半～ 近世			総計	
	曲物	箸	柄	井戸枠	くさび	板	加工木	板	杭	加工木	曲げ物	椀	曲物	板	加工木	杭	曲物	板		桶
モミ属				8		8	3	1												20
ツガ属									1											1
コウヤマキ				12																12
スギ	1	1		135	1	8		2		1		1	6	1		1	1	3	18	180
ヒノキ	6	2		9		1	1	1		1	1									22
モクレン属																	2			2
ニレ属									2											2
ケヤキ									1	1										2
エノキ属								1	1											2
クリ								1				1					3			5
スダジイ						1														1
カエデ属							1													1
ツバキ属			1																	1
エゴノキ属						1														1
総計	7	3	1	164	1	19	5	6	5	3	1	1	6	1		6	1	3	18	252



1a-1c: スギ (ヒノキ科, OKUF-2180), 2a-2c: ヒノキ (ヒノキ科, OKUF-2210), 3c: コウヤマキ (コウヤマキ科, OKUF-2218), 4a-4c: ケヤキ (ニレ科, OKUF-2226), 5a-5c: クリ (ブナ科, OKUF-2182), 6a-6c: ツバキ属 (ツバキ科, OKUF-2175). a: 横断面 (スケール=200 μ m), b: 接線断面 (スケール=100 μ m), c: 放射断面 (スケール=25 (1c, 2c, 3c), 50 (4c, 5c, 6c) μ m).

図15 鹿田遺跡第20次調査出土木製品類の顕微鏡写真

表8 鹿田遺跡第20次調査出土木製品類の樹種一覧

標本	番号	樹種	SR	木取り	製品名	遺構番号	掲載番号	時期	備考
OKUF	1959	ヒノキ	S	柁目	側板	土坑20	-	19世紀前半	
OKUF	1961	スギ	S	柁目	側板	土坑20	-		
OKUF	2173	スギ	S	柁目	曲げ物	井戸24	図82W62	18世紀	
OKUF	2174	スギ	S	板目	板材	井戸17	図72W58	15世紀末～16世紀前半	
OKUF	2175	ツバキ属	S	芯持ち削り出し	柄	井戸4	図24W1	11世紀後葉～12世紀前葉	
OKUF	2176	スギ	S	板目	板材	井戸16	図70W54	16世紀前半	
OKUF	2177	スギ	S	板目	板材	井戸16	図70W53		
OKUF	2178	スギ	S	柁目	加工材	井戸16	図70W55		
OKUF	2179	スギ	S	柁目	曲物底板	井戸16	図70W51		
OKUF	2180	スギ	S	板目	板材	井戸16	図70W52		
OKUF	2181	スギ	S	柁目	板材	井戸16	図70W56		
OKUF	2182	クリ	S	横木取り	漆塗り碗	井戸18	-	15世紀末～16世紀前半	保存処理中
OKUF	2183	スギ	S	柁目	板材	土坑20	-	17世紀末～18世紀半ば	
OKUF	2184	スギ	S	柁目	板材	井戸5	-	11世紀後葉～12世紀前葉	
OKUF	2185	ヒノキ	S	柁目	加工材	井戸5	図26W7		
OKUF	2186	ヒノキ	S	板目	曲げ物	井戸5	図26W3		
OKUF	2187	ヒノキ	S	板目	曲げ物蓋	井戸5	図26W4		
OKUF	2188	ヒノキ	S	板目	曲げ物	井戸5	図26W5		
OKUF	2189	ヒノキ	S	柁目	曲げ物底板	井戸7	図31W35	12世紀前半	
OKUF	2190	ヒノキ	S	板目	曲げ物底板	井戸7	図31W34		
OKUF	2191	スギ	S	板目	板材	井戸7	図31W41		
OKUF	2192	スギ	S	板目	曲げ物側板	井戸7	図31W42		
OKUF	2193	ヒノキ	S	割材	箸	井戸7	図31W36		
OKUF	2194	スギ	S	割材	くさび	井戸7	図31W38		
OKUF	2195	スギ	S	板目	板材	井戸7	図31W40		
OKUF	2196	ヒノキ	S	割材	箸	井戸7	図31W37		
OKUF	2197	ヒノキ	S	柁目	曲げ物底板	井戸7	-		
OKUF	2198	スギ	S	割材	細い角材状	溝18	図61W47	13世紀末～14世紀初	
OKUF	2199	ヒノキ	S	板目	角材	溝18	図61W48		
OKUF	2200	ケヤキ	S	丸木	丸木	溝18	-		
OKUF	2201	スギ	S	柁目	板材	溝18	図61W49		
OKUF	2202	スギ	S	板目	栈木(凹)西	井戸5	図26W12	11世紀後葉～12世紀前葉	
OKUF	2203	スギ	S	板目	栈木(凸)北	井戸5	図26W14		
OKUF	2204	スギ	S	板目	栈木(凸)南	井戸5	図26W13		
OKUF	2205	スギ	S	板目	栈木(凹)東	井戸5	図26W15		
OKUF	2206	スギ	S	割材	S支木2	井戸7	表5-85	12世紀前半	
OKUF	2207	スギ	S	割材	S支木1	井戸7	表5-84		
OKUF	2208	ヒノキ	S	柁目	栈木	井戸7	-		
OKUF	2209	スギ	S	割材	支木	井戸7	-		
OKUF	2210	ヒノキ	S	板目	N栈木2	井戸7	表5-81		
OKUF	2211	ヒノキ	S	追い柁目	N栈木1	井戸7	-		
OKUF	2212	スギ	S	板目	N支木1	井戸7	-		
OKUF	2213	スギ	S	割材	N支木3	井戸7	表5-83		
OKUF	2214	スギ	S	割材	S支木3	井戸7	-		
OKUF	2215	スギ	S	板目	E支木	井戸7	-		
OKUF	2216	ヒノキ	S	追い柁目	S栈木1	井戸7	表5-82		
OKUF	2217	スギ	S	板目	E支木2	井戸7	-		
OKUF	2218	コウヤマキ	S	板目	E栈木1	井戸7	-		
OKUF	2219	スギ	S	板目	S栈木3	井戸6	図28W32	12世紀初頭～前半	
OKUF	2220	ヒノキ	S	板目	S栈木2	井戸6	図28W33		
OKUF	2221	スギ	S	板目	N栈木3	井戸6	図28W28		
OKUF	2222	スギ	S	板目	W栈木2	井戸6	図28W30		
OKUF	2223	スギ	S	板目	W栈木1	井戸6	図28W29		
OKUF	2224	スギ	S	板目	W栈木3	井戸6	図28W31		
OKUF	2225	スギ	S	板目	N栈木	井戸6	図28W27		
OKUF	2226	ケヤキ	S	丸木	杭	溝18	-	13世紀末～14世紀初	

第2章 調査資料の整理および公開・活用

第1節 調査資料の整理・保存処理

1. 調査資料の整理

2022年度は、津島岡大遺跡第37・39・40次調査、鹿田遺跡第12・19・22・28・29次調査の整理作業を実施した。具体的には、津島岡大遺跡第37次調査では遺物の復元・実測、津島岡大遺跡第39次調査では遺物の注記・復元・実測、津島岡大遺跡第40次調査では遺物の洗浄・注記を実施した。鹿田遺跡第12次調査では遺物のトレース、鹿田遺跡第19次調査では遺物の仕分け、計量、鹿田遺跡第22次調査では遺物の実測・トレース・版組、種子選別、鹿田遺跡第28次調査では遺物の注記、鹿田遺跡第29次調査では遺物の洗浄・注記を行った。そして、津島岡大遺跡第39次調査については、『津島岡大遺跡22』（岡山大学構内遺跡発掘調査報告第39冊）として刊行した。

自然科学的分析は表9の通りである。

表9 2022年度分析一覧

調査次	分析資料	分析の種類	分析機関・分析者	主な結果
津島岡大遺跡第39次	木製品	樹種同定	能城修一	『津島岡大遺跡22』参照
津島岡大遺跡第39次	土壌	プラントオパール分析	宇多津徹朗	『津島岡大遺跡22』参照
鹿田遺跡第12次	木製品	樹種同定	能城修一	本書第1章第3節参照
鹿田遺跡第20次	木製品	樹種同定	能城修一	本書第1章第3節参照
鹿田遺跡第22次	木製品	樹種同定	能城修一	分析中
鹿田遺跡第22次	種子	同定	沖陽子	分析中
鹿田遺跡第22次	動物遺存体	同定	富岡直人	分析中
鹿田遺跡第22次	貝	同定	福田宏	分析中

2. 調査資料の保存処理

a. 出土遺物の委託保存処理

鹿田遺跡第28次調査出土曲物の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託し、2022年12月に納品された。

(木村 理)

第2節 調査成果の公開・活用

1. 公開・展示

a. 第21回岡山大学キャンパス発掘成果展「藤原摂関家殿下渡領 鹿田庄」

(1) 開催に至るまでの経過

本展示会は本来2021年度の開催を予定して準備を進めていたもので、展示自体は完成させていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行が収まらなかったため、2022年2月に年度内の開催を見送り、次年度前半での開催を計画することとした。

2022年3月、岡山大学が策定している全学の活動制限指針において制限レベルが引き下げられた。これをうけて、4月には、関連イベントは実施しないこと、広報は県内に限ることなど、自主的な制限を設けたうえで、5月26日から発掘成果展を開催する方針を決定し、4月28日に開催のチラシを発送した。その後、3年ぶりに行動

制限のない大型連休を挟むこととなったが、連休後も感染者の急増はみられなかったため、予定通り本展示会を開催することとした。

(2) 概要

会期は2022年5月26日（木）～31日（火）までの6日間で、岡山大学大学院文化科学系総合研究棟一階の考古資料展示室を会場に開催した。しかし、広報を県内に限ったことにくわえ、この時期は未だ不要な外出を控える雰囲気が社会全体に広がっていたこともあり、6日間の観覧者は75名であった（図16）。

新型コロナウイルス感染症への対応について、大学全体では、入構者および当日の体調を把握するための問診票の記入が求められた。本展示では、感染拡大防止のため、入室時には手指消毒、マスクの着用、検温を求めることとした。さらに、混雑時には入室制限を行うこともチラシに明示した。

また、これまでのキャンパス発掘成果展では、展示解説を随時行っていたが、飛沫感染防止のため、今回は実施しなかった。また、会場での滞在時間を短縮するため、アンケートも取りやめた。

(3) 展示内容

本展示の内容は、発掘調査の成果をもとに古代・中世の鹿田庄のようすをパネルと出土遺物によって紹介するもので、導入、古代の鹿田、中世の鹿田庄のまとめりで構成した（図17）。

導入では、全体的な概要として、文献や絵図による記録を紹介し、また、鹿田庄のおよその広がりや現在の地図で対照できるように、航空写真を用いて示した。また、発掘成果の写真や図を記入した鹿田キャンパス配置図を作成し、どの地点でどのような成果がみられたのかを視覚的に紹介した。



図16 展示見学風景

導入では、全体的な概要として、文献や絵図による記録を紹介し、また、鹿田庄のおよその広がりや現在の地図で対照できるように、航空写真を用いて示した。また、発掘成果の写真や図を記入した鹿田キャンパス配置図を作成し、どの地点でどのような成果がみられたのかを視覚的に紹介した。

古代の鹿田については、大形の井戸と掘立柱建物群、橋といった、一般的な集落にはない遺構をパネルで紹介した。出土遺物として、丹塗り土師器、緑釉陶器などの搬入品、墨書土器や硯などの文字関連資料と識字層の存在を推測させる石帯を展示した。こうした遺構・遺物から、古代の鹿田には荘園を営むうえで必要な管理をつかさどる施設が置かれていたと推測できることを示した。

中世の鹿田庄は本展示の中核をなすもので、鹿田庄のもつ多面性を伝えることを意図した内容とした。まず、鹿田遺跡で確認された中世の屋敷地や大規模な区画溝などの遺構をパネルで紹介し、その後、「運び込まれた品々」「使われた道具」「井戸のまつり」「墓」のカテゴリーに分けて展示した。「運び込まれた品々」では、遠隔地から搬入された土器・陶磁器を展示することにより、瀬戸内海と旭川の結節点に位置する鹿田庄が水上交通や物流の要地であることを示した。「使われた道具」「井戸のまつり」「墓」では、日常雑器、祓いや葬送の道具といった、日々の暮らしのさまざまな場面で使用された遺物を展示し、鹿田庄が人びとの日常生活の場でもあることを示した。

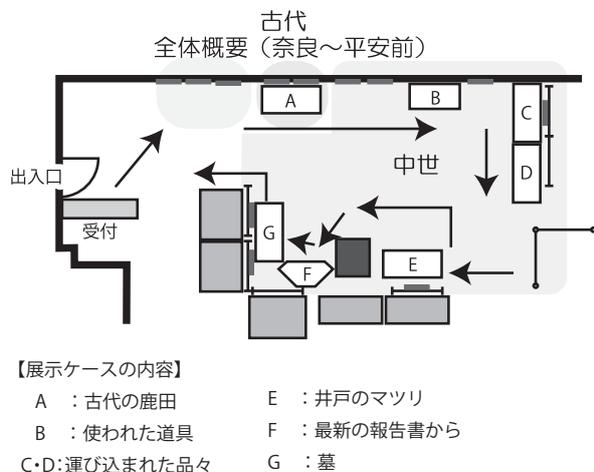


図17 展示会場見取図

そのほか、最新の報告書から逸品を一点紹介する展示ケースを置き、鹿田遺跡（第20次調査地点）出土猿形水滴（近世）を展示した。

b. 岡山大学文明動態学研究所第1回特別展「津島から世界へ、世界から津島へ」

第1回特別展「津島から世界へ、世界から津島へ」（以下、本特別展）を開催した。文化遺産マネジメント部門も企画・準備・運営に大きく関与しており、本項でその概要を報告する。

会場：岡山シティミュージアム 4階企画展示室
 会期：2023年2月10日（金）～3月19日（日）、休館日：月曜日、開催日数：33日
 主催：岡山大学文明動態学研究所・岡山シティミュージアム
 協力：倉敷考古館・BIZEN中南米美術館
 特別協力：本谷裕子
 後援：駐日グアテマラ共和国大使館・山陽新聞社
 資料提供：岡山県古代吉備文化財センター・岡山市教育委員会・岡山大学考古学研究室・岡山大学附属図書館・岡山理科大学・行田市郷土博物館・備前市教育委員会・市川清・松原従彦
 入館者数：2,914名（展示見学2,720名、関連イベント194名）
 入館料：無料

(1) 経緯と経過

本部門は2022年度に本特別展の開催を企画した。その主たる理由は、津島岡大遺跡における発掘調査の開始から2022年に40年を迎えること、埋蔵文化財調査研究センター（以下、埋文センター）が文明動態学研究所に改組され、新体制がスタートすることにあつた。

本特別展の開催にむけて始動したのは2021年5月である。まず、会場候補として、これまでも特別展を開催してきた岡山シティミュージアムに展示室の予約状況の確認と大まかな内容の打診を行った。12月までには会場、会期が決定し、2022年2月からは埋文センター・研究所メンバーによる合同ワーキンググループを立ちあげた。4月からは埋文センターが研究所に改組され、開催にむけた本格的な検討・準備に入った。ただし、コロナ禍のもとでの活動であり、ワーキンググループメンバーが同じキャンパス内に居たとしても、オンラインによる会合を余儀なくされた。そうしたなかにあつて、本部門所属のメンバーは少人数であつたため、感染しないように注意を払いながら、可能な範囲で対面でのミーティング、原稿読み合わせ等を実施し、スムーズな意思疎通をはかった。

借用資料の調査、パネル作成用の写真撮影については、7月から約3か月の期間で各機関を随時訪問し、借用調書作成等の作業を実施した。こうした作業を経て、借用資料も含めた展示資料の構成が固まり、展示ケースの配置や大型造作物の作成もあわせ、具体的な展示レイアウトを確定させた。

ポスター・チラシについては、原案を一般公募することとし、7月7日に研究所HPに案内を掲載して募集を開始し、8月31日を締め切りとした。期間中に応募のあつた作品のなかから、厳正な審査を行ったうえで1点を採用し、10月13日に研究所HPにて結果発表を行った。本デザイン案はポスターのほか、チラシ、HP、看板などのさまざまな広報媒体、パンフレットの表紙で利用した。

2023年1月下旬からは借用資料の集荷を行った。展示会場設営は2月1日から開始し、2月9日に完了した。開会日である2月10日には開会式典を行った。会期中、関連企画として、別項で報告する公開講座3回、記念講演1回を開催した。会期終了後、3月22日から撤収作業を開始し、24日に終了、借用資料の返却は28日から開始

し、31日に完了した。

(2) 企画とねらい

本特別展は、文明動態学研究所の開催する第1回特別展であり、本研究所がめざす「異なる分野・地域・時代を結ぶ研究を推進し、人文・社会科学の新しい未来を開拓する」という研究スタイルを表現する企画とすることとした。具体的な展示資料としては、現在、研究所の取り組んでいる調査研究から津島岡大遺跡とマヤ文明を取りあげることとし、資料の内容を考慮して以下の二部構成とした。

第1部は、本研究所が拠点とする岡山大学津島キャンパスを中心とした「津島」(岡山市北区津島一帯)の歴史をとりあげる内容とした。これは、本研究所文化遺産マネジメント部門とその前身である埋蔵文化財調査室・埋文センターが実施してきた津島岡大遺跡の40年にわたる発掘調査と研究の蓄積にもとづくものである。

第2部は、本研究所が重要な研究課題の一つとして掲げている「国境を越えた人類史学としての考古学」として、中央アメリカに栄えたマヤ文明を取りあげた。津島キャンパスで行われている「世界」を舞台とした多様な研究のなかでも、特に古代マヤ文明が主要な研究フィールドとなっているからである。

これらは取り扱う地域、時代、資料、内容が異なっているが、通底では共鳴する点もある。こうした展示構成のねらいには、人類に普遍の現象を探求することも新学問「文明動態学」の大きな役割の一つであるという考えが反映されている。

(3) 展示内容

会場は岡山シティミュージアム4階企画展示室である。関連企画である写真展は、会場に隣接するロビーで実施した。企画展示室(約680㎡)は9区画に分割してテーマ別のコーナーを配し、入口から5区画を第1部、続く3区画を第2部、最後の1区画をVR体験として割り振った(図18)。

第1部は「研究の拠点、津島を知る」と題した。「津島」という小さな地域の、縄文時代から近代にいたる約5000年の歴史を描き出す。

展示品と解説パネルで構成される「津島の地名となりたち」「狩猟・採集・漁労から農耕へー縄文・弥生時代ー」「生産力の増大と首長墓の出現ー弥生時代・古墳時代ー」「条里と農村の景観ー古代～近世ー」「陸軍第十七師団の創設ー近代ー」の5つのコーナーに加え、津島岡大遺跡の発掘調査史をパネルで紹介する「津島岡大遺跡発掘40年」のコーナーを設けた。展示品は文化遺産マネジメント部門の所有する津島岡大遺跡の遺物・写真と文明動態学研究所に寄贈された陸軍軍人の遺品を主体に、県内の大学・機関等から借用して構成した(図19上)。

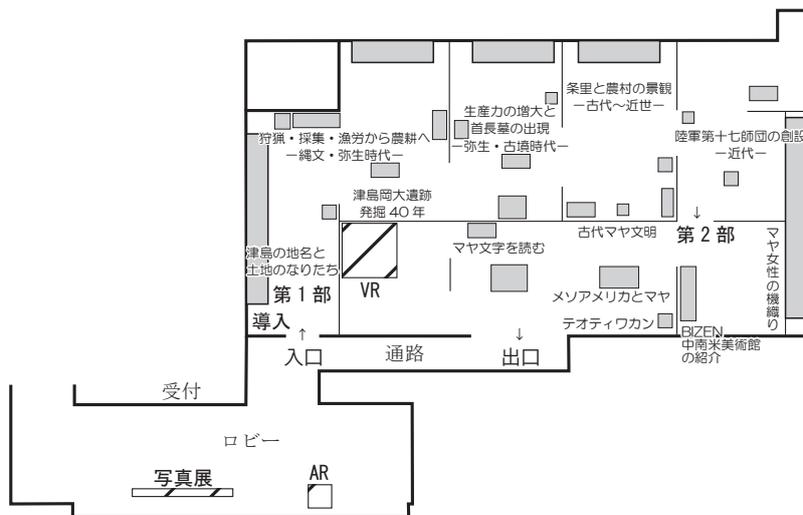


図18 展示会場見取図

第2部は「現代に生きるマヤ文明」と題し、本研究所の主要な研究フィールドとなっているマヤ文明を取りあげた。マヤ文明の起源、広い領域での文化の交錯、文明の発達とスペインによる征服を経て、現在を生きるマヤの人びとまでを紹介した。展示品は、BIZEN中南米美術館所蔵品および本谷裕子氏所蔵品を借用して構成した(図19中)。

そのほか、VR (Virtual

Reality；仮想現実)、AR (Augmented Reality；拡張現実) を体験できる装置を展示室およびロビーに設置し、不定期で稼働した。VRは専用ゴーグルを装着し、遺跡を再現したフィールドを見渡したり、土器を手にとったりという体験ができる。ARはタブレット上で土器の写真を回転させ、自由に観察できるものとした。関連企画の写真展は「カラー写真でみる1952年の岡山の街・人びと-J・ホールのいたミシガン大学日本研究所岡山分室の遺産-」と題するもので、当時撮影されたカラースライドを8枚のパネルに引き伸ばし、展示したものである(図19下)。

なお、本展示を構成するにあたり、本谷裕子氏(マヤ女性の機織り等)、鈴木茂之氏(津島の地形のなりたち)、松岡弘之氏(陸軍第十七師団)、森下矢須之氏(マヤ文明)、長志珠絵氏、福島幸宏氏、衣川太一氏(写真展)に多大なる協力をいただいたことを明記しておく。

(4) 情報発信、公開

開会を報じる新聞・テレビの報道、展示の内容をアピールするラジオ出演など、報道機関によるもの(表10)のほか、本特別展での新たな試みとして、エックス(旧ツイッター)、研究所のYouTubeチャンネルでの解説動画公開といった情報発信を行った。

エックス(旧ツイッター)の発信内容として、開会・閉会のお知らせ、公開講座・記念講演の案内、VR・ARの稼働日のお知らせ、500人ごとの節目の入場者のお知らせなどのほか、ほぼ一日一回のペースで「今日のセレクト」として展示品紹介を行った。期間中のポストは計45回で、表示回数は42,081回(3月20日15時時点)である。動画公開は、解説動画をタブレットで自撮りし、研究所のYouTubeチャンネルで公開したが、クオリティの問題があった。その後、本学教育学部国吉康雄研究講座の才土真司准教授の撮影・製作による記録動画を別に撮影した。現在、公開にむけた編集作業が進められている。

(5) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の広がりにより、2020年春から断続的に社会経済活動に制限が設けられてきた。しかし、本特別展の開催期間である2023年2・3月になると、一定の警戒は続けながらも社会経済活動を徐々に再開する方向に社会的雰囲気が醸成されてきていた。そこで、本特別展では以下の対策をとることとした。



図19 展示風景

上：第1部
中：第2部
下：写真展

表10 報道機関による情報発信

媒体	年月日	会社名
ラジオ	2022年12月23日	岡山シティエフエム
ラジオ	2023年1月25日	岡山シティエフエム
ラジオ	1月27日	岡山シティエフエム
ラジオ	2月8日	岡山シティエフエム
新聞	2月11日	山陽新聞
テレビ	2月14日	岡山放送
ラジオ	2月16日	山陽放送
ラジオ	2月21日	山陽放送
ラジオ	3月9日	山陽放送

示解説は人と人との密な接触があること、「マスク着用は個人の判断が基本」という政府の基本的対処方針に基づく対応が示されたのが3月13日で、残り会期6日をのこすのみというタイミングであったことから、常時の展示解説は取りやめ、感染リスクの回避を優先させることとした。

(6) アンケート結果（表11・12）

本特別展の観覧者の属性、展示の内容・難易度等についての観覧者の評価を調査する目的でアンケートを実施し、609通の回答があった。関連催事を除く入場者数は2,675名で、回収率は22.8%である。

観覧者の属性を問う項目は、性別、年齢、学内／学外、学外者については市内／市外とした。なお、各質問に回答するか否かは回答者の自由としている。以下、順に集計結果を挙げる。

性別については男性297名、女性222名、無回答90名であった。年齢については、10才刻みの幅で選択肢を提示した。ただし、本特別展は大学の主催するものであり、大学生の動向を把握するという目的で、10代・20代のみ、大学生の中心となる年齢層となる19～22才の選択肢を設けた。年齢ごとの入場者数は、50代、60代、70才以上でそれぞれ100名を超えた。一方、10代から40代は約30～60名である。特に大学生に該当する年齢層では33名と少なかった。

学内・学外の別は、回答251名で学内41名、学外210名であった。市内・市外の別では回答369名で、市内210名、市外は159名であった。市外のなかには北海道や関東、九州といった遠方からの来場者も散見された。

展示の内容、難易度を問う項目は、印象にのこったもの（複数回答可）、5段階評価の難易度である。印象にのこったものについて、第1部では「縄文～弥生時代」222名、第2部では「マヤ文字」119名が最多であった。

表11 アンケート結果（1）

年齢層	人数
～9才	1
10～18才	63
19～22才	33
23～29才	40
30～39才	34
40～49才	62
50～59才	106
60～69才	112
70才～	111

難易度	人数
5（わかりやすい）	220
4	266
3（普通）	83
2	8
1（わかりにくい）	3

これ以外で注目されるのは、第1部では「津島の地名となりたち」について166名、第2部では「現代を生きるマヤ」について94名が印象にのこったと回答したことである。「津島の地名となりたち」は第1部のプロローグとしての位置づけであったが、展示全体への興味関心を引き起こす導入として有効な内容であったことがうかがえる。第2部の「現代を生きるマヤ」は、マヤ先住民の女性たちが作る織物や伝統衣装といった創造品がさまざまな文化的・経済的搾取にさらされている事態と、こうした創造品の知的財産権を守る主張や活動について紹介するものであるが、観覧者は展示の主体となっている歴史や文化という内容だけでなく、こうした現在進行形の課題にも関心を寄せていたことをうかがわせる。

難易度については、「わかりやすい」から「普通」を挟んで「わかりにくい」までを5段階評価としたところ、「わかりやすい」から「普通」までが569名で93%を占めた。

そのほか、本特別展の開催について、観覧者が情報を得た認知媒体を質問し

た。これも複数回答を可とした。その結果、ポスターが最も多く、チラシ、新聞と続いた。HPや知人、研究所からのリピーターへの案内が40～60名前後の回答があったが、メール、SNSでの案内を回答した方は少数であった。そのほか、ラジオでの取材・発信についても来場の契機としては少数の回答にとどまった。

自由記述では、「おもしろかった」「興味深く拝見した」という好意的な意見が多数みられた。また、「定期的に開催してほしい」「常設の博物館を岡大につくってほしい」といった、公開の機会の増加を求める意見も多くみられた。第1部と第2部の関係については、「よくわからなかった」「共通点が見いだせなかった」という意見があった一方で、「一見つながらない二つの地域だが、比較することで共通点に気づくことができた」という意見もあった。展示方法については、「すっきりしていて、いい構成」「パネルの文字が大きく、解説文の内容も整理されて分量も程よく読みやすい」という意見の一方で、展示効果をねらって全体の照明を暗転させた第2部については「パネルが見にくい」という意見があった。

(7) まとめ

本特別展がこれまでの特別展と大きく異なった点として、改組によって体制や人員構成が変わったことによる運営のあり方、スマートフォンやタブレットの普及により、写真撮影やSNS等を利用した個人の情報発信が普通のこととなった社会状況下での開催となったこと、コロナ禍での開催となったことが挙げられる。

まず、運営では、スケジュールや企画・内容の検討、印刷物の作成等において、これまでは埋文センター内での調整で済ませていたことも、ワーキンググループでのミーティングでコンセンサスを得ながら進めた。以前に比べ、ミーティングのスケジュール管理や議事録の作成など、求められる労力と時間が増えた面もあったが、議論がオープンで民主的になったことは良かった点である。こうした時間と労力を確保するため、本部門がこれまでに積み上げてきたノウハウを見直し、無駄や非合理的なものを削ぎ、必要な作業をより効率的で洗練したかたちで進めるよう努めた。そのほか、各作業が遅延しないよう、スケジュール管理を徹底した。

新たな試みであったSNSでの発信について、不特定多数の閲覧者にむけて研究所の存在を周知すること、研究所の活動内容を発信することなど、展示会への来場を誘導することとは異なる面での効果が見込まれた。一方で、写真や所蔵品の権利関係のことなども認識したうえでの活用が必要で、発信内容については細心の注意を払った。また、SNSでの利用も見越した観覧者の写真撮影への対応について、ほとんどの資料・展示品は、各所蔵機関から確認をとり、ストロボ禁止・商業利用禁止のうえ、写真撮影を可とした。そのうえで撮影した写真のSNSなどでの利用は個人の良識の範囲内でお願ひするパネルを掲示した。コロナ禍での対応については先述のとおりである。

以上、本特別展では当初の目的を達成し、おおむね好評を得ることができた。一方で、準備を進めていく過程や、終了後のアンケートの整理作業において改善すべき点もみられた。こうした点は、次回以降の特別展に反映させ、より良い展示会をめざしていきたい。

(野崎)

表12 アンケート結果(2)

認知媒体 (複数回答可)	回答数
ポスター	122
チラシ	94
新聞	61
ラジオ	5
HP	52
知人	64
お知らせの封書	40
メール	6
X (旧ツイッター)	17
フェイスブック	6
その他 (団体含)	166

印象にのこったもの (複数回答可)	回答数
第1部 (全体)	22
津島の地名となりたち	166
縄文～弥生時代	222
弥生時代～古墳時代	141
古代～近世	57
近代	95
第2部 (全体)	11
古典期のマヤ	54
マヤ文字	119
メソアメリカとマヤ	62
テオティワカン	73
現代を生きるマヤ	94
その他	7

c. 岡山大学文明動態学研究所第1回特別展公開講座

2022年度の公開講座は、岡山大学文明動態学研究所第1回特別展の開催とあわせ、その関連講座として実施した。開催形式は特別展とあわせて対面としつつも、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加者数は会場の定員を下回る60人を上限とした。各回の内容は特別展のコンセプトに沿う形で設定し、講座終了後に講座内容に関連した遺物展示を観覧して理解をより深めてもらえるよう配慮した。また、参加費は特別展と同様、無料とした。

参加者に実施したアンケートでは、50代以上の方が多くを占めつつ、学生を含む20代の方が一定数含まれるなど、幅広い層の参加を得ることができた。また、各回ともにこれまで岡山大学公開講座の受講をしたことのない方々の参加が顕著であった。リピーターの方に加えて、より幅広い内容を含む展示構成によって参加者層の裾野を広げることができたといえる。

実施内容は以下の通りである。

第1回「津島とマヤ・グローカルな研究最前線」

2023年2月12日（日）14：00～16：00 岡山シティミュージアム 4階講義室

参加者59名

鈴木真太郎（岡山大学文明動態学研究所教授）「マヤ文明黎明期における住まい、食、儀礼：津島岡大遺跡との対比を通してみえるヒトの普遍性と地域的特性」

山口雄治（本部門助教）「津島岡大遺跡の縄文・弥生時代－古代マヤとの比較を見据えて－」

第2回「津島にのこる戦争の歴史」

2023年2月26日（日）14：00～16：00 岡山シティミュージアム 4階講義室

参加者58名

松岡弘之（岡山大学社会文化科学学域准教授）「日露戦争と岡山」

野崎貴博（本部門助教）「農村から陸軍駐屯地へ－明治時代の津島－」

第3回「文化財の保存と未来への活用」

2023年3月11日（土）14：00～16：00 岡山シティミュージアム 4階講義室

参加者28名

今津勝紀（岡山大学文明動態学研究所教授）「地域歴史資料保全の取り組み－災害と人々の暮らし－」

岩崎志保（本部門准教授）「ICT技術による展示・公開の試み」

2. 資料・施設等の利活用

a. 調査・研究への支援

(1) 資料調査

- ・津島岡大遺跡第32・33次調査出土縄文土器：松井翔吾（岡山大学考古学研究室）2022年7月29日
- ・鹿田遺跡出土弥生土器：式田洸（京都大学大学院）2022年9月26日～30日
- ・鹿田遺跡出土資料：吉川真司（京都大学大学院）ほか5名 2022年9月29日
- ・鹿田遺跡第13次調査出土土錘：川本理央（広島大学）2022年11月2日～3日

(2) 図書の貸し出し

- ・5冊（岡山大学教員・学生）

(3) 資料提供

- ・津島岡大遺跡第28次調査出土縄文土器：野坂俊夫（岡山大学理学部）2022年5月2日

- ・福呂遺跡出土縄文土器：野坂俊夫（岡山大学理学部）2022年5月2日
- ・鹿田遺跡第9次調査出土備前焼：エフドキア・テマ（トリノ大学）2022年11月14日
- ・津島岡大遺跡第23次調査他出土木製品：藤尾慎一郎ほか（国立歴史民俗博物館）2023年2月15日～16日

(4) 資料の貸出

- ・津島岡大遺跡第9次調査出土縄文土器：岡山県立博物館 2023年2月～2024年3月

(5) 写真掲載・画像利用等

- ・『津島岡大遺跡14』縄文土器写真：幡中光輔（鳥根県出雲市）2023年1月18日
- ・『津島岡大遺跡4』縄文土器写真：木村理（考古学研究会第69回総会・研究集会実行委員会）2023年1月23日
- ・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』No.54掲載図：梓書院 2023年3月15日

(6) マスコットキャラクター利活用

- ・しかたん画像 岡山大学工学部創造工学センター 8月10日
- ・しかたん着ぐるみ 岡山大学医療安全管理部 2022年11月18日～25日
- ・しかたんイベント参加 古墳フェスにはにコット 2022年11月27日

b. 教育支援

(1) 博物館実習

2022年度の人文系博物館実習 a では「考古資料の取り扱い」を担当し、8月9・19・22日に26名の実習生が受講した。本実習では発掘調査で出土した資料の整理作業を通じて基礎的知識を習得することを目的とした。コロナ禍ということもあり、感染対策を十分に講じたうえで行った。実習は、土器の注記・接合作業および鉄器の保存処理作業を中心に行った。また、各回の最後には、実習内容の総括と反省について個別に発表する時間を設けた。このディスカッションを通じて、個々の実習の習熟度とコミュニケーション能力の向上が見込まれた。さらに、非常勤職員とともに作業にあたるという職場環境を提供し、実践型社会連携教育の効果も図った。

(2) 学内ワークスタディ

2022年度は1名の学生（法学部）を雇用し、構内遺跡出土の遺物整理作業、および発掘調査報告書作成作業を行った。

c. 社会貢献

(1) 中学生職場体験

- ・岡山市岡北中学校 2021年11月9日～11日 3名

(2) 職員の兼務

岩崎志保

- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

野崎貴博

- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

山口雄治

- ・ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科 非常勤講師
- ・金沢大学古代文明・文化資源学研究所 客員研究員

(3) 展示見学の受け入れ

- ・常設展示室見学：10名（一般10名） （木村）

第3章 2022年度における調査・研究のまとめ

調査

2022年度は、津島キャンパスにおいて工学部総合実験研究棟新営に伴う試掘・確認調査を実施した。本調査では、遺物や遺構は確認されなかったものの、津島キャンパス北東部の地形に関する情報を得ることができた。とりわけ、津島キャンパス北東部は北西方向に下がる地形を呈し、本調査地点と半田山の残丘の間には中世の時点で湿地が広がる点、それが縄文時代以前における地形を踏襲したものである点が判明した。また、本調査地点の南側に位置する第31次調査地点で検出されていた、条里区画に対応する南北溝が本調査地点までは延伸しないことが明らかになった点も特筆される。これにより、第6・7・9・22次調査地点で検出された東西溝を境に、北側には条里溝が設けられないなど、その南北で地割りのあり方が異なる可能性が高まった。このように、本調査では津島キャンパス北東部における地形復元や条里地割りを検討していくための新たなデータを得ることができたといえる。

立会調査は、津島キャンパスにおいて30件が実施された。いずれも小規模なものであったが、津島岡大遺跡第40次調査地点の近隣において「黒色土」を検出するなど、当層の広がり的一端を明らかにすることができた。

研究

発掘調査の資料整理では、津島岡大遺跡第39次調査の成果をまとめ、『津島岡大遺跡22』として報告書を刊行した。本調査地点は津島キャンパス南地区に位置するA地点、同北地区に位置するC～D地点の4つの地点からなるものであった。それぞれの調査区は狭小ではあったが、縄文中期末や後期中葉に位置づけられる遺物包含層、弥生時代前期に位置づけられる水田畦畔が検出されるなど、縄文・弥生時代を中心に大きな成果をあげることができた。

そのほか、木製品の樹種同定を継続的に実施し、そのうち鹿田遺跡第12次・20次調査で出土した木製品の樹種同定成果については本紀要第1章第3節において報告した。

情報発信

2022年度は新型コロナウイルスの感染拡大に最大限の対策を図りながら、対面での調査研究成果の普及啓発活動を再開することができた。延期を余儀なくされていた第21回キャンパス発掘成果展は、5月26日～31日の間に実施し、75人の参加者を得た。

また、本年度は岡山シティミュージアムにて第1回目となる岡山大学文明動態学研究所の特別展を開催した。展示では、本研究所の実施する多角的な研究テーマとして津島とマヤを取り上げ、津島の研究では津島岡大遺跡の発掘40年にあわせて当遺跡を中心とした調査研究成果を展示した。疫禍の影響も見込まれたものの、2月10日～3月19日までの会期中に2,914人の来館者があった。さらに、会期中には3度の公開講座を対面開催し、各回ともに多くの参加者があった。

そのほか、古墳フェスはにコットにブース出展し、岡山大学構内遺跡についての普及啓発を行った。このように、2022年度は対面による各種事業が再開し、より多くの情報発信を行うことができた。オンライン、対面それぞれのメリットを活かしながら様々な方へ成果を届けられるよう、今後も積極的な情報発信に努めたい。

まとめ

以上、2022年度も試掘・確認調査や報告書作成によって成果が得られ、情報発信活動も十分に行うことができた。中でも、岡山大学文明動態学研究所第1回特別展では、本部門の調査研究成果の蓄積を多くの方々を知っていただき、反響も少なくなかった。構内遺跡の調査研究とともに情報発信についても新たな方法を模索しながら事業を推進していきたい。

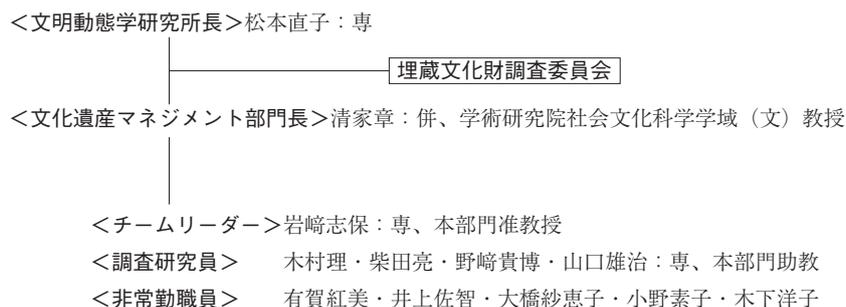
(木村)

資料

1. 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門規程・組織等

a. 2022年度岡山大学埋蔵文化財調査研究組織

(1) 文化遺産マネジメント部門組織



(2) 埋蔵文化財調査委員会

【委員】

松本直子	文明動態学研究所長	大橋俊孝	学術研究院医歯薬学学域（医）教授
清家章	学術研究院社会文化科学学域（文）教授 （部門長）	岩崎志保	本部門准教授（チームリーダー）
今津勝紀	文明動態学研究所教授	渡邊恭令	施設企画部長
加藤鎌司	学術研究院環境生命科学学域（農）教授	野坂俊夫	学術研究院自然科学学域（理）准教授

【2022年度協議・報告事項】

第1回 2023年3月28日

報告事項

- ・令和4年度文化遺産マネジメント部門業務報告について
- ・令和5年度文化遺産マネジメント部門業務計画について

b. 2022年度岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門の規程

(1) 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門内規

(趣旨)

第1条 この内規は、岡山大学文明動態学研究所規程（令和3年岡大文明規程第1号。以下「規程」という。）第9条第5項の規定に基づき、文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門（以下「文化遺産マネジメント部門」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 文化遺産マネジメント部門は、岡山大学（以下「本学」という。）敷地内の埋蔵文化財を含む文化遺産に関して、調査、研究、保護、活用を図ることを目的とする。本

学敷地内の埋蔵文化財については、次の各号に掲げる業務（全学的業務）を行う。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に関すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に関すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護・研究・活用に関する重要な事項

第3条 文化遺産マネジメント部門に、上記の目的を達成するため以下のチームを置く。

- 一 文化財調査チーム

- 二 マネジメントチーム
- 2 2つのチームを統括するチームリーダーを置くことができる。チームリーダーは、規程第5条に掲げる者のうちから、所長が指名する。
 - 3 チームリーダーの任期は2年とし、再任することができる。ただし、指名する所長の任期の終期を超えることはできない。

(雑則)
第4条 この内規に定めるもののほか、文化遺産マネジメント部門に関し必要な事項は、別に定める。

附 則
この内規は、令和4年4月1日から施行する。

(2) 国立大学法人岡山大学埋蔵文化財調査委員会の設置に関する要項

令和4年3月22日
学長裁定

(設置)

第1条 国立大学法人岡山大学（以下「本学」という。）に、本学キャンパス内における埋蔵文化財の保護及び調査の円滑な推進を図るため、国立大学法人岡山大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(審議事項)

- 第2条 委員会は、次の事項を審議する。
- 一 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
 - 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に関すること。
 - 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に関すること。
 - 四 その他埋蔵文化財の保護に関する重要な事項

(組織)

- 第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
- 一 文明動態学研究所長
 - 二 文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門長
 - 三 本学の教授のうちから第1号委員の命じた者若干名
 - 四 文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門チームリーダー
 - 五 施設企画部長
 - 六 その他委員長が必要と認める者

2 前項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号委員をもつて充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
 - 3 委員長に事故があるときには、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、施設企画部施設企画課において処理する。

(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか、委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

附 則
この要項は、令和4年4月1日から施行する。

c. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

平成12年5月15日
埋蔵文化財調査研究センター長
施設部長

I. 請負業者が留意すべき事項

1. 請負業者は現場代理人を発掘作業の現場に常駐させ、作業員の安全と健康の管理につとめること。
2. 発掘作業の現場に「地山掘削」と「土止め支保工」の技能講習修了者をおき、作業員の安全や健康にも注意すること。
3. 工所用電力の保安責任者をおくこと。
4. 非常停止装置を備えたベルトコンベアーを用いること。
5. 重機の運転は、免許所有者がおこなうよう厳守させること。

II. 発掘現場で注意すべき事項

1. 服装・装備・用具等

- 1) 安全で機能的な服装にする。
- 2) 平坦面から2m以上の穴等を掘削する場合は、ヘルメットを着用する。
- 3) ベルトコンベアーの移動時および周辺での作業の際には、ヘルメットを着用する。
- 4) グラインダーを使用する際は、手袋・防護眼鏡を着用する。
- 5) スコップ・草削りなどの用具は、危険がないよう使用方法や置き方や保管方法に十分注意する。

2. 掘削

1) のり面の角度

造成土：通常の土壌の場合は50～60度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。砂地の造成土の場合は35度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。

堆積土：基本75度とし、状況や土質に応じて安全な角度をとる。

発掘区の壁際を深さ1.5m以上掘削する場合は、原則として途中で段を設ける。その場合の段の巾は、60cm以上とする。

2) のり面の保護

のり面はシート等で覆うなどし、崩落防止のために必要な保護措置をとる。

3) 深い遺構（深さ1.5m以上の遺構）

遺構掘削者以外の者が上面で安全確認を行い、十分な注意を払う。場合によっては周囲を広くカットして対応する。なお、作業現場内への昇降のために、階段を設置する。

3. 高所（高さ2m以上の場所）での作業

- 1) 作業中には安全帯を使用する。

- 2) 架台を組んだ場合は最上段に手すりを設け、安全を確保する。

- 3) 2段以上の架台は、分解して移動させる。

4. 発掘用機械類の操作

（ベルトコンベアー・ポンプ等）

- 1) 調査用電源の設置と取扱いについては、工事用電力の保安責任者が安全確認を行う。

- 2) ベルトコンベアー・水中ポンプ等の知識を持つ者が整備・稼働させる。

- 3) ベルトコンベアーを重ねたつなぎ目の部分には、なるべく土が落ちないように措置をする。

- 4) 原則としてベルトコンベアーの直下での作業・通行を避ける。

- 5) ベルトコンベアーの移動時は作業員の中で指揮者を決め、周辺の安全性を確保したうえで移動させる。

（重機関係）

- 1) 重機の免許所有者以外は運転しない。

- 2) 運転者は、周囲の安全に注意する。

- 3) 稼働中は、重機の旋回半径内に立ち入らない。

5. 健康管理

- 1) 作業中に体調が悪くなった場合は直ちに申し出る。

III. その他

- 1) 作業現場内の状況の変化に絶えず注意し、異常を発見したら、直ちに作業を中止して現場代理人に報告し、施設部の監督職員の指示を受ける。

- 2) 調査区の状況や遺構などの特殊性・重要性等により、上記の2の1)～3)どおりに発掘作業を実施することが困難な場合は、現場代理人が監督職員と協議のうえ、安全に留意し作業を行う。

2. 2021年度以前の調査・研究一覧

付表1 1982年度以前の構内主要調査(1980～1982年度)

年度	地区名	種類	工事名称：調査名称	調査組織	調査面積 (㎡)	文献	備考
1980	鹿田	立会	歯学部附属病院棟新営	岡山市教育委員会	8		
1981	津島	BD26	農学部寄宿舎新営	〃			
	〃	〃	文法経 合併処理槽施設	〃			
	〃	〃	文法経 合併処理槽施設	〃			
	〃	BD09、 BC09～11	基幹整備(共同溝取付)	〃			
	〃	BD～BE04～07	陸上競技場改修(配水管施設)	〃			
	鹿田	〃	(医病)高気圧治療室新営	〃			
	〃	〃	(医病)動物実験棟新営	岡山県教育委員会			大学が市教委への確認調査依頼をせずに掘削。その後、岡山市・岡山県教委が残存壁面の調査を実施
	〃	〃	(医病)解剖体臓器処理保管庫新営	岡山市教育委員会			
1982	〃	〃	医学部運動場改修	〃			
	津島	AV06・10、 AW05・14、 AX08、BD07、 BE10	試掘 排水基幹整備	〃			津島AW14区で弥生時代包含層確認、協議→津島岡大遺跡第1次調査へ
	〃	AW14	発掘 文法経 排水集中槽(NP-1)埋設 ：津島岡大第1次調査	岡山大学	24.0	3	[小橋法目黒遺跡]と報告
	〃	〃	試掘 武道館新営	岡山市教育委員会	2.3		
	〃	AY15・16	〃 法経 校舎新営	〃	7.0		
	鹿田	〃	〃 医学部標本保存庫新営	岡山県教育委員会	8.0		
	〃	〃	〃 (医病)外来診療棟新営	岡山市教育委員会	4.0	2	
〃	〃	立会 医学部動物実験施設関連排水管・ガス管理設	岡山県教育委員会		1		
〃	AE～AN22、 AE22～26	〃	歯学部電話ケーブル埋設	岡山市教育委員会 岡山大学埋蔵文化財調査室			

文献

1. 光永真一 1983「岡山大学医学部附属病院動物実験施設新営工事に伴う排水管付設工事に伴う立会調査」『岡山埋蔵文化財報告』13 岡山県教育委員会
2. 河本 清 1983「岡山大学医学部附属病院外来診療棟改築に伴う確認調査」『岡山埋蔵文化財報告』13 岡山県教育委員会
3. 吉留秀敏 1985「岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査」岡山大学構内遺跡発掘調査報告第1集 岡山大学埋蔵文化財調査室

付表2 2021年度以前の構内主要調査(1983～2021年度)

*凡例							
・総合番号：調査地区別通し番号(立会調査は選択的に保存)	・津島岡大遺跡第1次調査は、本機関設置以前の調査であるため、総合番号を「※1」として区別する。	・試掘確認調査のうち、事後に実施の発掘調査範囲内に入った場合、本表に対応する調査地点図(後出)から番号表記を省く。全てが発掘調査範囲内に含まれるものについて、本表-(2)では、総合番号に()を付して表記する。	・立会調査で、本表-(3)に保存する基準：①中世土層以下を確認した調査 ②明確な遺構・遺物を確認した調査	・番号：年度別報告番号	・文献：後出の刊行物一覧表の番号に対応する。正式報告が刊行された場合は、年報・紀要掲載の概報文献は削除する。		

付表2-(1) 発掘調査

<津島地区：津島岡大遺跡>

総合 番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(㎡)	概要(主要遺構ほか)	文献
※1	1982	-	津島岡大遺跡第1次調査 ：排水集中槽(NP-1)埋設	AW14	10.28～11.24	24	弥生中期・古代：溝、「小橋法目黒遺跡」と報告	3
1	1983	-	津島岡大遺跡第2次調査 ：排水管理設	BE14・18、BF17・18 BG14 BH14・15	84.1.9～3.5	265	弥生早・前期：遺物	4
2	1983	-	津島岡大遺跡第2次調査 ：合併処理槽埋設	BH13	11.14～22 84.1.9～3.5	276	弥生前期水田関連遺構(溝他)	4
15	1986 1987	2 1	津島岡大遺跡第3次調査 ：男子学生寮新営	AV00、AW00-01	12.1～87.6.18 8.24～9.5	1550	縄文後期河道、弥生早期：貯蔵穴群・河道、弥生前期～近代：水田・溝、古代糸里関連溝	19
16	1986	3	津島岡大遺跡第4次調査 ：屋内運動場新営	BF・BG09	87.1.19～22	70	弥生前期溝、中世河道	6
26	1988	1	津島岡大遺跡第5次調査 ：大学院自然科学研究科棟新営	AY06～08 AZ06・07	6.27～89.3.19	1537	縄文後期・弥生早期：貯蔵穴群・河道、弥生時代末～近世：水田関連遺構	27
27	1988 1989	2 1	津島岡大遺跡第6次調査 ：生物応用工学科棟新営	AV・AW04-05	9.20～89.5.31	600	縄文後期：貯蔵穴群・河道、古代糸里関連溝、弥生前期～近世：水田・溝	35
28	1988	3	津島岡大遺跡第7次調査 ：情報工学科棟新営	AV・AW05-06	10.12～89.3.31	800	縄文後期：炉・ピット、弥生前期～近世：水田・溝	35

総合 番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積 (㎡)	概要 (主要遺構ほか)	文献
39	1990	1	津島岡大遺跡第5次調査 ：自然科学研究科棟共同溝・検水機設置	AY・AZ08	4.3～21	90	古墳後期溝	27
44	1991	2	津島岡大遺跡第8次調査 (A地点) ：遺伝子実験施設新営	BD18・19	7.23～12.25	650	縄文時代土坑、弥生時代～近世：溝群	32
45	1991	3	津島岡大遺跡第8次調査 (B地点) ：合併処理槽新営	BH13	7.23～12.2	140	弥生時代溝、古代～近世：水田	32
50	1992	1	津島岡大遺跡第9次調査 ：生体機能応用工学科棟新営	AU～AW04	7.1～93.1.29	650	縄文後期：貯蔵穴群・土坑・溝・火処、弥生時代～近世：水田関連遺構	47
51	1992	2	津島岡大遺跡第10次調査	BB～BC10～11	93.2.1～3.31	400	弥生後期土坑群、古墳時代：井戸・住居・炉、古代柱穴群、中世溝、近世耕作関連遺構	64
	1993	1	：保健管理センター新営		4.17～7.31			
54	1993	2	津島岡大遺跡第11次調査 ：総合情報処理センター新営	AV～AW11～12	9.14～94.1.11	640	縄文後期：ピット・炉、弥生前期水田畦畔	36
55	1993	3	津島岡大遺跡第12次調査	AV～AW13～14	94.2.9～3.31	1472	弥生前期水田、弥生中期～古墳時代：溝群、古代～近世：条里関連溝	64
	1994	1	：図書館新営		4.1～11.30			
64	1994	2	津島岡大遺跡第13次調査	AW～AX11～12	10.6～11.30	816	縄文後期ピット、弥生水田、弥生～古墳時代：溝群	41
	1995	1	：福利厚生施設 (北棟) 新営		95.7.10～10.4			
69	1995	2	津島岡大遺跡第14次調査 ：福利厚生施設 (南棟) 新営	BB～BC12・13	10.25～96.2.14	856	弥生前期水田、弥生～古墳時代：溝群	46
70	1995	3	津島岡大遺跡第15次調査	AW00-01	96.1.16～4.25	1600	縄文後期・弥生早期：貯蔵穴群・河道、縄文後期：ピット群・石材アボ・火処、弥生前期水田、古墳～中世：水田・溝	72
	1996	1	：サテライトベンチャービジネスラボ ラトリー新営					
74	1996	2	津島岡大遺跡第16次調査 ：動物実験棟新営	BD19～20	5.7～15	30.3	A地点：縄文時代・古墳時代：土坑 B地点：中世溝、古代柱穴列、弥生時代水田	44
75	1996	3	津島岡大遺跡第17次調査 ：環境理工学部校舎 (I期) 新営	AW02～04	5.21～97.1.9	1451	縄文後期：住居・土坑・溝、弥生前期：水田、弥生時代溝群、古墳後期柱穴列、古代水田、中近世耕作痕	77
85	1998	2	津島岡大遺跡第18次調査 ：福利施設 (南) ポンプ槽取設	BB11	4.7～10	16	古代溝状遺構	53
86	1998	3	津島岡大遺跡第19次調査 ：コラボレーション・センター新営	AZ09-10	7.27～99.2.18	1019	縄文後期：ピット・炉、弥生前期：水田・土坑・河道、古墳時代・中世：溝、近世：道路状遺構・溝	65
87	1998	5	津島岡大遺跡第20次調査 ：環境理工学部校舎ポンプ槽取設	AY07	10.19～28	16	黒色土上面に溝、中世溝	53
88	1998	6	津島岡大遺跡第21次調査 ：工学部エレベーター設置	AX09	11.6～24	30.2	縄文中期土坑、弥生早期～前期：溝、古代：土坑・溝	65
89	1998	8	津島岡大遺跡第22次調査	AW02-03	99.3.1～7.12	773.5	縄文後期～弥生前期：河道、弥生早期土坑、弥生前期水田、弥生中期溝、古墳～近世：条里関連溝・水田	77
	1999	2	：環境理工学部校舎 (II期) 新営					
104	1999	5	津島岡大遺跡第23次調査	AZ15-BA14	00.2.3～7.28	1339	縄文後期～弥生前期河道、縄文後期杭列、弥生早期：貯蔵穴・溝、弥生前期：堰・溝、弥生中期～近世：溝	80
	2000	1	：総合研究棟新営					
111	2000	3	津島岡大遺跡第24次調査 ：総合研究棟渡り廊下建設	AZ14	12.5～14	34.2	縄文後期：河道・杭列	80
112	2000	4	津島岡大遺跡第25次調査 ：散水施設設置	BA15	01.1.29～31	20	中世～近世：溝	61
113	2000	5	津島岡大遺跡第26次調査 ：事務局棟新営	BC～BD14～15	01.3.26～9.30	1550	縄文中・後期：土坑・炉、弥生早期貯蔵穴、弥生前期土坑、弥生後期溝、古墳後期～中世：柵列・道路状遺構、近世：溝・堰	76
121	2001	2	津島岡大遺跡第27次調査	BB～BC14～15	02.2.1～6.24	1648	縄文後期炉、弥生・古墳時代：溝群、中世畦畔 (条里関連)	68
	2002	1	：創立五十周年記念会館新営					
127	2002	2	津島岡大遺跡第28次調査 ：自然科学系総合研究棟新営	AW～AY06～08	4.30～9.20、 11.28～03.1.15	1798	弥生前期水田、弥生前期～中期：溝、古代：溝 (内に柱穴列)、中世島関連遺構	87
128	2002	4	津島岡大遺跡第29次調査 ：共同溝設置	BF16	9.18～10.3	62.6	弥生～古墳時代：溝・ピット	71
163	2007	1	津島岡大遺跡第30次調査 ：岡山大インキュベータ新営	BC19・20	8.1～12.17	1035.4	縄文後期～弥生早期：土坑群、弥生～古墳時代：溝群、古代道路状遺構、中・近世：土坑群・畦畔・溝群	93
168	2008	1	津島岡大遺跡第31次調査 ：大学生協東福利施設新営	AX04	6.17～8.22	212	弥生前期畦畔、古代道路状遺構	95
184	2009	1	津島岡大遺跡第32次調査 ：教育学部武道場新営	AX02	7.16～10.13	383	縄文後期貯蔵穴群、弥生前期畦畔、弥生前・中期・中近世：溝	100
196	2010	1	津島岡大遺跡第33次発掘調査 ：薬学部講義棟新営	BB17-18、BC17-18	7.16～11.11	972.2	縄文中・後期：ピット、弥生時代：土坑・溝、古墳時代後期～古代：総柱建物、古代・中世：道路状遺構	117
197	2010	2	津島岡大遺跡第34次発掘調査 ：国際交流会館新営	AU・AV13・14	7.30～9.28	1590	弥生前期：畦畔・溝、近世土坑群、平面調査は中世上面まで実施し下層部は保存	105
216	2013	1	津島岡大遺跡第35次発掘調査 ：附属図書館増築	AW13	7.8～8.29	80	縄文時代：ピット、古墳時代後期：溝・ピット、古代：ピット列、近世：畦畔、土坑・溝	145
246	2015	1	津島岡大遺跡第36次発掘調査 ：職員宿舎新営	BH・BI16	5.26～6.17	43.5	縄文後期：土坑、弥生早期～前期：水田畦畔、弥生後期～古墳時代：溝、古代～中世：ピット、旧陸軍：水路・建物	124
263	2019	1	津島岡大遺跡第37次調査 ：異分野基礎科学研究所新営	AZ～BA08～09	8.28～3.19	1410.9	弥生時代早期～前期：土坑・溝・河道、弥生時代後期～古墳時代後期：土坑・溝、古代：溝、中世：土坑・溝、近世：土坑・溝	141
266	2020	1	津島岡大遺跡第38次調査 ：共同溝取設	BB13・AZ・BA13	5.11～27	17.4	近代畝	141
267	2020	2	津島岡大遺跡第39次調査 (A地点) ：ライフライン再生	BD18	12.21～23	16	弥生：溝・ピット、中世：ピット	145

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積 (㎡)	概要 (主要遺構ほか)	文献
267	2020	3	津島岡大遺跡第39次調査 (B地点) ：ライフライン再生	AX07	21.24～3.10	20.64	縄文：土坑・ピット、弥生：畦畔、古墳：溝・ピット、中世溝、耕作痕、近世：畦畔	145
		4	津島岡大遺跡第39次調査 (C地点) ：ライフライン再生	AX06	21.2.12～3.4	9.61	縄文：土坑、弥生：畦畔、近世：畦畔	145
		5	津島岡大遺跡第39次調査 (D地点) ：ライフライン再生	AX03～04、 AY03～04	21.3.8～29	9.61	縄文：土坑、弥生～古墳：溝	145
274	2021	1	津島岡大遺跡第40次調査 ：複合施設新営	AW・AX05	11.16～4.25	700	縄文後期土坑、弥生前期畦畔、弥生後期溝、中世～近代鋤溝確認	148

< 鹿田地区：鹿田遺跡 >

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積 (㎡)	概要 (主要遺構ほか)	文献
1	1983	-	鹿田遺跡第1次調査 ：外来診療棟新営	AU～BD28～40	7.27～11.22	2188	弥生時代中期後半～中世の集落遺構群	7
	84.1.9～8.31							
2	1983	-	鹿田遺跡第2次調査 ：NMR-CT室新営	BG～BI18～21	8.1～12.30	176	弥生時代後期～中世の集落遺構群	7
10	1986	1	鹿田遺跡第3次調査 ：医療技術短期大学校舎	CN～CU27・28、 CT～CY19～27、 CX～DD16～25、 DD～DG22・23	6.2～11.29	2390	中世の集落遺構群、古代の橋脚・河道	10
12	1987	3	鹿田遺跡第4次調査 ：医短校舎周辺の配管敷設	DD～DF25 DG～DI27・28	11.2～21	30	古代の河道	10
13	1987	2	鹿田遺跡第5次調査 ：管理棟新営	BB～BH35～42	10.6～88.3.2 88.3.23～31	1192	弥生時代中期後半～中世の集落遺構群	24
16	1990	2	鹿田遺跡第6次調査 ：アイソトープ総合センター新営	BW～CC67～71	11.20～91.6.30	690	古墳時代初頭土坑、中世集落遺構群	40
	1991							
25	1997	4	鹿田遺跡第7次調査 ：基礎医学棟新営	BR55～BX61 BY56～57	98.2.27～8.6	829	古墳時代初頭・中世の集落遺構群、近世の水田・溝	85
	1998							
27	1998	4	鹿田遺跡第8次調査 ：RI治療室新営	BP～BS30～32	7.28～9.1	165	古墳時代と中世の溝群	85
28	1998	7	鹿田遺跡第9次調査 ：病棟新営	CD33～37、 CE・CF28～37、 CG～CJ20～37、 CK・CL25～37	11.27～99.5.11	2088	弥生時代水田・溝、中・近世集落遺構群	126
	1999							
31	1999	3	鹿田遺跡第10次調査 ：共同溝設置関連	CD・CE10～12 DD～DF16～22	5.7～10.14	244.1	古代の杭列、弥生時代ピット、近世溝	108
32	1999	4	鹿田遺跡第11次調査 ：病棟新営	CD～CM19～42	8.19～12.22	2020	弥生時代水田畦畔、古代の池状遺構、中・近世集落遺構群	126
40	2000	2	鹿田遺跡第12次調査 ：エネルギーセンター新営	CO～CV35～44 CN・CM38～41 CN28～38	10.2～01.5.10	1897	弥生時代溝・河道、古墳時代溝・土器溜まり、中世集落遺構群、近世土坑・溝	143
	2001							
46	2002	3	鹿田遺跡第13次調査 ：総合教育研究棟新営	BL～BR46～51	4.30～10.25	934	弥生時代の溝、古墳時代の土器溜まり・溝、中世集落遺構群、近世土坑群	98
55	2003	1	鹿田遺跡第14次調査 ：病棟 (Ⅱ期) 新営	CD～CM12～20	7.31～12.17	1331	弥生～古墳時代の畦畔・溝、中世の集落遺構群、近世のため池・土坑	113
56	2003	2	鹿田遺跡第15次調査 ：総合教育研究棟外構	BQ～BS45・46	10.16～29	30.4	古墳時代初頭の井戸・溝	98
59	2004	1	鹿田遺跡第16次調査 ：立体駐車場新営	AH～AI6・7 AF12・13、 AN～AO4	10.21～11.8	49.15	近世～近代の畦畔・溝・畝・土坑、中世の土坑、弥生～古墳時代の河道	81
60	2006	1	鹿田遺跡第17次調査 ：総合研究棟 (医学系) 新営	BR～BY60～64	7.10～11.14	642	古墳時代～中世の集落遺構群、近世土坑・溝	137
64	2007	1a	鹿田遺跡第18次調査 (A地点) ：中央診療棟新営	BT13～BY20	10.10～08.3.14	872.2	弥生時代後期～近世の集落遺構群	92
65	2007	1b	鹿田遺跡第18次調査 (B地点) ：防火水槽設置	CG～CI9・10	10.16～11.1	43.2	古代後半の井戸、近世入江状遺構・護岸施設	108
66	2007	1c	鹿田遺跡第18次調査 (C地点) ：用水路改修	CM～CN9・10 CO10・11	12.27～08.1.16	56	弥生時代土坑・溝	108
76	2008	1	鹿田遺跡第19次調査 ：歯学部渡り廊下設置	AW～AY22～23	6.26～9.12	80	弥生時代後期の「方形高まり」・貝塚・壺棺・土坑・溝、古墳時代土坑・溝、古代ピット、近世土坑	95
80	2009	1a	鹿田遺跡第20次調査 (A地点) ：中央診療棟共同溝設置	BZ～CC31～40	6.18～7.31 8.5～24	632	弥生時代～近世の遺構・遺物	131
81	2009	1b	鹿田遺跡第20次調査 (B地点) ：中央診療棟新営 (本体工事)	BS20～23 BT～BW20～24 BX～CD13～25	10.15～11.2.22 3.1～8	2482	弥生時代～近世の遺構・遺物	147
84	2010	1	鹿田遺跡第20次調査 (C地点) ：中央診療棟新営	BR・BS12～21 BT～BX12～13	7.20～10.8	276	弥生時代～近世の遺構・遺物	105
85	2010	2	鹿田遺跡第20次調査 (D地点) ：中央診療棟新営	BT・BU24	11.2.18～3.2	15	中世～近世の遺構・遺物	147
86	2010	3-1	鹿田遺跡第21次調査 (A地点) ：外来棟周辺他環境整備	AD～AF30・31	11.18～12.9	21.2	平安時代河道、鎌倉時代溝状遺構	105

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積 (㎡)	概要 (主要遺構ほか)	文献
87	2010	3-2	鹿田遺跡第21次調査 (B地点) ：外来棟周辺他環境整備	AG・AH30・31	11.18～12.9	22	平安時代河道、鎌倉時代溝状遺構	105
88	2010	3-4	鹿田遺跡第21次調査 (D地点) ：外来棟周辺他環境整備	AS・AT25～28	11.18～12.9	59.4	弥生時代包含層	105
94	2011	1	鹿田遺跡第22次調査 ：地域医療人育成センター新営	AV～BB 04～07	7.14～9.22 10.14～11.18	533	弥生時代井戸・溝、中世井戸・溝、近世井戸・溝、近代溝・池	107
96	2012	1	鹿田遺跡第23次調査 ：Jホール新営	AN～AR 57～62	6.25～8.30	612	弥生時代～古墳時代初頭畦畔、古代溝、中世溝・炉、近世溝・土坑・畠、近代溝・トロコ軌道	120
97	2012	2	鹿田遺跡第24次調査 ：医歯薬融合棟新営	BD～BL 57～69	11.27～ 13.4.25	1867	弥生時代溝、古墳時代土器棺、古代井戸・土坑、中世溝・畦・井戸・土坑、近世溝・土坑、近代畝状遺構	130
101	2013	2	鹿田遺跡第25次調査 I工区 ：中央診療棟II期	BY～CD24～38	14.1.6～4.17	650	弥生時代畦畔、中世井戸・土坑・溝・柱穴、近世土坑・溝	131
124	2014	1	鹿田遺跡第25次調査 II工区 ：中央診療棟II期	BS～BY24～41	14.3.15～8.25	1895	弥生時代井戸、中世井戸・土坑・墓・溝・柱穴、近世土坑・溝	131
125	2014	2	鹿田遺跡第26次調査 ：動物実験施設改修	CD～CJ46～48、 CJ・CK61・62	14.8.18～11.17	295.5	弥生時代溝・畦畔、古墳時代井戸・土坑・溝・畠状遺構、古代土坑・ピット、近世土坑	135
142	2017	1	鹿田遺跡第27次調査 ：自家発電設備	CN・CO43・44	17.10.10～ 11.10	34.5	弥生時代～古墳時代溝、古墳時代後期～飛鳥時代溝、中世ピット	143
144	2018 2019	1	鹿田遺跡第28次調査 ：アメニティモール新営	AG～AS31～41	18.11.19～ 19.9.18	2940	弥生時代～古墳時代：土坑・溝・河道、古代：土坑・河道、中世：井戸・土坑・溝・河道・ピット、近世：土坑・溝、近代：畝状遺構・畦畔	138 141
146	2021	1	鹿田遺跡第29次調査 ：先端治療・臨床検査センター予定地	BW36～CB44	7.12～12.14	584.00	弥生時代の耕作地・中世の集落確認	148

＜三朝地区：福呂遺跡＞

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積 (㎡)	概要 (主要遺構ほか)	文献
1	1997	1・2	福呂遺跡第1次調査 ：実験研究棟新営	-	5.10～20 7.28～31	269	縄文時代早期・弥生時代中期・中世・近世の集落	55
2	1997	3	福呂遺跡第2次調査 ：実験研究棟新営に伴うスロープ設置	-	11.25～12.5	120	古代・中世・近世の集落	55

付表2-(2) 試掘・確認調査

＜津島地区：津島岡大遺跡＞

総合番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
(3)	1983	-	農学部合併処理槽予定地	BH13	2.5	-	1	→津島岡大第2次調査：1983年度	1
4	1983	-	農学部排水管中間ポンプ槽予定地	BF17	3.5	-	1	→工事立会	
5	1983	-	農学部排水管理設予定地	BE～BG14、 BE・BH15、BE18、 BF16～18、BC18	2.0	-	29	→津島岡大第2次調査：1983年度	
6	1983	-	農学部農場畜舎棟予定地	BF22・23	2.0～3.0	0.6	2	土器片→1987年度工事立会	
(7)	1983	-	大学事務局棟予定地	BC・BD15	2.0～3.0	0.9	3	→津島岡大第26次調査：2000年度	
(8)	1983	-	保健管理センター予定地	BB10	2.0～3.0	0.8	1	→津島岡大第10次調査：1999年度	
9	1983	-	津島宿舎予定地	BI16	0.9	0.9	2	土器片→1987年度工事立会	
10	1983	-	工学部校舎新営予定地	AW05	3.0	1	1	土器片	
12	1985	1	教養講義棟予定地	BE08	3.5	1.2	2	遺構など未確認→1986年度工事立会	
13	1985	2	教育研究棟予定地	AX02	2.6～3.4	1.2	3	縄文～弥生・中世土器出土	
14	1985	3	男子学生寮予定地	AV・AW99～01	2.0～3.0	1	12	→津島岡大第3次調査：1986年度	6
(17)	1986	3	屋内運動場予定地	BF・BG09	2.4、1.2～1.7	1.1	3	→津島岡大第4次調査：1986年度	
(18)	1986	4	大学院自然科学研究科棟予定地	AY・AZ07	1.6～3.2	0.6～0.8	3	→津島岡大第5次調査：1988年度	8
22	1987	4	外国人宿舎予定地	AP02	2.2～2.8	-	2	縄文時代・弥生時代・近世の遺構面	
(23)	1987	5	総合情報処理センター予定地	AV11	2.0～3.0	2	2	→津島岡大第11次調査：1993年度	
24	1987	6	理学部身体障害者用エレベーター予定地	AY09	3.0～3.5	約1.0	1	中世・近世の遺物、古代・中世の水田 <継続して調査>	11
25	1987	7	教養部身体障害者用エレベーター予定地	BD09	2.5	0.7	1	縄文時代遺構、縄文・中世・近世土器 <継続して調査>	
29	1988	17	工学部校舎予定地	AX04・06、AW04	2.0～3.5	1～1.5	6	→津島岡大第6・7次調査：1988年度	14
30	1988	19	動物実験飼育棟・遺伝子実験棟予定地	BD18・19	2.3	1.1～1.2	3	→津島岡大第8次調査：1991年度	
31	1988	20	国際交流会館予定地	BC26	2.5	1.2	3	中・近世土器→1988年度工事立会	18
33	1989	2	教育学部身体障害者用エレベーター予定地	AZ・BA05	2.5	0.8	1	縄文後期・弥生早期の落込み、縄文後期～中世土器<継続して調査、面積38.5㎡>	
34	1989	3	大学院自然科学研究科合併処理槽予定地	AZ17	4.0	1.6～2.0	1	中世～明治の水田畦畔・溝→1989年度工事立会	30
35	1989	4	学生合宿所予定地	BD02	2.0～3.2	1	1	弥生早・前期の畦畔→1989年度工事立会	
(36)	1989	5	図書館予定地	AV・AW13	3.0	1.4～1.6	2	→津島岡大第12次調査：1993年度	18
40	1990	3	学生合宿所ポンプ槽予定地	BC02	2.5	1.1	1	弥生前期畦畔、中世土器	
41	1990	6	福利厚生施設予定地	AW・AX11	3.9	1.4～1.6	2	→津島岡大第13次調査：1994年度	30
56	1993	3	農学部汎用耕地実験実習施設予定地	BE～BF22～23	1.5	-	2	中～近世の耕作土	
65	1994	3	農・薬学部動物実験施設予定地	BD20	2.0	0.9	1	GL-1.4mで黒色土、縄文土器1点→盛り土保存	33

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
71	1995	4	国際交流会館予定地	BE26	4.1・2.4	1.6	2	中世～明治層確認、以下は湿地、遺構・遺物無し(明治畝のみ)→工事立会	38
72	1995	5	環境理工学部校舎予定地	AW02・03	2.4	1.2	2	→津島岡大第17次調査：1996年度	
73	1995	6	ボクシング部ボックス移設予定地	BF07	3.0	1.2	1	標高2.5mで黒色土、弥生～古墳時代の溝2条、古代溝1条	
(90)	1998	9	コラボレーション・センター予定地	AZ09	2.7～3.4	1.3	2	→津島岡大第19次調査：1998年度	53
(91)	1998	10	環境理工学部校舎予定地	AW02・03	4.5	1.2	2	→津島岡大第22次調査：1998年度	
92	1998	13	工学部システム工学科棟予定地	AW04	2.8	1	1	GL-1.8m黒色土、縄文後期の遺構	
93	1998	14	遺跡保護区整備関連範囲	AU02・03・06、AV03	2.4～3.8	0.8～1.6	5	TP1・3・5：微高地、TP2・4：低湿地、TP1：弥生溝、TP3：弥生溝・ピット、TP4：中世溝	
(105)	1999	6	文法経 総合研究棟予定地	AZ15、BA14	2.7、3.5	0.8 1.1	2	→津島岡大第23次調査：1999年度	56
106	1999	7	電波暗室設置予定地	AV08	1.2	0.2	1	現表土以下に基盤となる岩盤層	61
114	2000	6	縄文～弥生時代における環境復元に伴う調査	AV00、AX00・02・03、AZ06、AW08	2.6～3.2	1.7～0.9	6	縄文・弥生時代の微高地、古代溝	
115	2000	7	創立五十周年記念館予定地	BB14	2	0.8	1	→津島岡大第27次調査：2001年度	61
129	2002	5	事務局旧本部棟移転予定地	BD15	2.1	1	1	黒色土の落ち	71
185	2009	2	学童保育室予定地	AV14	3.24	1.95	1	黒色土確認	102
186	2009	3	農学部構内植物工場予定地	BF20	3.4 2.3	2.3 1.1	2	近代溝・畦畔 弥生中期～古代におさまる溝	
198	2010	3	国際交流会館予定地	AU13・14	3.4	1.6～1.9	3	→津島岡大第34次調査：2010年度	105
199	2010	4	生協プレハブ予定地	BC12	2.2	0.9	1	黒色土は未堆積を確認	
208	2011	1	文法経フェンス工事	AW17、AX17、AY17、AZ16	1.1～2.0	1.0～1.6	6	近代の土塁、水路	107
213	2012	1	正課外活動施設予定地	AZ17	0.8	-	5	門跡・陸軍建物基礎	
217	2013	1	正課外活動施設予定地	BD02	2.9	1.1	1	縄文時代～近代層確認	111
217	2013	2	Jテラス新営	BG13	1.8・2.3	1	2	縄文時代ピット、弥生時代前期土坑・遺構	116
247	2015	2	職員宿舎新営	BH16～BI17	2.35	1.0	2	弥生早期～前期水田	124
251	2016	1	津島岡大遺跡南東部における確認調査	BD07	3.0	1.23	1	弥生時代土坑、近代水路	129
259	2018	1	グッドジョブセンター増築	BD15	2.4	1.46	1	黒色土確認	138

< 鹿田地区：鹿田遺跡 >

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
(4)	1984	-	西病棟北側受水槽予定地	BU30・31	1.4	0.5～0.7	2	中世土器・包含層確認→盛り土保存	2
(5)	1984	-	医療短期大学部校舎予定地	CT・CU25、CZ19・20・23・24	2.7	0.8～1.0	3	→鹿田第3次調査：1986年度	
6	1985	4	外来診療棟環境整備工事範囲	AJ33、AI40、AJ・AK26	2.2～3.0	0.9～1.4	3	弥生時代～中世の遺物	5
(17)	1990	5	アイソトープ総合センター予定地	BY・BZ68	2.3	1.2～1.3	1	→鹿田第6次調査：1990年度	18
(26)	1997	8	基礎医学棟予定地	BT57	2.2	0.9	1	→鹿田第7次調査：1997年度	50
29	1998	11	病棟予定地	CF・CG43・44、CH25・26、CK35・36、CK15	2.0～2.4	1	4	→鹿田第9次調査：1998年度	53
82	2009	2	学生サークル棟予定地	CR70・71、CW75	2.1～2.3	0.9～0.7	2	弥生時代低湿地、中世以降耕作地、集落外縁	102
89	2010	4	岡山県地域医療総合支援センター予定地	AZ04・BA08	2.3～2.4	1.2～0.6	2	近世溝・弥生包含層確認→鹿田第22次調査：2011年度	105

< 倉敷地区 >

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
1	1990	4	資源生物科学研究所遺跡確認	-	2.5	0.7	1	中世後半以降の土器	18
2	1998	12	バイオ実験棟予定地	-	1.5	0.2	1	近世干拓地内、遺構未確認	53
3	2013	1	植物ストレス科学研究等拠点施設建設工事	-	2.0	0.7	1	近世耕作土層確認	116

< 東山地区 >

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
3	2006	1	附属小学校校舎予定地	-	3.0	0.3～0.5	4	近世・近代：溝3条、中世？畦畔	88
4	2008	1	附属中学校校舎予定地	-	2.3～2.4	1	2	近代畦畔	95
5	2013	1	附属小学校屋内運動場建て替え工事	-	2.1	0.9	1	中世～近世耕作土層確認	116

< 三朝地区：福呂遺跡 >

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 他	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
3	1997	5・6	実験研究棟予定地	-	1.66～2.1	0.8	2	→福呂第2次調査：1997年度	50
5	2004	1	三朝宿泊所増築予定地	-	1.3	0.5～0.9	2	遺構・遺物・包含層未確認	81
6	2004	2	高圧線・電話線設置予定地	-	1	0.85	1	河床礫、段丘礫層確認	

付表2-(3) 立会調査

<津島地区：津島岡大遺跡>

総合 番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献
11	1984	—	南宿舎合併処理槽関係配水管埋設	BI15~17	1~2.2	1	溝・土坑、弥生土器・須恵器	2
19		12	教養部校舎新営	BE08・09	2.3	1.3	中・近世：溝・土器	
20	1986	21	ハンドボールコート新設	BG08	0.2~2.0	0.8	黒色土	6
21		26	教養部校舎新営に伴う電気配管	BF07・08	1.8	0.9	中世包含層	
32	1988	17	テニスコート夜間照明施設	BG10・11	2.2	1.5	GL-約2mで黒色土、西に向かう落ち推定	11
37		8	自然科学研究科棟新営：工事用道路	AZ08	1.4	—	弥生後期水田、近世溝、75㎡	14
38	1989	10	生物応用工学科棟新営に伴う電柱架設	AV04・05	1.5~1.9	0.7~1.2	黒色土	
42		16・19	岡山市道本町津島東線拡幅に伴う補償工事	AV04~10	0.4~3.0	0.6~1.4	5ヶ所、黒色土、条里南北溝	18
43	1990	20	学生宿舎所給排水管設置	BC02~04 BD03・04	2.3	1.2	GL-2.3mで黒色土	
46		9	防火用水撤去	BC18	2	0.8	基盤層まで掘削、石鏝	21
47	1991	17	津島地区基幹整備（電気）	BB16	1.7~1.8	0.5	2ヶ所、明治層~淡灰色粘土層	
48		19	アース板	BD15	1.7	1	GL-1.5mで黒色土	
49		40	南北道路外灯設置	BC・BE・BF12	1.5	—	3ヶ所、GL-1.4mで古代層	
52		15	遺伝子実験施設ハンドホール設置	BD18	1.5	0.75~1.1	縄文後期層まで、溝2本	25
53	1992	34	附属図書館北側駐車場整備	AV12	3	1.7	造成土以下は粘土層	
57		17	保健管理センター新営	BB~BC10~12	1.8	0.6~0.7	黒褐色土はGL-1.15~1.7m	
58		19	旧棟改修電気配線	BB11	1.1	0.8	弥生土器、工法変更	
59		23	津島地区基幹整備RI共同利用施設排水処理施設	BA07	3.2	—	明治~中世層・暗褐色土層、古代溝？ 縄文晩期土器	30
60	1993	28	ボックスカルバート	BD~BE13	1.5	1	近世~中世層	
61		33	津島地区環境整備	BB~BG12~13	1.8	0.5~1.2	10ヶ所、中世層まで、一部で暗褐色土層	
62		34	信号機設置	BD~BE12・13	1.6	1	中世層まで、一部で暗褐色土層	
63		39~41	野球場バックネット・防球ネット改修	BB05~07 BC05・41	2.0~3.2	1	GL-1.2~2.0m付近で黒色土、以下黄色砂~青灰色粘土	
66		9	陸上競技場照明灯設置	BD・BE・BF04~07	2	0.96	GL-1.92~2.0mで黒色土	33
67	1994	13	総合情報処理センター新営電気工事	AV10、AW10、 AU11	2.2	1.5	GL-1.7mで黒色土、近世溝	
68		20	焼却場設置	BD20	2.2	1.5	GL-1.9mで黒色土	
76		4	造成土取り	BC18	2.2	1.9	黒色土層付近まで	
77		5	農・薬学部動物実験棟新営	BD16~19	1.3	—	4ヶ所、造成土以下に5層	
78	1996	12	サテライトベンチャービジ ネスラボラトリー新営	AV02、AV03、 AV04、AV99、 AW02、AW04	1.0~1.5	0.76~1.1	6ヶ所、明治層~弥生層？	44
79		13	配管設置	AV03~AW03	2	0.95	弥生時代層まで、古墳前期：遺構・遺物	
80		18	環境理工学部校舎新営予定地電柱移設	AW03	2	—	黒色土まで	
81		25	附属図書館新営雨水溝・外構工事	AV13	1.3	1	造成土以下に青灰色・黄褐色・灰褐色粘質土	
82		16	南北道路ガス管理設	BB13~BH13	1.5	—	中世層まで	50
83	1997	19	福利厚生施設新営に伴う共同溝新設	AW11~BA13	2	0.8	GL-1.65mで黒色土、古代~近世の溝	
84		24	福利厚生施設新営に伴う共同溝新設	BC12	2	0.8	GL-1.65mで黒色土、古代~近世の溝	
94		15	外灯設置	BA09	1.47	1	GL-1.42mで黒色土	
95		22	コラボレーション・センター支障配管布設替	AZ09、BA09	1.4	1	GL-1.4mで黒色土	
96		24	南福利外灯設置	BB12、BC12	1.4	0.95	中世層まで	
97		31	環境理工学部校舎新営に伴うガス管理設	AW03・AX~AY03 ~06	1.2~1.4	0.65~0.95	中世層まで（12ヶ所）	
98		34	学生会館改修に伴うトラップ撤去	BC10	2.2	1.45	GL-1.7mまで灰褐色粘土、GL-2.2mまで灰色粘土	53
99	1998	35	NTT電柱移設	BA00	1.5	0.9	造成土以下に褐色系粘質土	
100		41	環境理工学部実験排水管理設	AX03~AY07	1~2.4	0.6~1.4	10ヶ所、5地点で中世層、2地点で古代層、1地点で古墳時代層まで	
101		42	馬場移設に伴う樹木移植	AU02	2.2	1.1~1.3	GL-2mで弥生後期層、GL-2.2mで縄文基盤層	
102		44	環境理工学部校舎新営	AV03、AW03	1.97	1.4	古墳時代層まで、須恵器・土師器	
103		48	ガス管理設	AW03	1.45	1	中世層まで	
107		8	外灯設置	AY00、AZ01・03	1.15~1.35	0.5~1.2	3ヶ所で黒色土（GL-0.85~1m）	56
108	1999	12	コラボレーション・センター新営：ハンドホール設置	AZ08・09	1.48~2.1	1.03~1.16	2ヶ所、そのうち1ヶ所は古墳時代層まで	
109		13	環境理工学部校舎新営に伴うスロープ設置	AW02	3.5	1.2	調査面積25㎡、黒色土下面まで、近代土坑、古代溝、縄文後期ピット	
110		42	コラボレーション・センター新営に伴う排水溝設置	AZ09	1~1.2	0.8~1	6ヶ所、1ヶ所で黒色土対応層まで	
116		17	津島地区電柱設置	BA12	1.6	1	造成土下に灰色粘質土・暗茶褐色粘質土層	
117		23	本館基礎補強	AY09	1.3	0.9	造成土下に暗青灰色粘質土・褐色粘質土・灰色粘質土	61
118	2000	28	理学部校舎改修	AX10、AY10	0.85~1.60	0.8~1.6	南側ハンドホール：GL-1.6mまで、GL-1.52mで中世溝（方向は南東-北西）	
119		42	精密応用化学科棟都市ガス改修	AW08、AX08	1.6~2.05	1.45	GL-1.82mで明灰褐色粘土（中世?）	
120		44	文法経 総合研究棟仮設電柱設置	BA16	1.5~1.7	1	GL-1.4mで中世層？軍庭園の築山・土塁一部掘削	
122		4	理学部校舎改修：電気設備	AZ10	1.6	1~1.2	中世溝	66
123	2001	11	本部棟新営	BB~BC16	1.5~2.1	1.2~1.4	2ヶ所、GL-1.4mで灰色粘土、GL-2.1mまで谷か？	
124		27	車庫移設	BB・BC13	0.5~1.6	1	2ヶ所、中世層まで	

総合 番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献	
125	2001	30	本部棟新営	樹木移植	BB14	1.6	0.65~0.8	GL-1.4mに灰色粘質土層(古代)	66
126		31	旧変電室基礎解体		BB14	1.05	0.45~0.75	12ヶ所掘削、中世層まで	
130	2002	29	農学部校舎改修:電気設備		BE15	1.8	1.5	3ヶ所、古代・古墳層まで	71
131		34	本部棟新設	排水樹・管路	BC13~15	1.2~2.5	0.7~1.2	突帯土器・石器多数、近世溝、弥生溝	
132		51		雨水排水樹・管路	BB13	1.57	0.8	中世・古代・古墳層	
133		54	外灯	BB13・BD14	0.95~1.9	0.8	2ヶ所で中世層と古代層まで、GL-1.3mで黒色土		
134		55	一般教育棟B棟外灯設置工事		BC07・09	1.0~1.26	0.95	4ヶ所、中世層まで	
135		57	創立五十周年記念館新営	汚水排水	BB~BC14~15	1.0~2.3	0.85~1.0	一部黒色土上面まで	
136	1	創立五十周年記念館新営	雨水排水樹・管理設	BB13~15	1.3	0.7~0.8	中世層まで	74	
137	4	総合研究棟新営機械設備ガス配管埋設		AX06	1.4	0.9	古代層?まで		
138	6	旧事務局庁舎改修電気設備工事		BC15	2.43	0.85	GL-1.9mで黒色土、GL-2.1mで縄文基盤層		
139	7	農学部総合研究棟改修電気設備工事		BB, BC18	1.7	0.7	GL-1.2m前後で黒色土層、GL-1.5~1.6m前後で縄文後期基盤層		
140	2003	8	総合研究棟新営その他工事	雨水排水	AX06~BA06	1.7	0.7~0.8	標高3.3~3.4mで黒色土、弥生~古代:東西溝多数、近世・近代:東西溝・畦畔	74
141		14		電気設備工事(外灯)	AW, AX06, 07	1.4	-	中世層まで	
142		15	総合研究棟新営その他工事:排水		AW~AX06~07	0.5~2.5	1.6	樹で一部縄文基盤層まで掘削、弥生溝	
143		17	旧事務局庁舎改修:外部給水・消火配管		BC~BD15	2.75	1.1	樹で縄文基盤層	
144		21-1	公共下水道接続工事	No.1区間 農学部合併処理槽	BG~BH13	1.8	0.9	縄文基盤層まで	
145		21-2		No.2区間 体育館東~武道場西	BE~BG10	1.95~2.25	0.8~0.9	樹で縄文基盤層、管路で弥生早・前期まで、弥生溝、縄文土坑	
146		21-4		No.4区間 文・法・経2号館西	AZ16	2.45	1.5	縄文基盤層まで、弥生溝	
147		21-5		No.5区間 理学部	BA10	1.9	0.7	中世頃の屋主川を確認	
148	21-6	No.6区間 農学部4号館東		BG22	1.5~1.9	0.9~1.4	縄文基盤層まで、弥生~古墳初頭:ビット、近代畦畔状遺構		
149	21-7	No.7区間 津島宿泊所		BI16	1.15~1.3	0.8	中世層まで		
150	21-8	No.8区間 南宿舍		BI15	2.0~2.45	1.1	縄文基盤層まで		
151	2004	1		公共下水道接続工事	留学生等宿泊施設	BB~BD26	1.22~1.68	1	中世層まで
152		6	津島キャンパス環境整備:留学生センター西		BB9・10	0.5~1.15	0.4~0.6	弥生後期:包含層・遺構、礫層	
153	2005	3	総合研究棟改修	仮設電柱	AV08	1.5	0.9	青灰~白灰色の粘質土、黒色土は確認されず	83
154		5		アース板	AW09	1.8	-	縄文基盤層まで、黒色土	
155	2005	9	キャンパス環境整備(門扉改修等)		BE02, BG07	1.0~1.3	0.7	-1mで中世層、近世畦畔	88
156		13	プール改修(排水管改修)工事		BC~BE03, BB-BC02	0.75~2.4	0.8~1.3	縄文基盤層まで、黒色土、弥生~古墳:溝多数、近世土坑、近代:大畦畔・溝	
157		14	サッカー場防球ネット設置工事		BB・BC04	2.0~2.2	-	オーガによる掘削、一部で黒色土	
158	2006	2	総合研究棟改修工事:耐震工事に伴う支障物撤去・PC耐震柱基礎掘削		AX10	1.4~1.6	1	中世層まで、近世:南北方向の溝	88
159		3	教育学部公共下水道接続工事		AZ~BA02~04	1.3~2.3	0.7~1.0	樹:深さ2.3m、配管:深さ1.05~1.92m、黒色土or基盤層まで、東西方向の溝	
160		5	プール改修配管接続工事		BA・BB02, BC02	1.7	0.7~0.8	黒色土層or基盤層まで、古墳時代頃の溝状遺構	
161		11	総合研究棟:耐震工事に伴うPC耐震柱基礎掘削		AX08~09	1.8	-	古墳~弥生時代層	
162		13	農学部2号館南電柱移設		BF16	2	-	中世層まで	
164	2007	4	公共下水道接続工事(理学部他)		BA12	2	0.8~0.9	GL-1.6mで黒色土、弥生時代溝	92
165		8	総合研究棟改修	外灯基礎及び管路	AV・AX07・08	1.4~1.7	1.2	近世~中世層	
166		10		外構樹・配管(東半部)	AW07・08	1.1~1.4	0.9	近世層、土坑1基	
167		13	インキュベーション施設外構配管		BA~BC20	1.2~1.4	0.6~0.8	縄文時代~近代層、中世・近代の溝	
169		7	理学部ヘリウム液化装置基礎工事:基礎杭設置		AZ09	4	-	黒色土なし、GL-4m以下で礫層	
170	21		電気工事:建柱	AY03・AZ03・BA03	2	-	3地点掘削、北地点で黒色土無し		
171	22	総合研究棟(教育系)改修	電気工事:接地極埋設	AY04	1.7~1.78	-	古代層下に溝or河道の砂層	95	
172	26		機械工事:都市ガス	AZ03	1.2	-	GL-0.95mで黒色土		
173	28	KDDI無線基地局新設工事:建柱		BB12	1.8	0.8~1.05	灰褐色砂質土層まで、黒色土未確認		
174	32	プール系統水道メーターボックス取設工事		BB04	0.9~1.5	-	中世層(?)まで		
175	33	南宿舍電柱設置工事		BJ17	2	-	GL-1.2~1.5mで黒色土		
176	2008	39	大学生協東福利施設新築	ガス管	AX04	0.85~1.21	1	中世層まで	95
177		40		外灯移設	AX05	1.1~1.2	0.68~0.95	2地点掘削、古代層まで	
178		42	新技術センター公共下水道接続工事		AW00~01	0.85~1.75	0.7	中世~近代溝4条(南北里境か)、黒色土上面まで	
179	43	教育学部体育館他改修	動物室	AY01	0.85	0.85	黒色土上面で弥生~古墳時代の水田畦畔	102	
180	44		仮電柱設置	AY03, BA03	1.2~1.7	-	2地点掘削、北:中世層まで、南:東西溝		
181	49		接地極埋設	AY02	0.3~1.7	-	古代層まで		
182	52	大会館他改修工事:一般教育講義棟ガス設備		BB10~11	0.7~1.2	0.55	GL-1.0m以下で礫層、土坑1基、溝?1条		
183	53	工学部屋外ガス配管改修工事		AV04~06, AW04	0.8~1.48	0.8~1.1	一部で中世層まで		
187	2009	6	総合教育棟(共通教育)改修工事:高圧ケーブル		BE~BF04~08	1.3	-	2ヶ所、中世層・近世層まで	102
188		14	環境整備(施設誘導案内板)新設工事		BB10	0.8~0.95	0.6	保健管理センター北東で弥生?遺構埋土	
189		16	工学部21号館(動物飼育室)改修	ガス管	AU06	0.8~0.9	-	一部弥生?包含層	
189		17		排水管	AU06・07	0.65~0.9 2.2	1.25	北東部で河道	
190		21① 22	南北道路信号機付け替え	西門南東 西門北東	BB12 BA12	1.8 2	0.58~1.25	中世~弥生層まで、底面で黒色土 縄文層まで、黒色土確認	

総合 番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献	
190		23	南北道路信号機付け替え	西門北西	BA13	2.05	縄文層まで、黒色土確認		
		24		事務局前北東	BD12	1.95			縄文層まで
191	2009	25	総合研究棟Ⅱ期(教育系)改修	ガス管	AY-AZ02-03	0.8	弥生層確認	102	
		27		電気設備:アース埋設	AY01・AZ03	1.65	縄文層まで、黒色土・中世以前の遺構		
				電気設備:配管		0.8			弥生包含層・遺構
				電気設備:外灯		0.8~1.3	黒色土まで		
		29		屋外排水	AY02-03	1.15	1		黒色土・弥生遺構
		30		屋外排水:管路	AZ00-02	0.8~0.9	0.7		包含層・畦畔・小溝
				屋外排水:樹		樹1.2・1.7			
32	電気設備:アース埋設	AZ00・AY-AZ01	1.7	0.6	縄文層まで、黒色土				
	電気設備:配管		0.8~0.9			包含層・土師器小片			
	電気設備:外灯		1.3		既設土内				
192		42	文法経ボイラー用煙突撤去工事	AX16	2.5	1.5	縄文層まで、弥生中・後期溝1条		
193		48	総合研究棟(薬学系)改修	電気設備:配管	BB16・BC17	1.45	1.05	近世層、近代溝	
				電気設備:アース板		1.50~1.54			
194		54	環境理工学部公共下水道接続工事	AU03	2.3	0.9	弥生~古墳層まで、近代東西畦畔1条		
					2.4				黒色土上面まで
195		55	薬学部西水道管位置確認工事	BC18	2.7	0.55	<岡山市教育委員会対応> 縄文層まで、黒色土		
200	2010	8	外灯整備工事	教育学部	AZ06	1.1	0.7	黒色土	105
201		17		創立五十周年記念館	BB14・15	1.1~1.6	1.15	近世層、近代石組用水路	
202		23	総合研究棟(薬学系)に伴う支障管移設	生活排水・実験排水	BB・BC17	0.87~1.4	0.8	古代層	
203		26	テニスコート陥没復旧工事		BG11	1.9	-	既設内、砲弾他<岡山西署回収>	
204		34	薬学部本館改修工事	電気設備:管路	BC・BD18	0.7~1.28	1.1	中世層	
				電気設備:ハンドホール		2			
205		35		外灯設置:管路	BB17	0.63~0.74	0.85	近世・近代層	
	外灯設置:基礎			1.08~1.34		中世層			
206	36	農学部水道管復旧工事(緊急対応)		BF15	1.1	-	既設内		
207	37	国際交流会館	排水樹掘削工事	AU・AV13・14	2.2~2.5	-	4ヶ所、中世上面から0.55m掘削、弥生後期層		
209	2011	1	文法経フェンス工事	AW17, AX17, AY17, AZ16	1.1~2	1~1.6	近代の土塁、水路	107	
210		8	津島線配水管布設工事	BA10	1.3	0.6	中世層まで、近世・近代溝確認		
211		9		BA08	1.5	0.6	中世層まで、近代畦畔・溝		
212		12		AZ04	0.9~1.5	0.55	古代・近世・近代遺構		
214	2012	9	美しい学都整備	防球ネットボール	BB06~07	3	1	基盤層まで	111
215		11	農学部周辺排水管整備	樹・管路	BE~BF13	1.6	1~1.3	基盤層まで	
218	2013	5c	総合研究棟改修(工学系)	設置路線③	AV05	0.9	-	近代の雨落ち溝	116
219		5d		設置路線④		0.75	-	近代の東西方向石組溝	
220		6a		接地銅板①		1.65	0.85	縄文層確認	
221		6b		接地銅板②					
222		8	電気設備:管路	AW05	0.8	-	近代の東西方向石組溝		
223		16	NTT電柱引き込み	電柱	BB15	1.6	-	旧陸軍東西方放水路	
224		19b	大学院館周辺他環境整備	暖房ピット②	BC10	1.05~1.1	0.5	中世層、近世南北方向溝	
225		21a		東西道路南側外灯①	BB08	1	0.55	弥生層確認	
226		21b		東西道路南側外灯②	BB09	1.1	-	旧陸軍東西放水路	
227		21c		東西道路南側外灯③		1.3	-		
228		21d		東西道路南側外灯④	BB11	1.4	0.3	礫層確認	
229		21e		東西道路南側外灯⑤		1.5	0.95		
230		21f		東西道路南側外灯⑥	BB12	1.4	0.85	中世層、近世東西方向水路	
231		21g		東西道路南側外灯⑦		1.1	0.7		
232		22a		集水樹①	BB10	1.4	0.6	礫層確認	
233		22b		集水樹②	BB11	1.4	0.9	中世層、近世東西方向溝	
234	23b	東西道路南側樹木植穴②~④		BB10-11	0.6~0.7	-	旧陸軍東西方放水路		
235	24	自由勾配側溝①		BB09~12	0.8	0.6	近世層、近世南北方向の段・溝、近代南北方向溝		
236	25	重圧管管路		BB10-11	1~1.1	-	旧陸軍東西方放水路		
237	26a	ガス管管路1-①		BB10	1	-	旧陸軍東西方放水路2条		
238	26b	ガス管管路1-②		BB10	1.2	0.55	礫層、近世土壌、近代南北方向溝		
239	28a	さくら広場外灯①		BB10	1.4	0.5	弥生前期層確認		
240	28b	さくら広場外灯②	BC10	1.1	0.45~0.55	古墳時代前期層、古墳時代後期土坑(焼土◎)、近世土坑			
241	30	ガス管②	BB10-BC10	0.75~1.4	0.85	近世層、近世土坑、近世~近代東西方向溝			
242	31	パーゴラ電気設備	BC11	1.5	0.75	礫層、弥生時代ピット、戦国時代南北方向溝			
243	35a	ガス漏れ修理	AZ03	1.1	0.5	弥生時代前期黒色土確認			
244	2014	8	Jテラス新営	排水管	BG・BH13	0.7	-	旧陸軍南北方向水路	121
245		12	津島宿泊所	電柱新設工事	BJ16	2.7	-	オーガ掘削、GL-1.6~1.8mで黒色土	

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文献
248	2015	9	職員宿舎新営	BI16	0.8~1.9	1	陸軍水路確認GL-0.4m	124
249		13		BI16	0.9~1.45	0.65~0.85	南端GL-1.3mで弥生後期層確認	
250		16		BI16・17	2.5	0.9~1.2	オーガ掘削。GL-1.6mで黒色土、-1.8mで基盤層確認	
252	2016	7	職員宿舎電柱立替	BI14	2.5	0.8	オーガ掘削、GL-1.6~1.8mで黒色土	128
253		13	講義棟改修(教育系)	AZ-BA04-06	1.1	0.6	黒色土まで確認	
254		14			1.5	1	黒色土まで確認	
255		15			1.4	0.65~0.9	黒色土まで確認	
256		16			1.4	0.78	黒色土、中世溝確認	
257		17			1.4	0.7	黒色土、中世溝確認	
258	18	1.4			0.8	黒色土まで確認		
260	2018	6	理学部2号館電気室設置極埋設工事	AY09	0.75~1.7	1.2	中世層	138
261		21	野球部バックネット改修ほか	BB05-06	3.0	0.9~1	東側2か所は青灰色粘土、西側2か所は-2.4m付近に黒色土、以下灰黄褐色砂質土~青灰色粘土	
262		22	基幹・環境整備(ブロック塀対策)他	BJ16・17	0.7	0.7	土塁測量実施	
264	2019	6	野球場バックネット	BB06	2.05	0.92	GL-2mで黒色土確認	141
265		10	中電ケーブル埋設工事	AU04	1.45	0.9	中世~近代層確認【岡山市立会】	
268	2020	8	異分野研究所新営	AZ~BA8~9	0.9~1.3	0.6~1	黒色土~近世層まで確認	145
269		9	基幹・環境整備	BB13	1.8~2.2	1	基盤層まで掘削。T38Sと同様	
270		10		AZ・BA13	1.8	1~1.3	一部で古代層まで掘削。T38Nと同様	
271		17	ライフライン再生(津島南)	BC~BD 16~19	1~2	1.5	基盤層まで掘削。黒色土1.84~2.37m	
272		21	ライフライン再生(津島北)	AZ00~01	1.3~1.4	0.5	黒色土3.7~3.8m	
273		22	ライフライン再生(津島北)	AY~BA06	0.9~2	0.7~1	黒色土3.25~3.54m	
275	2021	2-5	ライフライン再生	AU07~AX06	1.7~2.13	1.27~1.42	中世層(泥炭層)確認	148
2-6		1.95~2.45			1.4~1.5	中世層(泥炭層)確認		
2-7		1.0~2.1			1.3	中世層(泥炭層)確認		
2-7		1.7~1.9			0.9~1.2	黒色土確認		
2-8		2.1~2.28			0.9~1.2	縄文基盤層確認		
2-8		1.05~1.4			0.9	古代層確認		
2-12		1.05~1.69			0.9	黒色土確認、弥生溝確認		
2-13		1.55~1.85			1.05~1.27	古墳東西溝確認		
276	3-1	高圧ケーブル更新	BD15~BD18	1.30	0.73~1.15	中世層~近代層確認	148	
277	5-1	中国電力ケーブル埋設	AU02~AV04	2.0	1.0	弥生~古墳層確認		

< 鹿田地区：鹿田遺跡 >

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文献	
3	1983	-	外来診療棟蒸気配管埋設	AO~AW22	1.3	-	弥生後期：土器・分銅形土製品、貝集積	1	
7	1985	6	外来診療棟関係屋外排水管理設	AW~BH23、 BH・BI24	1.3~1.7	0.7~1.3	弥生・中世：遺構・遺物	5	
8		12	基幹環境整備緑化工事：電気配線ハンドホール掘削	AG31、AG24、 AF23	1.2~1.7	0.9~1.3	3ヶ所、中世包含層・ピット		
9	1986	9	記念館東側污水管改修工事	BI~BN4	0.8~1.3	0.8	中世包含層、土器	6	
11		24	護岸及び囲障工事	CL~CR12、 CR~CX13、 CX~DA14	2	0.8~1	中世包含層		
14	1987	8	管理棟新営に伴う基礎杭確認	BC37	2.5	-	弥生時代：包含層・遺構	8	
15	1989	46	旧管理棟跡地環境整備：外灯基礎	CE30・37・44、 CJ・CK45、CL28・29	1.2~1.5	0.7~1	2ヶ所、中世層	14	
18	1992	29	アイソトープセンターL形側溝・集水溝	BW71	1.4~1.5	0.9	中世溝1条	25	
19		41	テニスコート脇電柱埋設	CI73	1.2	1	古代土器1点		
20	1994	5	護岸改修工事	DH60~62	1.5	0.8	近世層以下は遺構埋土か、溝3条・ピット9基	33	
21	1995	11	附属病院連絡通路新設	BG・BI18	1.5	1	造成土以下に茶褐色土・青灰色粘質土層、遺物なし	38	
22		14	鹿田地区基幹整備	CD07・08	2.3	1	中世2面、溝3条、溝内から古代・中世土器		
23		17	液酸タンクU字溝埋設	CD08~CC11	1.23	0.85	包含層、中世土器、攪乱で区間全長の1/2程度破壊		
24		23	防球ネット取設工事	DF56~67	3	0.8	径60cmを12ヶ所、内4ヶ所で土器片・石器、調査区西寄り：GL-2m以下は旧河道か		
30	1998	36	校舎新営に伴う仮設電柱工事	BV73、CN78	1.2	1	中世層まで	53	
33	1999	15	研究棟新営	給排水溝・管路	BV65~71	1.2~1.4	0.9	中世層まで	56
34		18		検水溝	BU65	2.2	1.1	面積8.2㎡、近世溝、中世：溝・ピット	
35		27	基幹整備(電気設備)：地中配管	BY42・43、 BI43・44	1.25~1.45	0.45~0.5	2ヶ所、中世層まで、時期不明遺構		
36	41	病棟新営	共同溝解体	CF21~28、 CF~CL28、 CD~CF28~33	1.7	-	面積18㎡、鹿田11次調査南側で中世ピット		

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文献
37		46	病棟新営 汚水樹・管路	CN46~DE49	2.3	1.2	古墳時代：井戸1基・土坑1基、中世溝等	
38	1999	47	グラウンド防球ネットポール	CM・CN・CP・CR・CT58、CV・DA・DC・DD・DF59	2.0~2.3	-	11ヶ所、南側6ヶ所：河道、7~10ヶ所：微高地、最北端：河道	56
39		48	病棟新営 汚水検水樹	BT51	2	1	古墳時代層まで	
41		25	病棟新営 管路・雨水樹	CD41~CN45	1.6~1.8	-	溝か？	
42	2000	26	電柱及び外灯の埋設工事	CN15・21・27、CO31・42、CS45、DV45	1.6	-	7ヶ所、灰白色土層・淡褐色砂質土層・暗褐色砂質土層、微高地部か	61
43		29	医学部ガス配管切り離し用バルブ取付工事	DI27	0.8~1.15	0.7	GL-0.85mで黄灰色粘質土	
44		47	鹿田団地南側用水路境界擁壁改修	DG~DJ28~67	2.1~2.3	1.3~1.5	幅120mの壁面調査、古代の遺構・河道	
45	2001	37	総合教育研究棟新営に伴う機械設置工事	BR~CA43、CA43~55、CA44~CL45、BR~CA55	1.65	0.7~0.9	中世層まで、中世土器多数出土地点あり	66
47		10	鹿田団地ガス配管埋設工事	CH11~CN22	1~1.3	0.87	中世層まで	
48		19		BT・BU11	0.5~1.8	-	2ヶ所、GL-1.22mで古代or中世層	
49		22	共同溝排水管	CQ41~42	1.5	-	1ヶ所、包含層まで	
50	2002	25	エネルギーセンター棟新営 外灯	CG41、CO34、CF43、CO38	1.47~1.66	-	4ヶ所、中世層まで	71
51		27	外溝	CV36~45	0.9~1.9	0.9	中世：井戸・柱穴・溝	
52		36	総合教育研究棟新営その他工事	BI~BS45~53	1.85~2	0.8~1	5ヶ所、中世層まで	
53		52	本部棟新営その他工事：植栽移植	DC67	1.25	-	中世層	
54		56	旧混合病棟グリーストラップ改修	BG18	1.68	-	底面で弥生~古墳層、土器	
55		5	屋外排水	BS~BZ45、CA~CO46、CO45	1.7	0.7~1	弥生中期?包含層まで、近世土坑、中世ピット多数、低地部確認	
56	2003	9	総合教育研究棟 外構工事(雨水・汚水・実験排水)	BL~BS45~53	0.8~1.75	0.7~0.9	一部弥生中期包含層まで、古墳時代溝、中世井戸、近世土坑等	74
57		10	給水配管埋設	BR~BS50~54	1.33	0.8	一部で中世層まで	
58		13	外構工事(外灯)	BR53、BL54	1.4	0.8	中世層まで	
60		3	医療構内支障ガス配管替工事	AF16、AF~AJ17、AJ9~16	1~1.9	0.7~0.8	接続部：近世・近代水田層、中世畦畔、弥生~古墳河道(砂層)	
61	2004	5	医療構内支障給水管配管替工事	AE4~16、AF~AI16、AI9~15、AJ~AO9	0.9~1.9	0.85	樹：中世?~近代畦畔、弥生~古墳河道(砂層)	81
62	2005	3	医学部変電所ピット周辺高圧ケーブル設置工事	DH~DJ18、DJ19	1.1~2.5	0.7~1.1	一部で弥生~近代層	83
63	2006	6	エネルギーセンター棟新営に伴う工事	CT~CU45	2.5	0.9	鹿田第12次調査地点と重複	88
67		4	基幹環境整備(道路等)工事	CC13~20、CD13~20	1.2~2.2	0.9~1.2	基盤層まで、中世：東西・南北溝	
68		5	中診棟屋上防水改修その他工事	AS03~07、AV~AX07、AY~BB09	0.6~0.9 1.4、1.8	0.7	古墳時代南北溝、中世東西溝	
69		7	中央診療棟新営：ガス管切断工事	BT11	1.28	0.5	中世溝	
70	2007	10	基幹整備(電気設備)工事	CO42、CV36	1.3~1.65	1.3	中世層まで、遺構	92
71		11	ガス配管1	CG08、CF09・10、CG・CH1、CI11	0.85~1.3	0.9	中世：井戸(or墓)・ピット・溝	
72		17	環境整備(道路等)工事 ガス配管2	CL12、CM13、CN14・15	1~1.2	0.4	中世層、中世遺構	
73		27	総合研究棟(医学系)新営その他工事	BT・BU65	1.35	1	中世層	
74		28	用水路改修工事	CJ7~CP12	1.7~2.0	0.6~0.8	包含層及び枝川東側に微高地	
75		30	高エネルギー治療室改修工事	BE33	1.4	0.6~0.7	中世~近代：畦畔・溝、弥生後期土器	
77		5	基幹整備(西病棟とりこわし他)工事 現場打ち排水樹	BT24~25	0.98~1.4	0.7	弥生基盤層まで	
78		6	ライトコート工事	BQ24、BR24	0.75	0.5	湿地性堆積層	
79	2008	7	基礎医学棟一部とりこわしに伴う支障ガス配管移設工事	AO53~54、AL54~AO54、AL54~61、AL62~AP65	0.76~1.0	0.5	近世層まで、土坑2基	95
83	2009	3	鹿田遺跡第20次A調査矢板打ち	CB30、CB40	0.8~0.9	0.7	中世層まで	102
90		6	高精度放射線治療棟屋外排水工事	BH32~35、BI~BL35	0.75~0.9	0.6	中~近世の遺構?	
91	2010	7	中央診療棟新営：アース極設置工事	BR14~16・19・22	0.9~1.8	1.1	包含層	105
92		17	外灯整備工事：研究棟南駐車場	BY46~50	1.2	1.2	遺構埋土?	
93		22	保育所改修工事	CV~CY28・29	1.6	1.15	弥生基盤層まで	
95	2011	4	立体駐車場新営<配管>	CN45~49、CO~DF49、CW~DD44、DD45、DD~DF46、DF~DG47~49	0.7~2.38	0.55~1	弥生時代土坑、古代土坑、中世溝、近世土坑・溝・畦畔	107
98		8	グラウンド防球ネット設置	CL~DF57	2	1	オーガ掘削	
99	2012	9	医菌薬融合棟支障配管 ポンプ槽(南)	BL~BM58	2	1.2	中世溝・土坑?、弥生基盤層まで	111
100		13	講義実習棟改修 検水槽	BU~BV66	1.6	1.1	中世以前(灰茶褐色砂質土)まで	
102		3	浄化槽撤去	BM57・58	3.6	1.1	弥生基盤層以下まで	
103	2013	4	医菌薬融合型教育研究拠点施設新営 共同溝撤去	BE65	2.3	1.1	弥生基盤層まで	116
104		5	ボイラー撤去	BH・BI66~68	3.9	1.1	弥生基盤層以下まで	
105		6	重油タンク撤去	BC67・68	3.5	1.1	弥生基盤層以下まで	

総合 番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献		
106		7	煙突撤去	BJ・BK69	4.9	1.1	弥生基盤層以下まで			
107		8	工事前電気引き込み	AV68	2	1	中世層(?)確認			
108		9a	排水配管(A工区)	AD~AH66・67	2.45~2.68	1.2~1.65	古代河道、中世~近代層、近世溝			
109		9b	排水配管(B工区)	AI~AK67	2.2~2.45	1.6~1.65	古代河道、中世~近代層			
110		9c	排水配管(C工区)	AJ66・AK67・68・ AL~AP67・68	1.8~2.66	1.35~1.7	古代河道、中世~近代層			
111		9d	医菌薬融合型教育研究拠点 施設新営	排水配管(D工区)	AO~AT68	1.7~2.05	1.2~1.35	弥生時代後期包含層、弥生~古代砂層、古 代河道、中世~近代層		
112		9e		排水配管(E工区)	AS~AW68	1.45~1.9	0.7~0.75	弥生層、弥生ピット、弥生土器片出土、弥 生~古代砂層、近代層		
113		9f		排水配管(F工区)	AU・AX~AZ68、 AX・AZ~BB69	1.33~1.84	0.7~0.75	弥生層、弥生~古代砂層、中世~近代層		
114	2013	9g		排水配管(G工区)	BC66~70、 BD61・63・64、 BE60~63	0.88~1.5	0.89~1.15	中世~近代層、近世土坑	116	
115		11		給水管	AL53	1.5	0.8	中世?~近代層確認		
116		12	Jホール新営	給排水管路	AL53~62、 AK・AI62~67	0.65~1.85	1.3	中世~近代層確認		
117		19	臨床研究棟改修	電気配管(アース)3ヶ 所	BJ・BK43	1.64~1.73	0.6~0.71	古墳?・中世・近世層確認		
118		26a		排水配管(A工区)	AD40	2	1.3	中世層、近世土坑		
119		26b	図書館・学生支援センター 改修	排水配管(B工区)	AD・AE39・40	1.75	1.5	中世~近代層、河道?		
120		26c		排水配管(C工区)	AF40~42	1.52~1.63	1.06~1.2	中世~近代層確認		
121		30		給水・消火管	AU~AW40~42	1.4	0.8	中世?~近代層確認		
122		32a	中診Ⅱ期発掘調査に伴う支 障物撤去	排水配管(A工区)	BZ~CC42、 BX・BY43	1.1~1.45	0.85~1	中世~近代層、近世土坑・畦畔		
123		32c		排水配管(C工区)	BT35	2.3	1.1	中世~近代層、中世溝		
126		6		雨水排水樹	CC58	1.4	0.9	中世溝、近世近代層		
127		11	動物実験施設改修	機械設備樹	CJ58	1.8	1.1	弥生~古墳層まで掘削、中世土坑		
128		15	医菌薬融合型教育研究拠点 施設新営	排水樹①	BB69	1.6	0.7	中世~近世近代層	121	
129		19		カーブミラー基礎	BL70	1.3	0.8			
130		24	グラウンド復旧工事	防球ネット移設	CP~DF68	2.1	1.1~1.2	オーガ掘削、1ヶ所で貝層確認(GL~約1.6 m)		
131		11		外灯1	BA21	1.3	0.75	中世溝、弥生後期の包含層確認	124	
132		13		外灯3	BF11	1.3	0.8~1.05	中世井戸2基・溝1条確認		
133		14	旧混合病棟とりこわし他工 事	外灯4	AY・AZ08	1.3	0.5~0.6	中世ピット12基・溝2条確認。弥生後期包 含層確認。	124	
134		15		バリカー1	BG10	0.9	0.75	近世溝または河道確認		
135		16		バリカー2	BG09	0.9	0.65	近世土坑1基・溝1条確認		
136		17		バリカー3	BG09	0.9	0.7	近世溝または河道確認		
137		20	臨床講義棟改修工事	給排水	BV40~BW41	1	0.6	中世層確認		
138		2	中央診療棟新営	管路	CA44	1.15	1.05	中世層確認		
139		7		管路1	AD63~65	2.3	1.6	古代河道堆積砂まで確認		
140	2016	8	旧生化学棟改修工事	管路2	AF62~65、 AD・AE66	1.7~2.3	1.5~1.7	古代河道堆積砂まで確認	128	
141		9		管路3	AI61~67	1.95	1.6	中世層まで確認		
143	2017	4	自家発電	ガス配管	CM43~CO46	1.2	1~1.1	中世層確認	134	
145	2018	2	防球ネット移設		CL~DF57	2.0	0.9	貝類混じる地点1ヶ所あり	138	
147		2-1	トリアージスペース整備	地盤改良	AS03~AV09	0.85~ 0.95・1.25	0.6	近代~中世層確認		
		2-3		給排水・ガス配管		0.77~1.7	0.23	近代~中世層確認		
148		3-2	旧生化学棟改修	排水中継槽	AD59	2.13	1.5	古代河道確認		
149	2021	4-1	先端治療・臨床研究セン ター	排水・ガ ス盛替	既存地中梁周囲 西側管路	BP38~CD42	2.00	1.0	近代~弥生時代以前の基盤層確認	148
		4-2		西外構①		0.87~1.27	0.57~0.96	近代~中世層確認		
		5-1		西外構②	AU・AV22	1.27	0.93	近代~中世層確認		
150		5-4	歯学部改修	北外構②	AK・AL13	2.20	-	GL-2.12mで明橙色粗砂(古代~中世河道 埋土)		

<東山地区>

総合 番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献
1	1983	-	附属中学校新営	-	4.0~5.0	-	シルト層中	1
2	1997	29	附属小・中学校他開障改修工事	-	1.2	0.79	GL-1.1mで近世水田層、溝1条	50

<三朝地区：福呂遺跡>

総合 番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土厚 (m)	概要	文献
4	1997	18	実験研究棟新営に伴う電気埋設管路工事	-	1	-	GL-1.0mで中世包含層は東に向かい上昇	50

付表3 埋蔵文化財調査室刊行物

番号	名	称	発行年月日
1	岡山大学構内遺跡調査研究年報1	1983年度	1985年2月
2	岡山大学構内遺跡調査研究年報2	1984年度	1985年3月
3	岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査	岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第1集	1985年5月
4	岡山大学津島地区構内遺跡発掘調査報告Ⅱ(農学部構内BH13区他)	岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第2冊	1986年3月
5	岡山大学構内遺跡調査研究年報3	1985年度	1987年3月
6	岡山大学構内遺跡調査研究年報4	1986年度	1987年10月

付表4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物

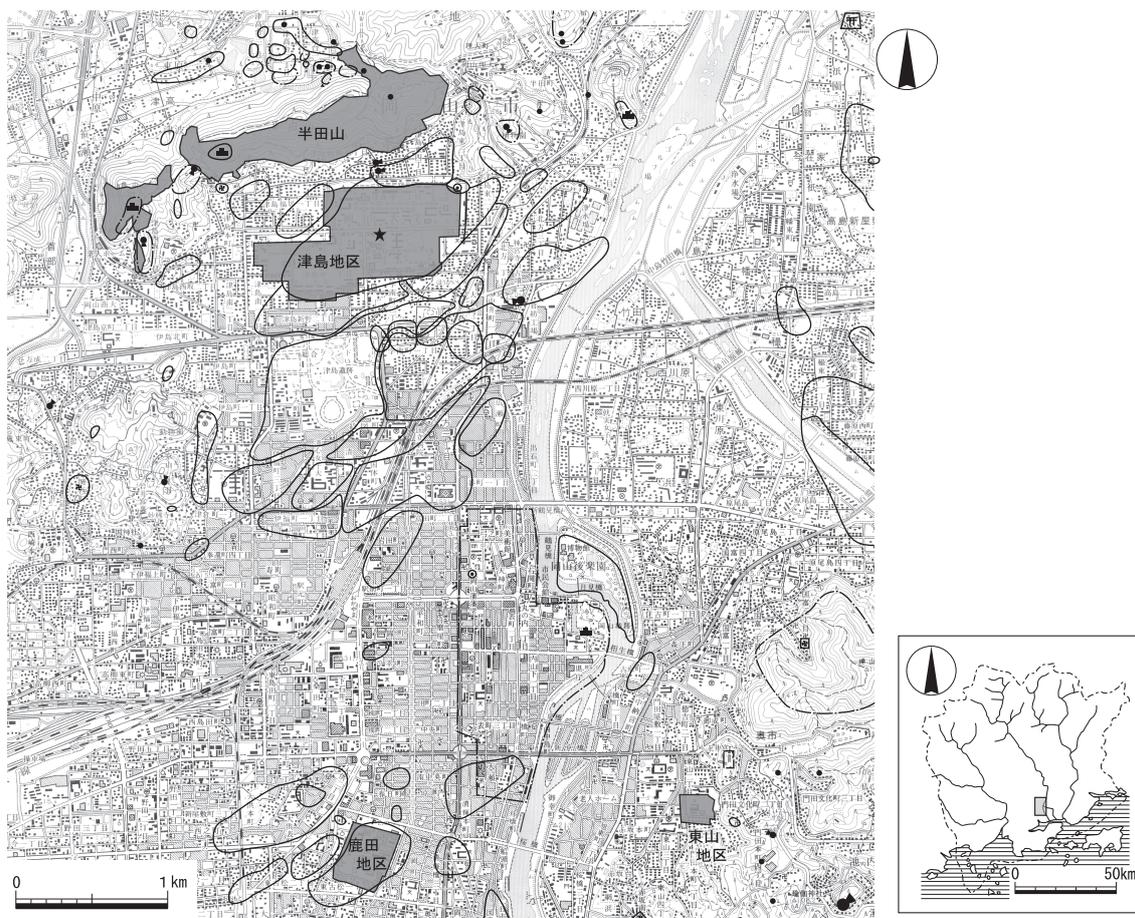
番号	名	称	発行年月日
7	鹿田遺跡Ⅰ	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊(鹿田遺跡第1次・2次調査)	1988年3月
8	岡山大学構内遺跡調査研究年報5	1987年度	1988年10月
9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第1号	1988年10月
10	鹿田遺跡Ⅱ	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第4冊(鹿田遺跡第3次・4次調査)	1990年3月
11	岡山大学構内遺跡調査研究年報6	1988年度	1989年10月
12	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第2号	1989年8月
13	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第3号	1990年2月
14	岡山大学構内遺跡調査研究年報7	1989年度	1990年11月
15	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第4号	1990年7月
16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第5号	1991年3月
17	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第6号	1991年8月
18	岡山大学構内遺跡調査研究年報8	1990年度	1991年12月
19	津島岡大遺跡3	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊(津島岡大遺跡第3次調査)	1992年3月
20	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第7号	1992年3月
21	岡山大学構内遺跡調査研究年報9	1991年度	1992年12月
22	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第8号	1992年8月
23	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第9号	1993年3月
24	鹿田遺跡3	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊(鹿田遺跡第5次調査)	1993年3月
25	岡山大学構内遺跡調査研究年報10	1992年度	1993年12月
26	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第10号	1993年11月
27	津島岡大遺跡4	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第7冊(津島岡大遺跡第5次調査)	1994年3月
28	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第11号	1994年3月
29	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第12号	1994年10月
30	岡山大学構内遺跡調査研究年報11	1993年度	1995年2月
31	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第13号	1995年3月
32	津島岡大遺跡5	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第8冊(津島岡大遺跡第8次調査)	1995年3月
33	岡山大学構内遺跡調査研究年報12	1994年度	1995年12月
34	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第14号	1995年10月
35	津島岡大遺跡6	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊(津島岡大遺跡第6次・7次調査)	1995年12月
36	津島岡大遺跡7	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第10冊(津島岡大遺跡第11次調査)	1996年2月
37	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第15号	1996年3月
38	岡山大学構内遺跡調査研究年報13	1995年度	1996年10月
39	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第16号	1996年10月
40	鹿田遺跡4	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第11冊(鹿田遺跡第6次調査)	1997年3月
41	津島岡大遺跡8	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第12冊(津島岡大遺跡第13次調査)	1997年3月
42	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第17号	1997年3月
43	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第18号	1997年9月
44	岡山大学構内遺跡調査研究年報14	1996年度	1997年11月
45	今、よみがえる古代	岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの10年	1997年11月
46	津島岡大遺跡9	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第13冊(津島岡大遺跡第14次調査)	1997年12月
47	津島岡大遺跡10	岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊(津島岡大遺跡第9次調査)	1998年3月
48	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第19号	1998年3月
49	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報	第20号	1998年10月
50	岡山大学構内遺跡調査研究年報15	1997年度	1999年1月

番号	名	称	発行年月日
51	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第21号		1999年3月
52	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第22号		1999年9月
53	岡山大学構内遺跡調査研究年報 16 1998年度		2000年1月
54	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第23号		2000年3月
55	福呂遺跡Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊 (福呂遺跡第1次・2次調査)		2000年3月
56	岡山大学構内遺跡調査研究年報 17 1999年度		2000年8月
57	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第24号		2000年9月
58	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価・外部評価報告書		2000年12月
59	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第25号		2001年3月
60	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第26号		2001年8月
61	岡山大学構内遺跡調査研究年報 18 2000年度		2001年10月
62	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第27号		2002年3月
63	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第28号		2002年9月
64	津島岡大遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第16冊 (津島岡大遺跡第10次・12次調査)		2003年3月
65	津島岡大遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第17冊 (津島岡大遺跡第19次・21次調査)		2003年3月
66	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2001		2003年3月
67	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第29号		2003年3月
68	津島岡大遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第18冊 (津島岡大遺跡第27次調査)		2003年5月
69	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第30号		2003年8月
70	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第31号		2004年2月
71	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2002		2004年3月
72	津島岡大遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第19冊 (津島岡大遺跡第15次調査)		2004年3月
73	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第32号		2004年9月
74	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2003		2004年12月
75	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第33号		2005年3月
76	津島岡大遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第20冊 (津島岡大遺跡第26次調査)		2005年3月
77	津島岡大遺跡16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第21冊 (津島岡大遺跡第17次・22次調査)		2005年3月
78	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第34号		2005年10月
79	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第35号		2006年3月
80	津島岡大遺跡17 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第22冊 (津島岡大遺跡第23次・24次調査)		2006年3月
81	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2004		2006年3月
82	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第36号		2006年10月
83	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2005		2007年3月
84	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第37号		2007年3月
85	鹿田遺跡5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第23冊 (鹿田遺跡第7次・8次調査)		2007年3月
86	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第38号		2007年10月
87	津島岡大遺跡18 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第24冊 (津島岡大遺跡第28次調査)		2008年3月
88	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2006		2008年3月
89	岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの20年 - 自然と人間、地中に埋もれた命の対話 -		2008年3月
90	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第39号		2008年3月
91	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第40号		2008年9月
92	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2007		2008年12月
93	津島岡大遺跡19 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第25冊 (津島岡大遺跡第30次調査)		2009年3月
94	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第41号		2009年3月
95	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2008		2010年2月
96	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第42号		2010年2月
97	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第43号		2010年3月
98	鹿田遺跡6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第26冊 (鹿田遺跡第13次・15次調査)		2010年8月
99	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第44号		2010年12月
100	津島岡大遺跡20 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第27冊 (津島岡大遺跡第32次調査)		2011年3月
101	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第45号		2011年3月
102	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2009		2011年3月
103	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第46号		2011年11月
104	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第47号		2012年3月
105	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2010		2012年3月

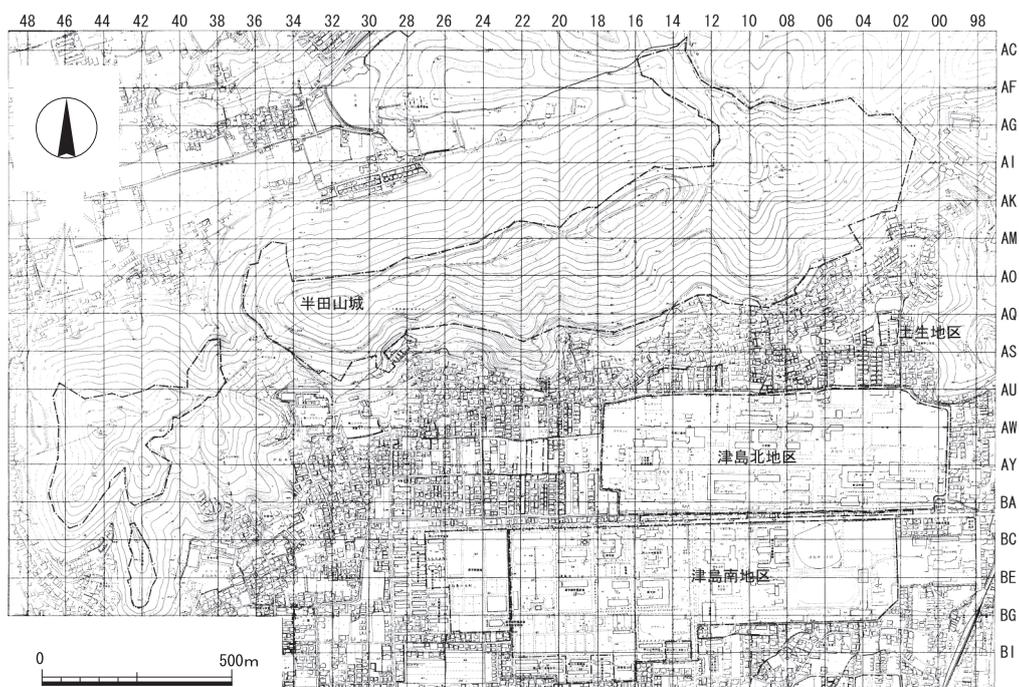
番号	名	称	発行年月日
106	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第48号		2012年9月
107	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2011		2013年1月
108	鹿田遺跡7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第28冊 (鹿田遺跡第10次、18次調査B・C地点)		2013年3月
109	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第49号		2013年3月
110	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第50号		2013年10月
111	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2012		2013年12月
112	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第51号		2013年12月
113	鹿田遺跡8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第29冊 (鹿田遺跡第14次調査)		2014年3月
114	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第52号		2014年12月
115	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第53号		2015年3月
116	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2013		2015年3月
117	津島岡大遺跡21 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第30冊 (津島岡大遺跡第33次調査)		2015年3月
118	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第54号		2015年10月
119	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第55号		2016年2月
120	鹿田遺跡9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第31冊 (鹿田遺跡第23次調査)		2016年2月
121	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2014		2016年3月
122	吉備の弥生時代		2016年3月
123	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第56号		2016年12月
124	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2015		2017年3月
125	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第57号		2017年3月
126	鹿田遺跡10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊 (鹿田遺跡第9・11次調査)		2017年3月
127	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第58号		2017年10月
128	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第59号		2018年1月
129	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2016		2018年2月
130	鹿田遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第33冊 (鹿田遺跡第24次調査)		2018年3月
131	鹿田遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第34冊 (鹿田遺跡第20A・25次調査)		2018年3月
132	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第60号		2018年8月
133	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第61号		2019年3月
134	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2017		2019年3月
135	鹿田遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第35冊 (鹿田遺跡第26次調査)		2019年3月
136	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第62号		2019年12月
137	鹿田遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第36冊 (鹿田遺跡第17次調査)		2020年3月
138	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2018		2020年3月
139	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第63号		2020年3月
140	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第64号		2020年11月
141	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2019		2021年3月
142	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第65号		2021年3月
143	鹿田遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第37冊 (鹿田遺跡第12・27次調査)		2021年3月
144	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第66号		2021年10月
145	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2020		2021年10月
146	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第67号		2022年3月
147	鹿田遺跡16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告38冊 (鹿田遺跡第20次B・D地点)		2022年3月

付表5 文化遺産マネジメント部門刊行物

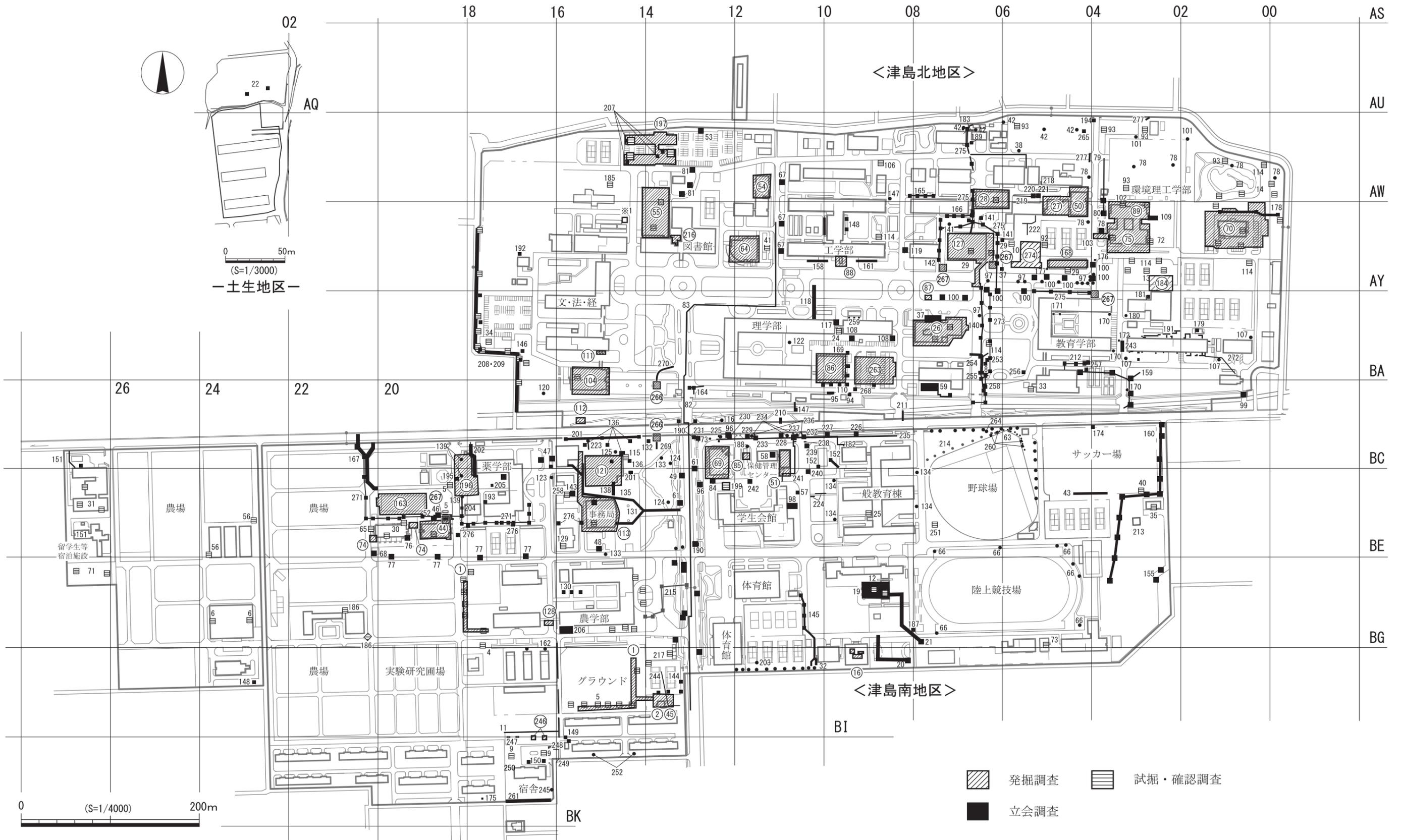
番号	名	称	発行年月日
148	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2021		2022年11月
149	津島岡大遺跡22 岡山大学構内遺跡発掘調査報告39冊 (津島岡大遺跡第39次調査)		2023年1月



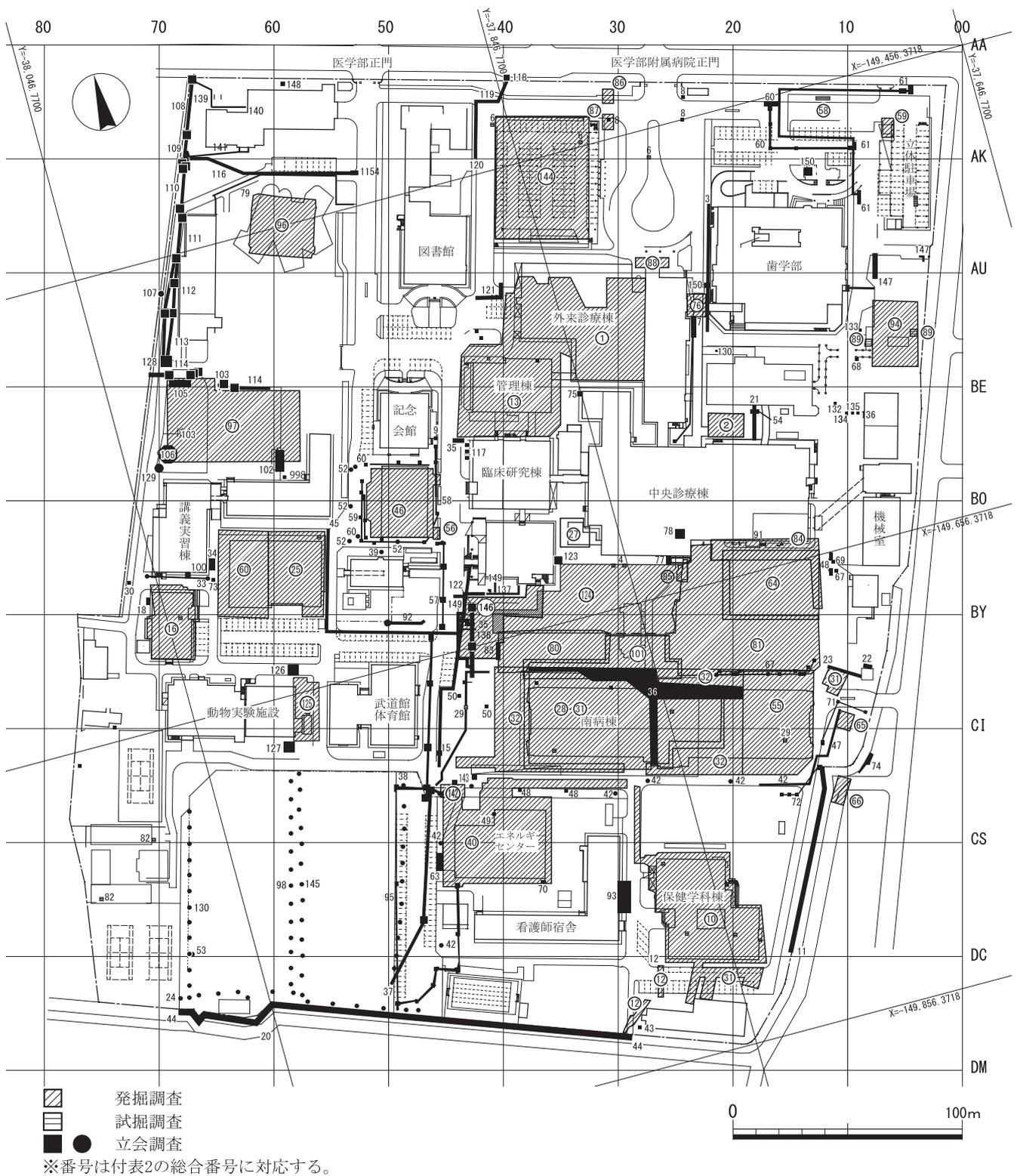
付図1 岡山大学の位置と周辺の遺跡分布 (縮尺1/50,000・1/3,750,000)



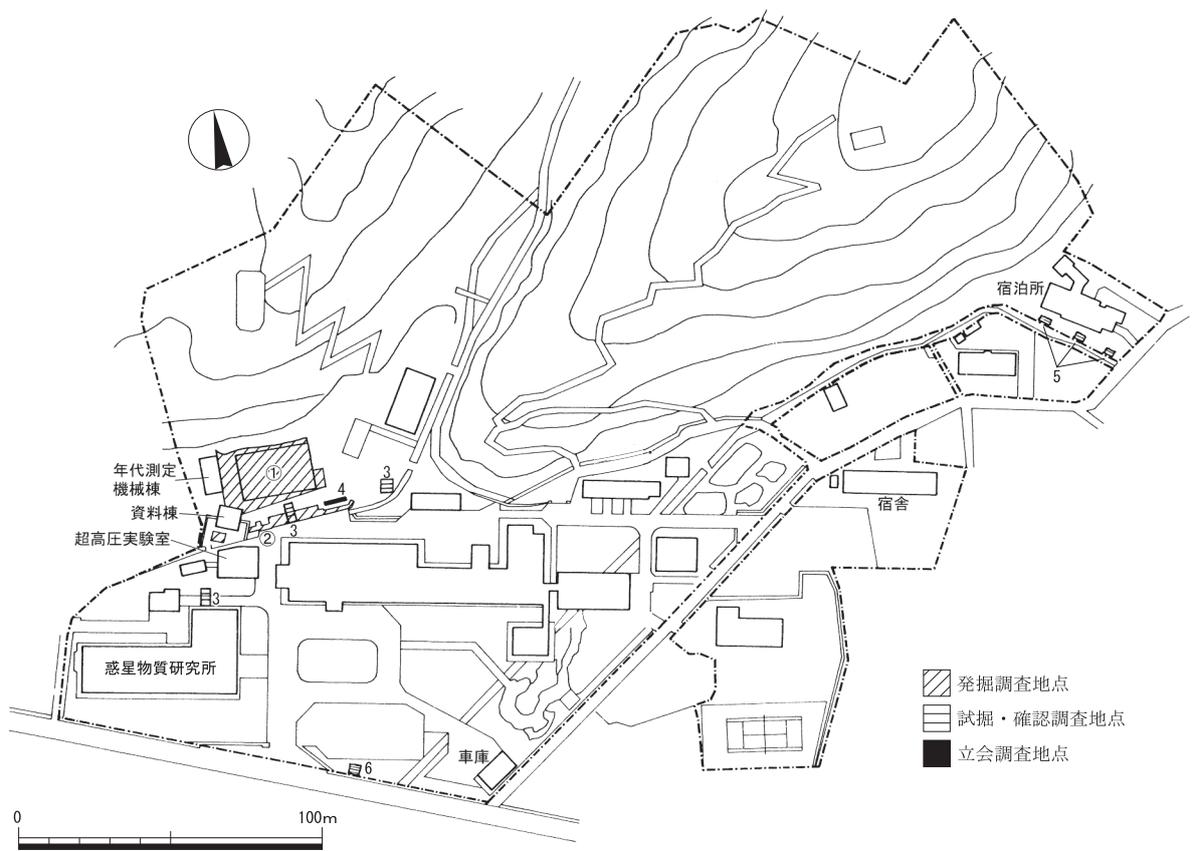
付図2 津島地区全体図 (縮尺1/20,000)



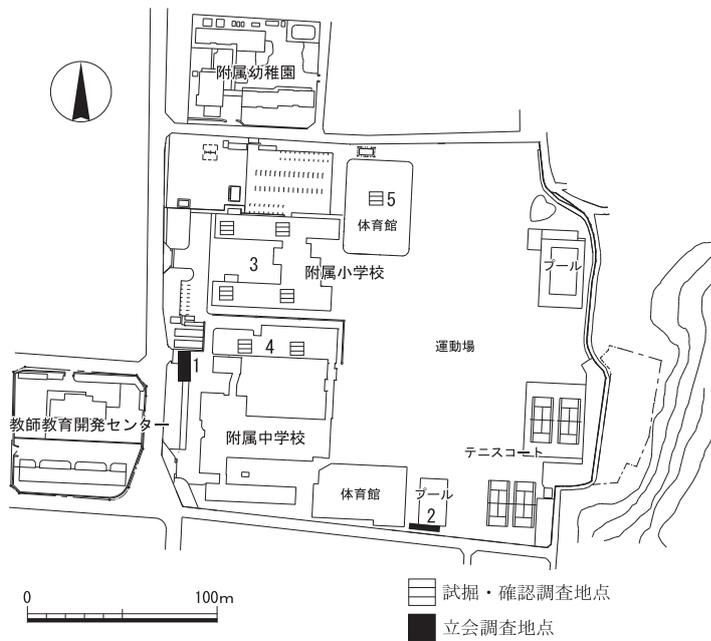
付図3 2021年度以前の調査地点【1】—津島地区— (縮尺 津島地区：1/4,000・土生地区：1/3,000) ※番号は付表2の総合番号に対応する。



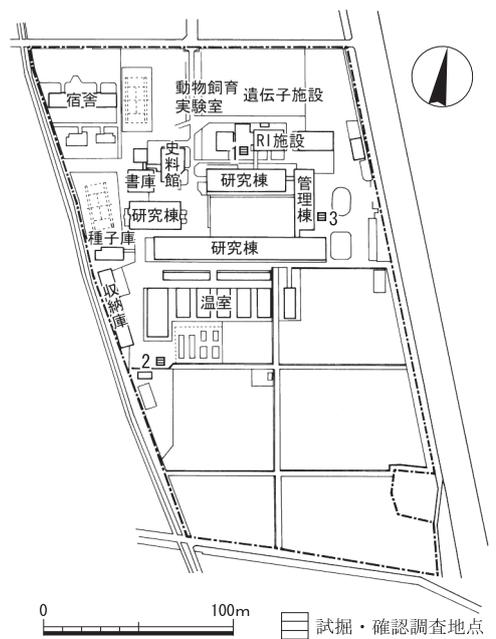
付図4 2021年度以前の調査地点【2】—鹿田地区— (縮尺1/2,500)



付図5 2021年度以前の調査地点【3】
—三朝地区— (縮尺1/2,500)



付図6 2021年度以前の調査地点【4】
—東山地区— (縮尺1/4,000)



付図7 2021年度以前の調査地点【5】
—倉敷地区— (縮尺1/4,000)

Copyright©Cultural Heritage Management Division,
Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University
Printed in Okayama, Japan

2024年2月15日 印刷
2024年2月15日 発行

岡山大学文明動態学研究所
文化遺産マネジメント部門紀要
2022

編集・発行 岡山大学文明動態学研究所
文化遺産マネジメント部門
岡山市北区津島中三丁目1番1号
(086) 251-7290
印刷 友野印刷株式会社



BULLETIN of
Cultural Heritage Management Division
Research Institute for the Dynamics of Civilizations
Okayama University
2022